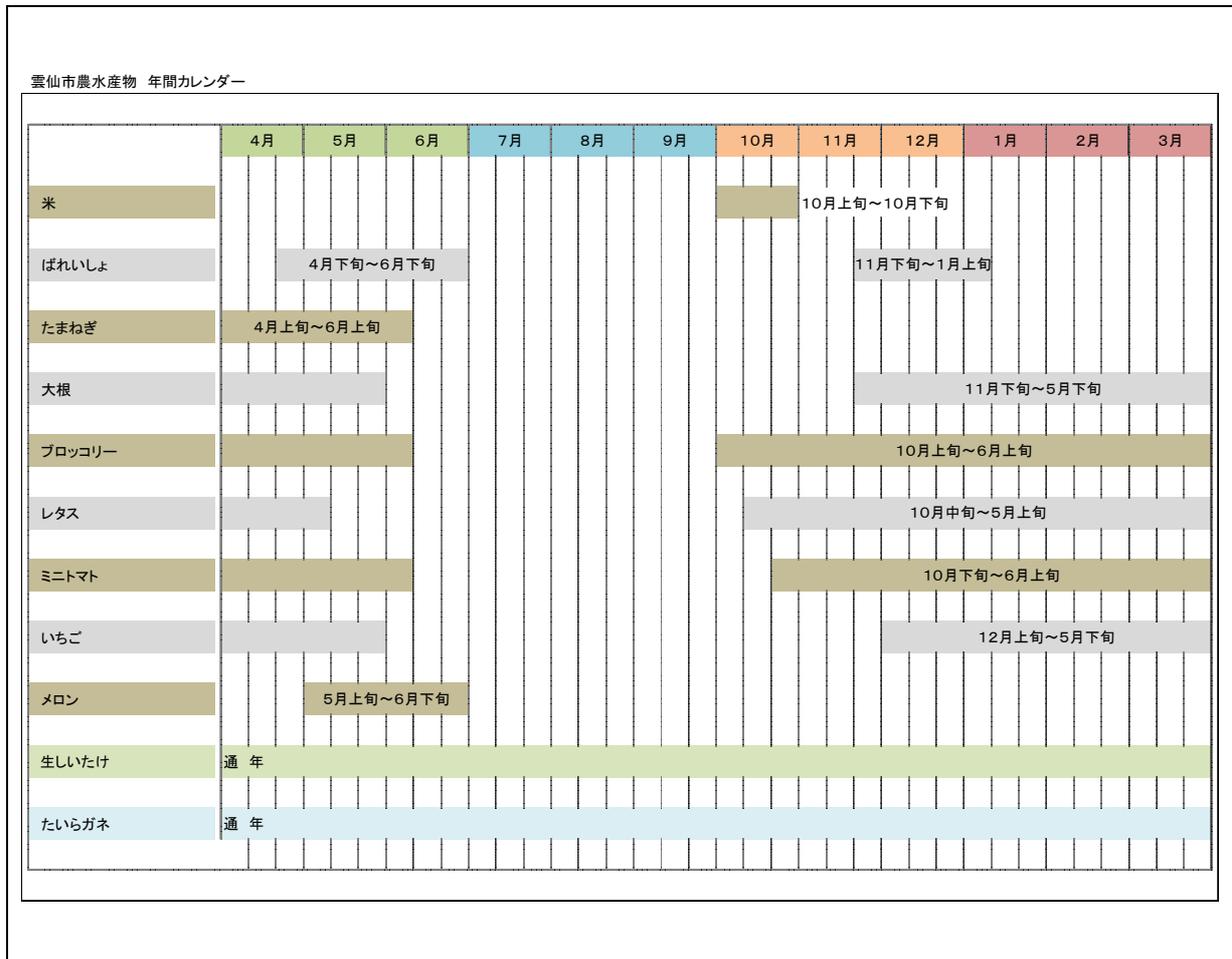


資料編

目 次

1. 雲仙市農林水産物	1
2. 雲仙ブランド認定農畜水産物及び加工品	5
3. 林業統計資料	13
4. 意向調査結果	15
1) 目的	15
2) 調査対象	15
3) 調査項目	15
4) 調査方法	17
5) 回収状況	17
6) 調査結果	18
5. 雲仙市農林水産業の課題整理	128

1. 雲仙市農林水産物



①農産物

<p>米</p> 	<p>【主な産地】 吾妻町、瑞穂町、千々石町 【収穫時期】 10月上旬～10月下旬</p> <p>○特別栽培米「にこまる」は、「米の食味ランキング」で5年連続特A評価を受けています。 ○豊富で良質な水によって栽培されている棚田米などがあります。 ○米粉を利用したスイーツなども出てきています。</p>
<p>ばれいしょ</p> 	<p>【主な産地】 愛野町、千々石町、小浜町、南串山町 【収穫時期】 (春) 4月下旬～6月下旬 (秋) 11月下旬～1月上旬</p> <p>○本市は、全国有数の産地です。 ○特に、南西部地域で春作・秋作の2期作で生産しています。 ○新品種「さんじゅう丸」は、品質・食味が良く、煮くずれしにくいのが特徴です。</p>
<p>だいこん</p> 	<p>【主な産地】 国見町 【収穫時期】 11月下旬～5月下旬</p> <p>○国見地域を含む島原半島北部は、全国でも有数の産地です。 ○土壌分析に基づく生育管理を徹底しています ○収穫作業の共同化などにより、産地面積の拡大にも取り組んでいます。</p>
<p>たまねぎ</p> 	<p>【主な産地】 吾妻町、愛野町、千々石町、小浜町、南串山町 【収穫時期】 4月上旬～6月上旬</p> <p>○市内全域で生産されています。 ○主に南西部において「極早生」から「晩生」まで長期間出荷しています。 ○加工用たまねぎの生産も増えており、消費者のニーズにあった取り組みも行われています。</p>
<p>ブロッコリー</p> 	<p>【主な産地】 吾妻町 【収穫時期】 10月上旬～6月上旬</p> <p>○主に吾妻地域で生産されています。 ○全量共同選別を行い、品質の安定を行っています。 ○氷詰め出荷の導入により、長距離輸送でも鮮度保持が可能となり、栽培面積もさらに拡大しています。</p>

レタス 	【主な産地】 南串山町 【収穫時期】 10月中旬～5月上旬
	○主に南串山地域で生産されています。 ○保冷施設の整備や選果施設から直接量販センターへ搬送するなど、鮮度重視の取り組みを行っています。 ○シャキシャキとした食感とみずみずしさが特徴です。

ミニトマト 	【主な産地】 吾妻町、千々石町 【収穫時期】 10月下旬～6月上旬
	○主に千々石地域で生産されています。 ○舌触りのよい食感と糖度の高さが特徴です。 ○安定生産と安定供給のために、産地面積の拡大にも取り組んでいます。

いちご 	【主な産地】 国見町、瑞穂町 【収穫時期】 12月上旬～5月下旬
	○「さちのか」を中心に、市内全域で生産されています。 ○特に北部地域は、全国でも有数の産地です。 ○新品種「ゆめのか」は、ジューシーな果肉で糖度と酸度のバランスが良い食味です。

メロン 	【主な産地】 国見町、瑞穂町 【収穫時期】 5月上旬～6月下旬
	○瑞穂地域を中心に生産されています。 ○アムスメロンは、糖度が高く品質も安定しているのが特徴です。 ○毎年開催されている「瑞穂特産品まつり」では、長蛇の列ができるほど人気が高いです。

本市は、野菜の生産が盛んで、野菜生産出荷安定法の規定に基づく、野菜指定産地7種の指定（平成26年5月7日現在）を受けています

種別名	野菜指定産地名	区域
春だいこん	島原雲仙	全市
秋冬だいこん	島原雲仙	全市
たまねぎ	雲仙	全市（旧国見町及び、旧瑞穂町を除く）
春夏にんじん	島原雲仙	全市
冬にんじん	島原雲仙	全市
ばれいしょ	雲仙市	全市（旧国見町及び、旧瑞穂町を除く）
冬レタス	島原雲仙	全市（旧国見町、旧瑞穂町及び旧南串山町を除く）

資料：野菜指定産地告示（平成26年5月7日農林水産省告示第633号）

②特用山林物

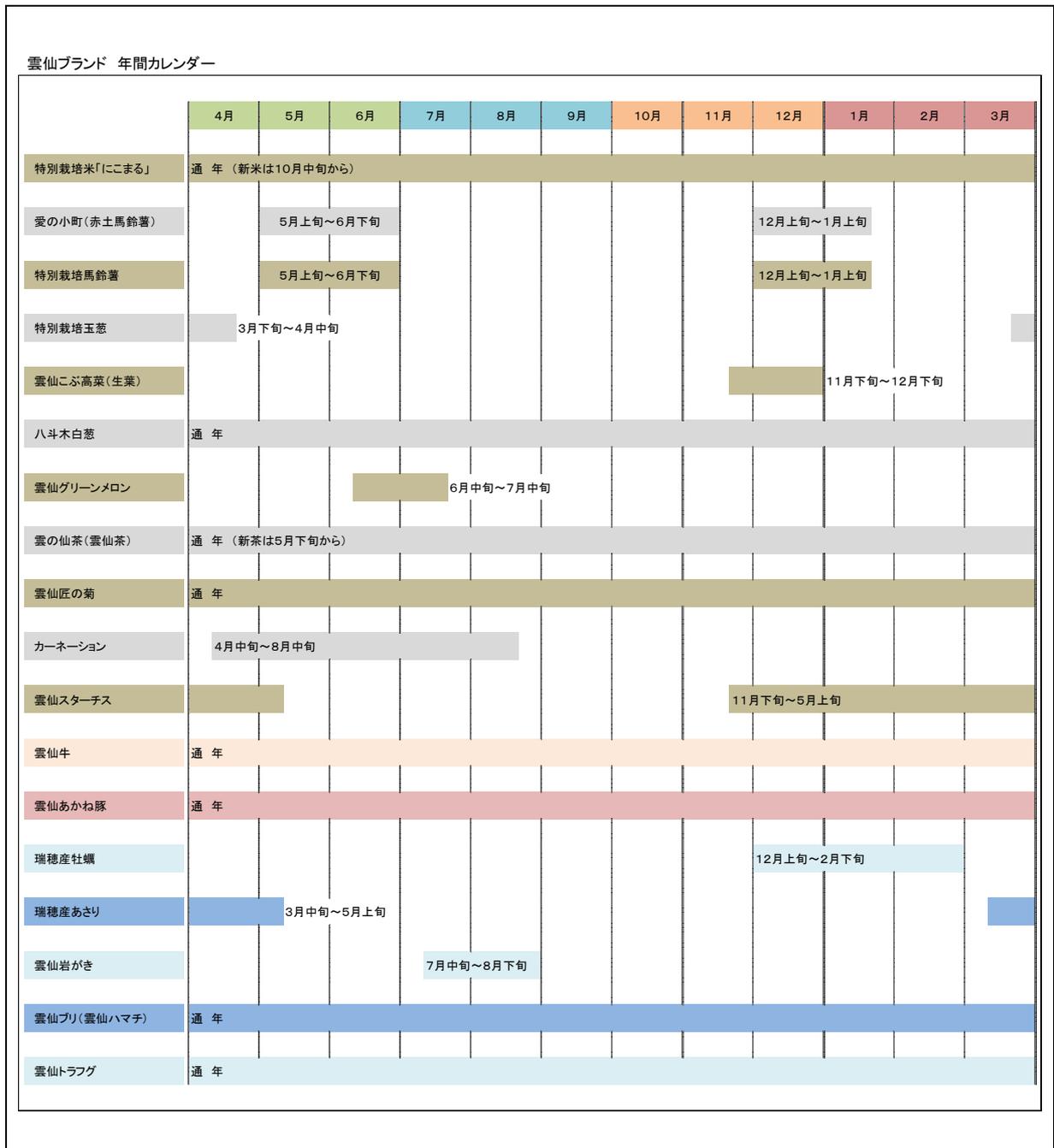
生しいたけ	【主な産地】 吾妻町
	【収穫時期】 通年 ○菌床しいたけが主流に生産されています。 ○主に吾妻地域で生産されています。 ○生産組合等による大規模な施設で生産が行われています。 ○県内最大の生産地となっています。

②水産物

たいらガネ	【主な産地】 国見町
	【収穫時期】 通年 ○たいらガネとは、「ガザミ」と呼ばれるワタリガニのことです。 ○国見町多比良港沖で捕獲されることから、地名にちなんだ名で親しまれています。 ○身が詰まった濃厚な味は昔から人気があり、一年中おいしくいただくことができます。

2. 雲仙ブランド認定農畜水産物及び加工品

本市は、市内の優良農畜水産物を県内外の消費者に対して販売・PRし、優良特産品の認知度を高め有利販売に繋げ、市の活性化を図るため、雲仙ブランドに認定しています。



①農産物

<p>特別栽培米 「にこまる」</p> 	<p>【申請者】にこまる生産組合 【出荷可能時期】通年（ただし、新米は10月中旬から）</p> <p>○平成17年度に県の奨励品種に認定され、平成18年度から本格的に栽培され始めた品種です。</p> <p>○部会員全員が特別栽培農産物認証基準で栽培することで、安心安全な米を提供しています。</p> <p>○色白でツヤツヤ、粒が大きくふっくらとした炊きあがり、粘りがありモチモチした食感、おかわりしたくなるほどです。</p> <p>○全国米の食味ランキングで最上位の特A認定を平成20年から24年の5年間連続で獲得しています。</p>
<p>愛の小町 (赤土馬鈴薯)</p> 	<p>【申請者】愛の小町生産組合 【出荷可能時期】5月上旬～6月上旬、12月上旬～1月中旬</p> <p>○肥料の減肥やミネラル分の投入等、馬鈴薯栽培に適した優良な土壌づくりを行っています。</p> <p>○客土した赤土で栽培することにより、表面が薄赤に色づくのが特徴です。</p> <p>○長崎県は、北海道に次ぐ全国有数の馬鈴薯の産地です。</p> <p>○暖地馬鈴薯の産地で育った「愛の小町」は、色、つやともに抜群で、都市部スーパーでも「ホクホクしていて煮くずれしない。美味しくヘルシー」と人気があります。</p>
<p>特別栽培馬鈴薯</p> 	<p>【申請者】小浜特別生産組合 【出荷可能時期】5月上旬～6月上旬、12月上旬～1月中旬</p> <p>○平成20年4月に県の特別栽培農産物の認証を受け、生産しています。</p> <p>○関西方面のデパートでも評判です。</p> <p>○やわらか肉質に味が良くしみこむと評判です。</p> <p>○「アイユタカ」には、通常のじゃがいもの1.5倍ものビタミンCが含まれています。</p>
<p>特別栽培玉葱</p> 	<p>【主な産地】小浜特別生産組合 【出荷可能時期】3月下旬～4月中旬</p> <p>○平成23年3月に、県の特別栽培農産物の認証を受けています。</p> <p>○化学肥料と農薬の使用量を慣行基準の1/2以下に抑えて生産した、安心安全なたまねぎです。</p> <p>○甘くてみずみずしい新たまねぎで、辛みが少なく、生のままでも美味しく食べられるのが魅力です。</p>

<p>雲仙こぶ高菜 (生葉)</p> 	<p>【申請者】雲仙市伝統野菜を守り育む会 【出荷可能時期】11月下旬～12月下旬</p> <p>○イタリアにあるスローフード協会国際本部が認定する希少食材認定制度「味の箱舟」の中でも、世界的に希少で地域活性化につながるとされる「プレシディオ」に、日本で初めて認定されました。</p> <p>※雲仙市吾妻町の畑で栽培されたものだけがプレシディオを名乗ることが出来ます。</p>
--	---

<p>八斗木白葱</p> 	<p>【申請者】島原雲仙農協 八斗木白葱生産部会 【出荷可能時期】通年</p> <p>○雲仙市は長崎県最大の深ねぎの産地です。</p> <p>○国見町の八斗木地区を中心に、長年栽培されてきた白ねぎは、県内外を問わず、人気の商品となっています。</p> <p>○大型育苗ハウスを核にした健全苗づくりで白ねぎの周年出荷体制を確立。年間を通じ安定出荷することでブランド力を高めており、県の農業賞も受賞しています。</p>
--	--

<p>雲仙 グリーンメロン</p> 	<p>【申請者】雲仙キンショウメロン部会 【出荷可能時期】6月中旬～7月中旬</p> <p>○甘みのばらつきが少ない品種である「グリーンメロン」を、部会配合の特別な栽培管理により、ネットメロンのもつ特徴を最大限に引き出したメロンです。</p> <p>○1個の大きさが2.5kg以上と大きく、見栄えが良いので贈答用としても大変人気です。</p> <p>○栽培される雲仙グリーンメロンの中でも、一定の大きさと糖度をクリアしたものを雲仙ブランドとして出荷しています。</p> <p>○果肉が柔らかく、ジューシーで香り高い、大変希少な極上のメロンです。</p>
---	---

<p>雲の仙茶 (雲仙茶)</p> 	<p>【申請者】雲仙茶生産組合 【出荷可能時期】通年(ただし、新茶は5月下旬から)</p> <p>○瑞穂地区の茶農家で生産されており、県内でも一番茶の早場地帯として確立されています。</p> <p>○雲仙市瑞穂町の標高約200mの中山間地で栽培されています。</p> <p>○その雲仙茶の中でも、一番茶、さらに全窒素量が4.9%以上の極上茶のみを雲仙ブランドとして認定しています。</p> <p>○雲仙の山々を思わせる深い緑と豊かな香りが特徴で、夏は冷茶でも楽しめます。</p>
---	--

<p>雲仙スターチス</p> 	<p>【申請者】雲仙スターチス部会 【出荷可能時期】11月下旬～5月上旬</p> <p>○雲仙地域での栽培は、完熟堆肥・有機質肥料を使用しながら土づくりを基本とし、花苗についてはメリクロン苗を使用することにより、病気にかかりにくく農薬の軽減を図っています。</p> <p>○スターチスとはリモニウムの旧属名です。</p> <p>○生花の時からドライフラワーのような感じで、乾燥させても色落ちしません。</p> <p>○寒さに強く多年草が多くあります。</p> <p>○色によって、さまざまな品種があります。</p>
--	--

<p>カーネーション</p> 	<p>【申請者】瑞穂カーネーション部会 【出荷可能時期】4月中旬～8月中旬</p> <p>○土づくりに徹底的にこだわり、他産地との差別化に取り組んでいます。</p> <p>○高品質のカーネーションとして市場からも高い評価を得ています。また、色と花持ちも良いのも魅力です。</p>
--	--

<p>雲仙匠の菊</p> 	<p>【申請者】JA島原雲仙匠の菊生産組合 【出荷可能時期】通年</p> <p>○雲仙市は県内でも有数の菊の産地として知られています。</p> <p>○生長調整剤の使用や電照方法などの先進技術を駆使し、高品質な菊を出荷する産地として市場等でも高い支持を得ています。</p> <p>○ヒートポンプの導入による暖房コストの削減、自走式防除機や自動カーテンなどの省力化対策、高規格ハウスの導入など、先駆的な取組と経営改善によって、九州トップクラスの菊生産が可能となりました。</p> <p>○生産性・出荷基準が統一されており、平成17年9月に長崎県農業賞組織活動部門で表彰された、匠の技が光る逸品です。</p>
--	---

②畜産物

<p>雲仙あかね豚</p> 	<p>【申請者】柿田元幸 【出荷可能時期】通年</p> <p>○雄大な雲仙岳のふもと、吾妻町の自然の中で橘湾に沈む夕陽を浴びながらのびのびと健康に育つ「雲仙あかね豚」。</p> <p>○新鮮なとうもろこしに、お米をブレンドしたオリジナルの飼料で育っています。</p> <p>○飼料のとうもろこしを15%米に置き換えることで、オレイン酸の割合が増え、体にも良く、臭みがない、美味しいお肉に仕上がっています。</p>
<p>雲仙牛</p> 	<p>【申請者】「雲仙牛」ブランド確立推進委員会 【出荷可能時期】通年</p> <p>○雲仙牛は長崎和牛の一翼を担うもので、「雲仙市生まれの雲仙市育ちで、3等級以上の黒毛和牛」を条件としています。</p> <p>○地域一貫生産により生産者の顔がわかる、安心安全にこだわって生産されています。</p> <p>○ミネラル豊富な資源と恵まれた環境が生んだブランド牛肉です。</p>

③水産物

<p>瑞穂産牡蠣 瑞穂産あさり</p> 	<p>【申請者】瑞穂漁業協同組合 【出荷可能時期】牡蠣：12月上旬～2月下旬 あさり：3月中旬～5月上旬</p> <p>○有明海の恵みがいっぱい詰まった瑞穂産の牡蠣・アサリは、出荷時に紫外線殺菌による滅菌作業を行うことで安全な商品を提供しています。</p> <p>○牡蠣は大型で熱を加えても小さくならず、身入り味ともに最高のものです。</p> <p>○あさりも波穏やかな有明海で育っているため、大型で身入りが良いのが特徴です。</p>
<p>雲仙岩がき</p> 	<p>【申請者】雲仙岩がき養殖部会 【出荷可能時期】7月中旬～8月下旬</p> <p>○夏場に旬を迎える岩がきは、新しい雲仙の味覚で、まさに「海のミルク」。</p> <p>○九州では養殖例が少なく、希少価値が高い海の宝石です。</p> <p>○ご自宅でお楽しみいただくだけでなく、お中元など贈り物としても人気があります。</p>
<p>雲仙ブリ (雲仙ハマチ) 雲仙トラフグ</p> 	<p>【申請者】雲仙養殖業者会 【出荷可能時期】通年</p> <p>○雲仙ブリ・トラフグは、飼料に混ぜたブドウ糖を与えることで肝機能に働きかけ、代謝を良くし、魚の旨味や肉質などの品質向上を図り、元気で安全に育っています。</p> <p>○どちらも脂が乗って美味しいと評判で、特に、ブリは全国養殖漁協会の第1位になったこともある青輝魚です。</p>

④農林水産物加工品

<p>吾妻みそ (天塩麦、麦、米、 合わせ) 吾妻納豆みそ 吾妻鉄火みそ 苺ジャム 柚子こしょう</p> 	<p>【申請者】農事法人 吾妻農産加工組合 【出荷可能時期】通年</p> <p>○商品の原料については産地がわかるもののみを使用し、添加物等は一切使用しておらず、手作りで生産しています。</p> <p>○地元では「吾妻みそ」の名称で親しまれています。</p> <p>○吾妻納豆みそは、麦、大豆、昆布、生姜の風味がなつかしいなめみそ。吾妻鉄火みそは、大豆、イリコの入ったカルシウムたっぷりのなめみそ。</p> <p>○苺ジャムは、地元でとれた新鮮な苺を粒のままの美味しいジャムに仕上げています。</p> <p>○柚子こしょうは、柚子の皮と胡椒でつくった香り豊かな胡椒。</p> <p>○地域でとれた農産物を使用し、食品添加物の入らない加工品作りを続けて 20 年以上です。</p> <p>○吾妻みそをはじめとする全 11 品は、どれも加工場で真心を込めて仕込んだものばかりです。</p>
--	--

<p>雲仙こぶ高菜漬け 雲仙手作りこんにゃく 梅干し 雲仙こぶ高菜まんじゅう</p> 	<p>【申請者】農事組合法人 守山女性部加工組合 【出荷可能時期】通年 (ただし、雲仙こぶ高菜漬けのうち、浅漬けは 11 月～ 3 月頃のみ)</p> <p>○添加物は一切使用しておらず、手作りで生産しています。</p> <p>○「雲仙こぶ高菜」はフローフード協会国際本部から希少な食材(プレシディオ)として認定されている伝統野菜で、アジアでは 6 品目の認定になります。</p> <p>※雲仙市吾妻町の畑で栽培されたものだけがプレシディオを名乗ることが出来ます。</p> <p>○収穫された素材は工場ですべて丁寧に加工され、漬物は素材を活かし、天然の塩にこだわり漬け込んであり、米料理・パスタ料理・魚料理・肉料理とさまざまな調理に使用出来ます。</p> <p>○こんにゃくは、古くから伝わる作り方にこだわり、地場の芋で加工を始めましたが、国内産の芋の粉で作るほどの売れ筋です。雲仙市産芋を摺りおろし、添加物なしの手づくりこんにゃくです。</p> <p>○梅干しは、加工組合員が自家栽培した梅と紫蘇で漬け込んでいます。</p> <p>○雲仙こぶ高菜まんじゅうは、「雲仙こぶ高菜漬け」に味付けして具にしています。平成 18 年度「食アメニティ・コンテスト優秀賞(農林水産大臣賞)」受賞商品。スローフード協会国際本部から希少な食材として認定されている伝統野菜を使っています。</p>
--	---

<p>塩の宝石</p> 	<p>【申請者】雲仙エコロ塩株式会社</p> <p>【出荷可能時期】通年</p> <p>○地元橘湾の海底深くをボーリングし、ポンプで汲みあげた海水と小浜温泉の温泉湯を混ぜ、天日干しで製造した大変珍しい塩です。</p> <p>○天日のみを利用して塩を作るとかなりの時間を要し、また火を使用した場合二酸化炭素の排出という問題を生じさせることになります。</p> <p>○塩の宝石は、小浜温泉の熱量と温泉水を利用する事により、これらの問題をクリアして計画的、効率的、時間短縮、コスト削減、そしてCO2の排出量を削減して自然塩を製造しています。</p> <p>○天日干しによりミネラル分が豊富で甘みがあり、まろやかな塩になっており料理やお菓子などに使うと温泉の炭酸成分の影響でふっくらと仕上がります。</p>
---	--

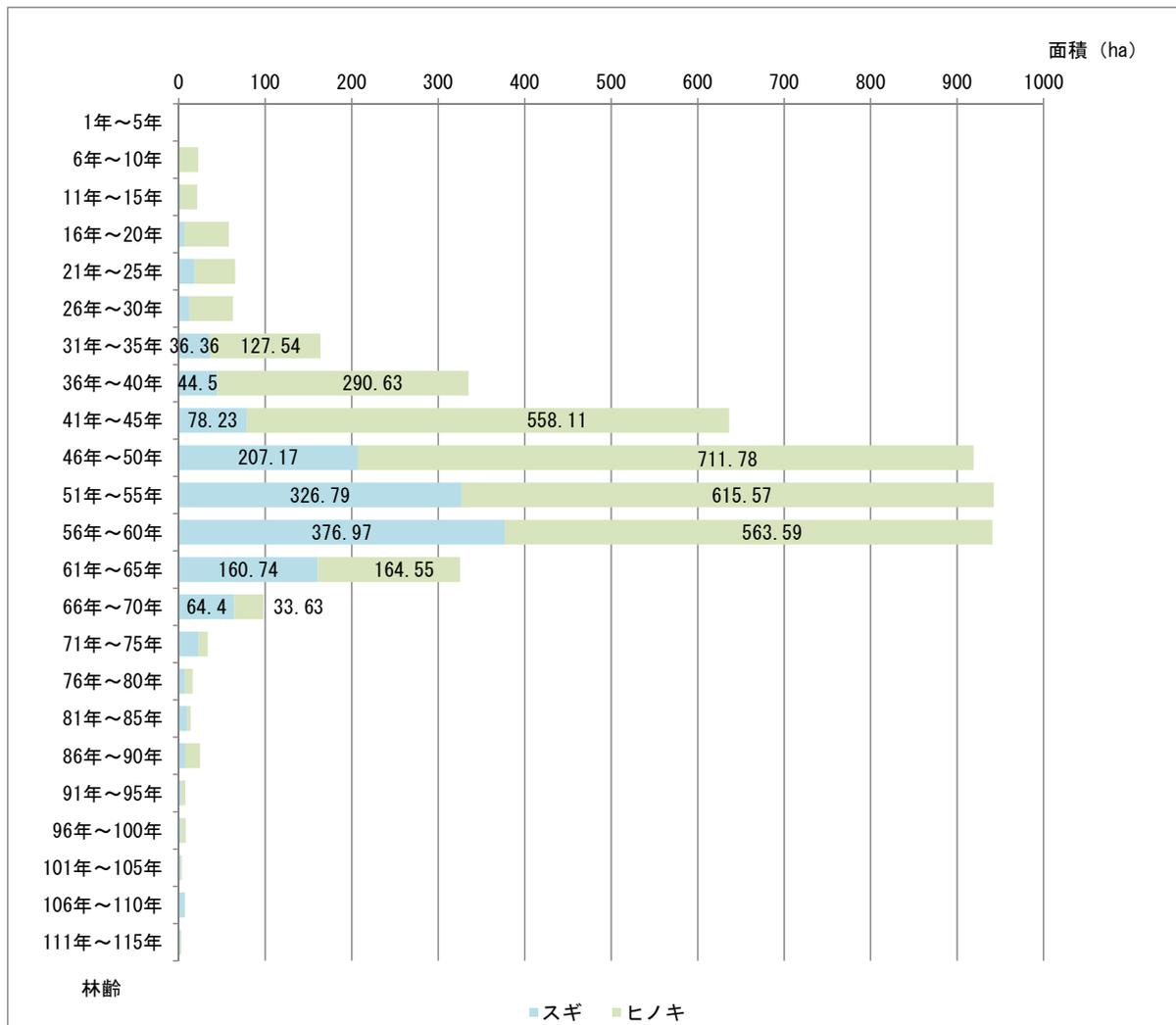
<p>雲仙まるごと ドレッシング</p> 	<p>【申請者】(資)山中商店</p> <p>【出荷可能時期】通年</p> <p>○雲仙市で収穫された柚子・ミニトマト・にんじんをまるごと搾り、オリーブオイル 100%で仕上げた”身体に優しい”素材をテーマに製造されています。</p> <p>○サラダはもちろんのこと、冷しゃぶ、パスタなど幅広くご利用いただけます。</p>
--	---

3. 林業統計資料

○スギ・ヒノキの林齢構成

本市におけるスギ・ヒノキの林齢*構成は、森林簿データ（H26年4月）によると、市内のスギ・ヒノキ林の多くは、戦後の拡大造林*期に植えられたもので、間伐*が必要な31～60年生の人工林*が全体の63%を占めています。

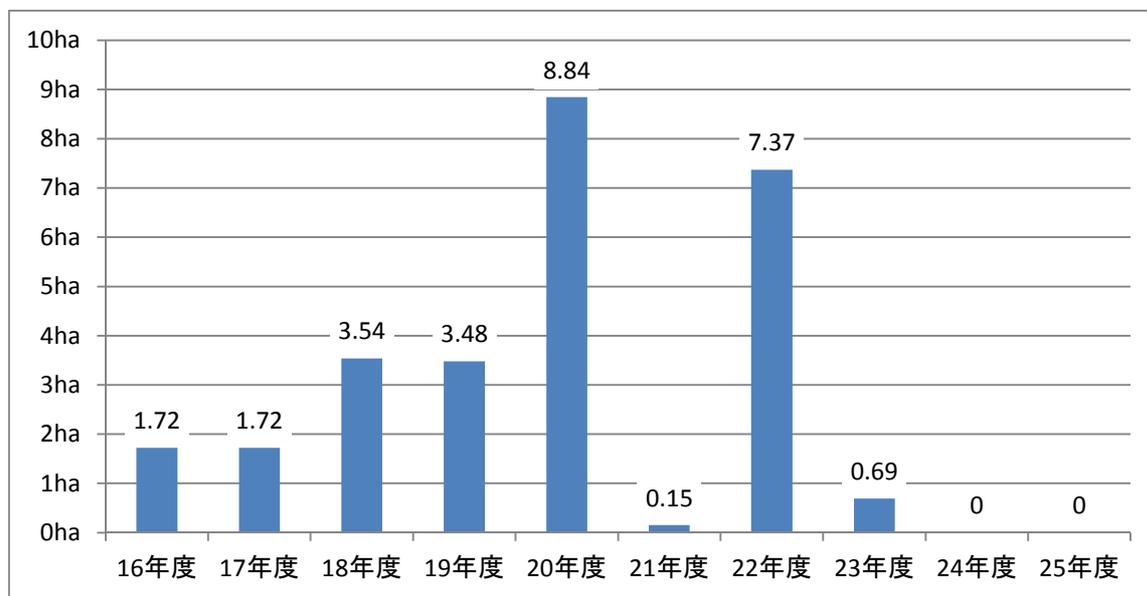
スギ・ヒノキの林齢構成



出典：森林簿

○本市における年度別植林面積

本市における植林の年度別面積は、平成23年度までは再造林が10ha未満の面積において行われてきましたが、平成24年度及び平成25年度は植林が行われていません。



出典：島原半島 森林・林業の概要

4. 意向調査結果

雲仙市農林水産業従事世帯向けアンケート調査結果

1) 目的

雲仙市の農林水産業振興を図るために、農林水産業従事世帯の意向を把握することを目的に、市内農林水産業従事世帯を対象に配布アンケート調査を実施した。

2) 調査対象

- ①標本数 1,000 世帯(認定農業者等)
- ②調査期間 平成 26 年 10 月 (配布) ～平成 26 年 10 月 (回収)

3) 調査項目

第 1 部 (調査対象者の属性)

- 回答世帯の居住地 (町名)
- 農林水産業のイメージ
- 過去 5 年間の収入傾向
- 冊子「みんなで描くキラリと光る雲仙産地」について
- 現在、経営している農林水産業の将来
- 回答者の属性
- 回答世帯員の属性
- 後継者であると回答した世帯員の属性
- 農林水産業の経営上の相談相手
- 従事している農林水産業

第 2 部 (農業従事世帯対象)

- 経営している農地面積
- 農業生産基盤の整備状況
- 野生鳥獣による農産物への被害
- 栽培および、飼育している品目
- 具体的な出荷先
- 農業経営上の悩み・問題点
- 地域農業存続の上で重要なこと
- 担い手を確保・育成するために必要なこと
- 有害鳥獣被害への対策
- 10 年後の経営耕地の規模
- おおむね 10 年後の雲仙市のあるべき農業の姿

- 地域の農業生産性向上を図るために必要な農業生産基盤整備
- 農畜産物の加工や流通など6次産業化
- 野菜のカット工場が建設・操業した場合の出荷意向
- 惣菜工場が建設・操業した場合の出荷意向
- T P Pへの参加について
- 生産者の立場から行政に期待すること

第3部（林業従事世帯対象）

- 所有する山林面積
- 山林境界の把握
- 山林に行く頻度
- 山林の間伐作業
- 更新の際に植えたい樹種
- 今後の山林の管理
- 行政に期待すること

第4部（水産業従事世帯対象）

- 所属している漁協
- 主に営んでいる漁業種類
- 漁業操業の従事人数
- 漁船の所有状況
- 所有している漁船の種類
- 所有している漁船の使用経過年数
- 漁船の更新および、漁業継続の意向
- 漁業経営上の問題点
- 水産物価格向上のための取り組み
- 漁業者を増やすために必要こと
- 漁業継続に必要なこと
- 漁業者が行政に期待すること

第5部（雲仙ブランド、連携、雲仙市農林水産業施策）

- 雲仙産農林水産物のブランド化への必要な取り組み
- 食品企業との連携および、プライベートブランドの創出とPR
- 地域の異業種との連携および、新たな製品と販路開拓
- 雲仙市の農林水産業施策について
- 農林水産業の振興策が進まない原因
- 自由意見

4) 調査方法

郵送による配布回収方式

5) 回収状況

配布票数	1,000 部	
有効配布数	933 部	
回収票数	434 部	(43.7%)

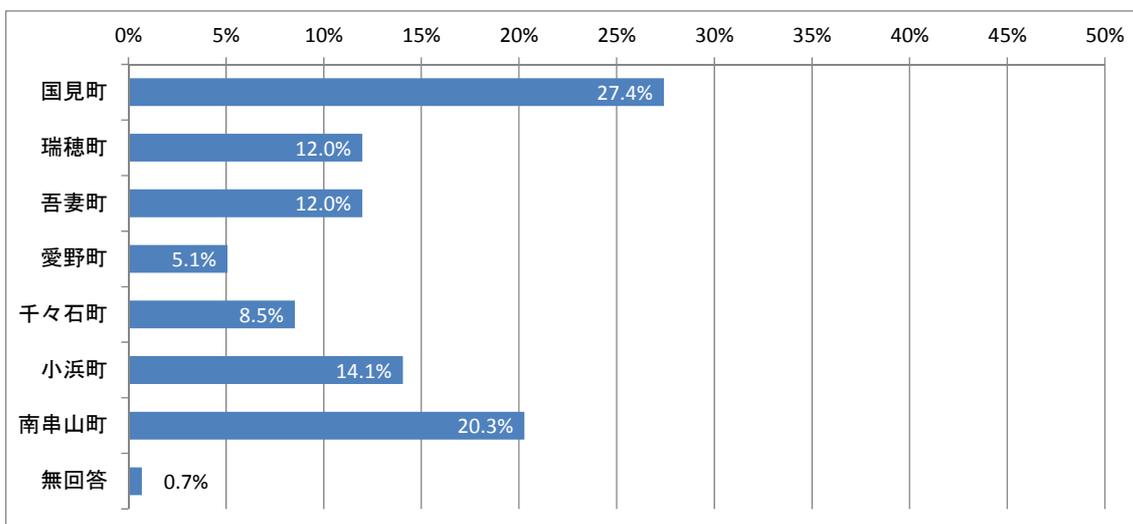
6) 調査結果

第1部 (調査対象者の属性)

問1 あなたがお住まいの町名をお答えください。

●回答世帯の居住地 (町名)

回答世帯の居住地 (町名) は、「国見町」が119戸 (27.4%) で最も多く、次いで、「南串山町」が88戸 (20.3%)、「小浜町」が61戸 (14.1%)、「瑞穂町」と「吾妻町」がともに52戸 (12.0%)、「千々石町」が37戸 (8.5%)、「愛野町」が22戸 (5.1%)、「無回答」が3戸 (0.7%) の順であった。



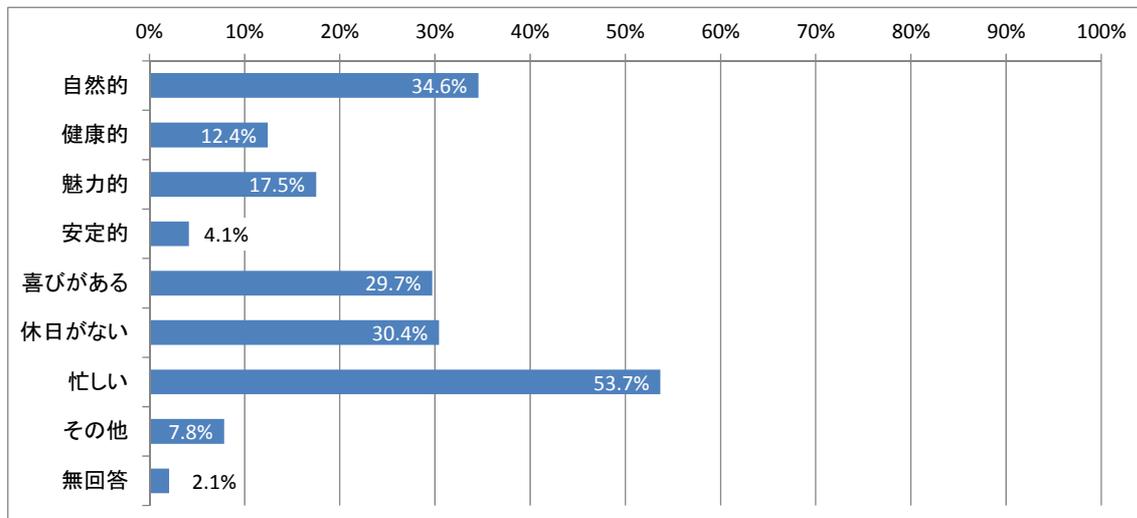
n= 434

回答選択肢		回答数	割合
1	国見町	119	27.4
2	瑞穂町	52	12.0
3	吾妻町	52	12.0
4	愛野町	22	5.1
5	千々石町	37	8.5
6	小浜町	61	14.1
7	南串山町	88	20.3
8	無回答	3	0.7
合計		434	100.0

問2 あなたは農林水産業について、どのようなイメージをお持ちですか。
該当する番号に、○をつけてください。（複数可）

●農林水産業のイメージ

農林水産業のイメージは、「忙しい」が233戸（53.7%）で最も多く、次いで「自然的」が150戸（34.6%）、「休日がない」が132戸（30.4%）、「喜びがある」が129戸（29.7%）、「魅力的」が76戸（17.5%）、「健康的」が54戸（12.4%）、「その他」が34戸（7.8%）、「安定的」が18戸（4.1%）、「無回答」が9戸（2.1%）の順であった。



複数回答：無制限

n= 434

	回答選択肢	回答数	割合
1	自然的	150	34.6
2	健康的	54	12.4
3	魅力的	76	17.5
4	安定的	18	4.1
5	喜びがある	129	29.7
6	休日がない	132	30.4
7	忙しい	233	53.7
8	その他	34	7.8
9	無回答	9	2.1
	合計	835	192.4

※回答選択肢の「無回答」は、問2の全ての設問に無回答であったもの。

問2選択肢8「その他」の内容

記述式

n= 34

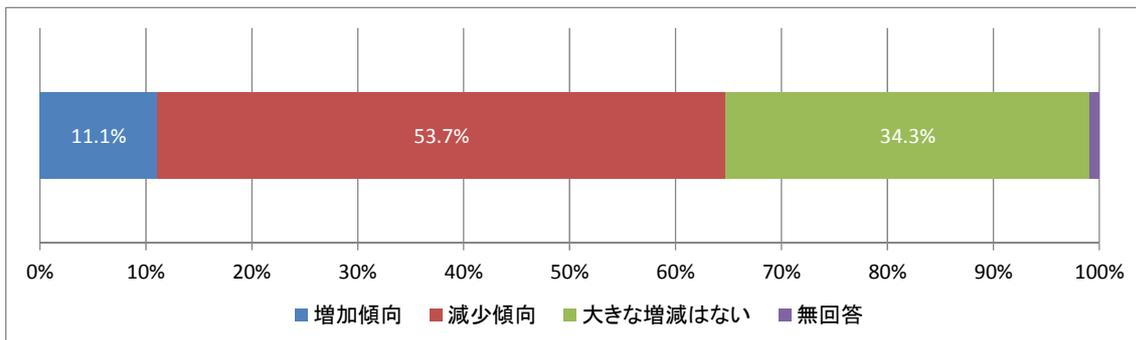
	回答選択肢	回答数	割合
1	不安定	11	32.4
2	収入が不安定	3	8.8
3	職人	1	2.9
4	生活のため	1	2.9
5	水揚げがないので、喜びなし	1	2.9
6	自給的	1	2.9
7	経済的に不安定	1	2.9
8	自分の仕事	1	2.9
9	水門の件で、働き甲斐がない	1	2.9
10	自由	1	2.9
11	生きるための基本	1	2.9
12	未来がない	1	2.9
13	安定しない、きつい	1	2.9
14	魅力も安定もない	1	2.9
15	儲からない	1	2.9
16	収入に結びつかない	1	2.9
17	将来性が有る	1	2.9
18	無回答	5	14.7
	合計	34	100.0

問3 過去5年間における農林水産業の収入についてお答えください。

該当する番号1つに、○をつけてください。

●過去5年間の収入傾向

過去5年間の収入傾向は、「収入は減少傾向である」が233戸（53.7%）で最も多く、次いで「大きな増減はない」が149戸（34.3%）、「収入は増加傾向である」が48戸（11.1%）、「無回答」が4戸（0.9%）の順であった。



n= 434

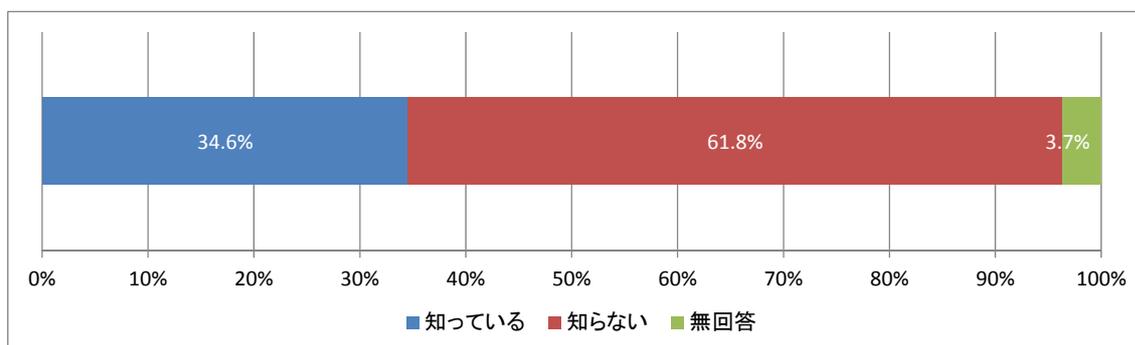
回答選択肢		回答数	割合
1	収入は増加傾向である	48	11.1
2	収入は減少傾向である	233	53.7
3	大きな増減はない	149	34.3
4	無回答	4	0.9
合計		434	100.0

問4 雲仙市が毎年、農林水産業の補助事業について発行している「みんなで描くキラリと光る雲仙産地」の冊子をご存知ですか。または、ご覧になっていますか。
該当する番号1つに、○をつけてください。

●冊子「みんなで描くキラリと光る雲仙産地」の認知度

冊子「みんなで描くキラリと光る雲仙産地」の認知度は、「知っている」が150戸（34.6%）、
「知らない」が268戸（61.8%）であった。

なお、「無回答」が16戸（3.7%）あった。



n= 434

回答選択肢		回答数	割合
1	知っている	150	34.6
2	知らない	268	61.8
3	無回答	16	3.7
合計		434	100.0

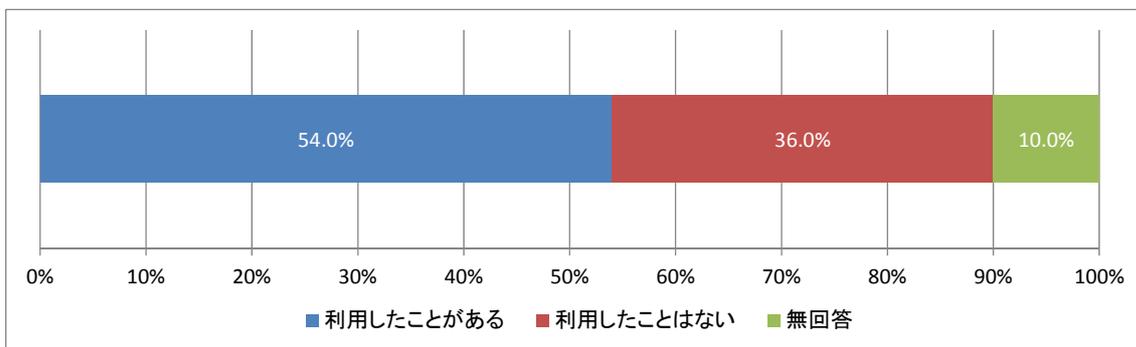
問4で、「1 はい」とお答えになった方にお伺いします。

問5 「みんなで描くキラリと光る雲仙産地」の冊子に掲載がある事業を、これまでに利用したことはありますか。また、今後、どのような事業が必要だと思いますか。該当する番号1つに、○をつけてください。

●冊子「みんなで描くキラリと光る雲仙産地」掲載事業の利用度

冊子「みんなで描くキラリと光る雲仙産地」掲載事業の利用度は、「利用したことがある」が81戸（54.0%）、「利用したことがない」が54戸（36.0%）であった。

なお、「無回答」が15戸（10.0%）あった。



問4で選択肢1「知っている」と回答

n= 150

回答選択肢		回答数	割合
1	利用したことがある	81	54.0
2	利用したことはない	54	36.0
3	無回答	15	10.0
合計		150	100.0

問5 今後必要な事業の詳しい回答内容

回答者の属性	回答内容
愛野町 53歳 男性 農業従事	事業の制限を緩和してほしい。
愛野町 56歳 男性 農業従事	農業機械の効率アップ推進事業、環境負荷軽減対策事業、農地集積促進事業
愛野町 55歳 男性 農業従事	リース事業
愛野町 61歳 男性 農業従事	雲仙市に適応した事業を行って欲しい。例えばイノシシ壁等を個人単体でも事業化してほしい。
愛野町 53歳 男性 農業・林業従事	雇用の斡旋
小浜町 53歳 男性 農業従事	・先進地への研修。・後継者の婚活。・園芸施設への補助。
小浜町 36歳 男性 農業従事	申し込みをしても当たらない。農協出荷者だけに補助が集中している。
小浜町 47歳 男性 農業従事	経営体支援事業
小浜町 65歳 男性 農業従事	人づくり
小浜町 51歳 男性 農業・林業従事	農地の賃借の推進、遊休農地の解消
小浜町 44歳 男性 農業・林業従事	基盤整備事業 事業費の負担を軽くする。
小浜町 54歳 男性 水産業従事	販売先・販売方法の確立に付随する事業
国見町 52歳 男性 農業従事	ハウスの更新
国見町 61歳 男性 農業従事	国見町神代山ノ上地区に住んでいますが、部落の中心を通っている主水路を改修して欲しい。地区の安全にもかかわるし、現状を知ってほしい。
国見町 47歳 男性 農業従事	市・県独自の補助事業の助成率を上げる。
国見町 52歳 男性 農業従事	個人への補助
国見町 73歳 男性 農業従事	農地中間機構へ加入したので、これを利用して6町歩に増やし、飼料米を作付けしたい。

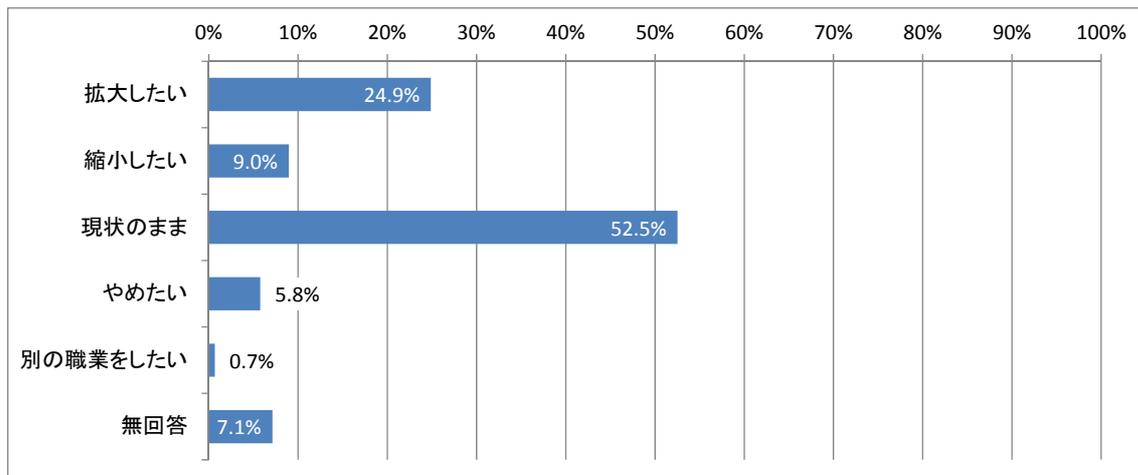
回答者の属性	回答内容
国見町 57歳 男性 農業従事	畜産業のヘルパー事業
国見町 65歳 男性 農業従事	重油への補助事業
国見町 43歳 男性 農業従事	個人の事業に対する補助を増やす。
国見町 35歳 男性 農業従事	認定者3名での補助事業は、3名集まることは困難である。ハウスを作るのに1名でも補助が出るようにしてほしい。
国見町 62歳 男性 農業従事	農業機械に対する補助を、個人でも簡単に利用できるようにしてほしい。
国見町 56歳 男性 農業・林業従事	後継者の育成
国見町 64歳 男性 農業・林業従事	各種補助事業
国見町 62歳 男性 水産業従事	小豆島のオリーブや熊本のココポンのような、特産品の開発が必要。漁業については、堤防が閉められる以前は多種多様な魚介類がみられたが、現在は数や種類が激減し、将来の見込みはない。 どのような事業を行うにしても、就業者の高齢化が進んでいるので、現状維持が精一杯。
吾妻町 49歳 男性 農業従事	規模拡大
吾妻町 年齢不明 男性 農業従事	屋根型ハウス、フェンロー型ハウス等、長期展張(10～20年)の張替事業をお願いしたい。
吾妻町 53歳 男性 農業従事	畜産関係は幅広く補助の対象があるが、園芸関係にも補助の対象を広げてほしい。
吾妻町 64歳 男性 農業従事	化学肥料に頼らない農業、堆肥センターの建設
吾妻町 63歳 男性 農業従事	地域の特産品後押し
吾妻町 49歳 男性 農業従事	農業機械への補助事業、子牛・保留・導入事業
吾妻町 69歳 男性 農業従事	担い手の育成、リーダーの育成のための事業
吾妻町 72歳 男性 農業・林業従事	水田、畔、用水路、排水路、農道カタ等の整備、修繕に7割位の補助が必要。

回答者の属性	回答内容
千々石町 52歳 男性 農業従事	耕作放棄地対策事業を、もう少し簡単にしてもらいたい。
千々石町 38歳 男性 農業従事	原油高騰対策
千々石町 年齢不明 男性 農業従事	規模拡大や後継者問題ではなく、現在の経営規模でも農機具・機械への補助があれば良いと思う。 年々歳をとり、機械に頼らなければ出来ない。このままでは規模縮小の方向しかない。
千々石町 49歳 男性 農業従事	面積規模に関係なく、大型機械を導入できる事業
千々石町 37歳 男性 農業従事	規模拡大事業を継続してもらいたい。
千々石町 50歳 男性 農業従事	補助率を上げてほしい。
瑞穂町 60歳 男性 農業従事	畜産農家単体に対する補助事業
瑞穂町 64歳 男性 農業従事	ハウスのインフラ整備事業（現在のハウスに付加価値をつける事業）。施設園芸農家ですが、大きな投資に対しては慎重にならざるを得ないので、是非お願いしたい。
瑞穂町 60歳 男性 農業従事	新規施設の建設は難しい状況のため、維持管理、修理、整備にも利用できる補助事業の拡充。
瑞穂町 63歳 男性 農業従事	個人で利用する場合、施設面積による条件があるので、小面積でハウスを建てる事が出来ない。
瑞穂町 70歳 男性 農業従事	耕作放棄地の山林化の防止に努めてほしい。
瑞穂町 27歳 男性 農業従事	新規就農者や収入が少ない人を中心とした省エネ事業・新規及び補強のためのハウス建設事業などの補助事業を見直してほしい。
南串山町 50歳 男性 農業従事	経営体育成事業、農業基盤整備事業の推進で、耕作放棄地の減少と高収益型事業の推進
南串山町 60歳 男性 農業従事	耕作放棄地の解消事業の拡大と要件緩和
南串山町 51歳 男性 農業従事	新規事業だけではなく、産地を維持するための事業や補助を考えてほしい。
南串山町 66歳 男性 農業・林業従事	補助事業が必要。

問6 現在、営んでいる農林水産業について、将来どのようにお考えですか。
該当する番号1つに、○をつけてください。

●現在、経営している農林水産業の将来

現在、経営している農林水産業の将来については、「現状のまま」が228戸（52.5%）で最も多く、次いで「拡大したい」が108戸（24.9%）、「縮小したい」が39戸（9.0%）、「無回答」が31戸（7.1%）、「やめたい」が25戸（5.8%）、「別の職業をしたい」が3戸（0.7%）の順であった。



n= 434

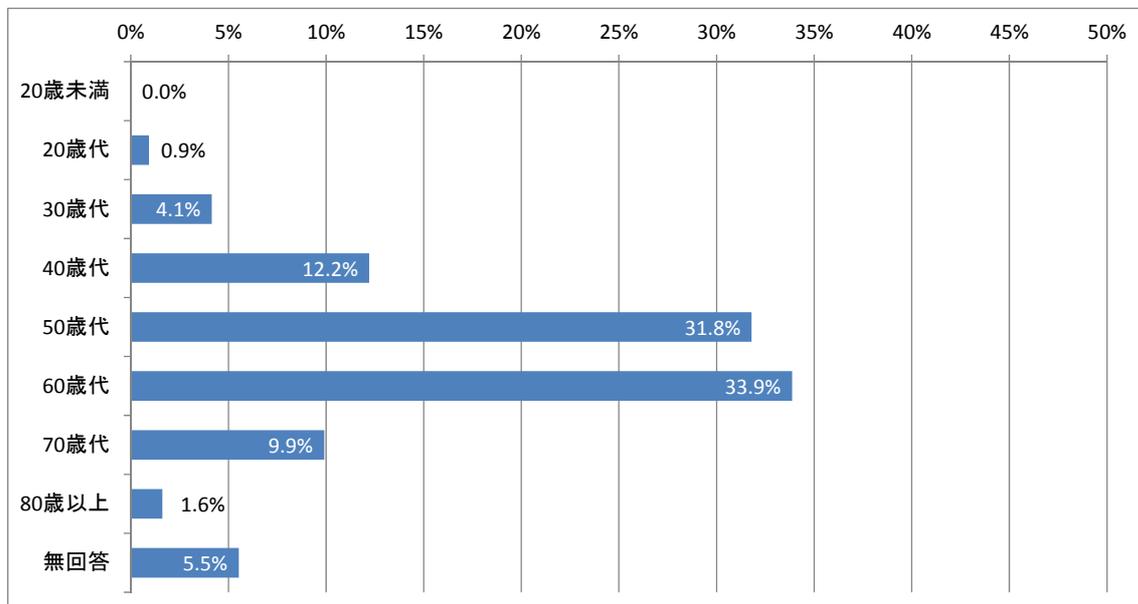
回答選択肢		回答数	割合
1	拡大したい	108	24.9
2	縮小したい	39	9.0
3	現状のまま	228	52.5
4	やめたい	25	5.8
5	別の職業をしたい	3	0.7
6	無回答	31	7.1
合計		434	100.0

問7 現在同居されているご家族の性別、年齢、農林漁業従事状況、10年後の従事状況、後継者について、該当する番号1つに、○をつけてください。
はじめに、あなたのことをについて、○をつけてください。その後、ご家族の中で、あなた以外で年齢が高い順（家族構成）に、○をつけてください。

●回答者（あなた）の年齢

回答者（あなた）の年齢は、「60歳代」が147人（33.9%）で最も多く、次いで「50歳代」が138人（31.8%）、「40歳代」が53人（12.2%）、「70歳代」が43人（9.9%）、「無回答」が24人（5.5%）、「30歳代」が18人（4.1%）、「80歳以上」が7人（1.6%）、「20歳代」が4人（0.9%）の順であった。

なお、「20歳未満」の回答はなかった。

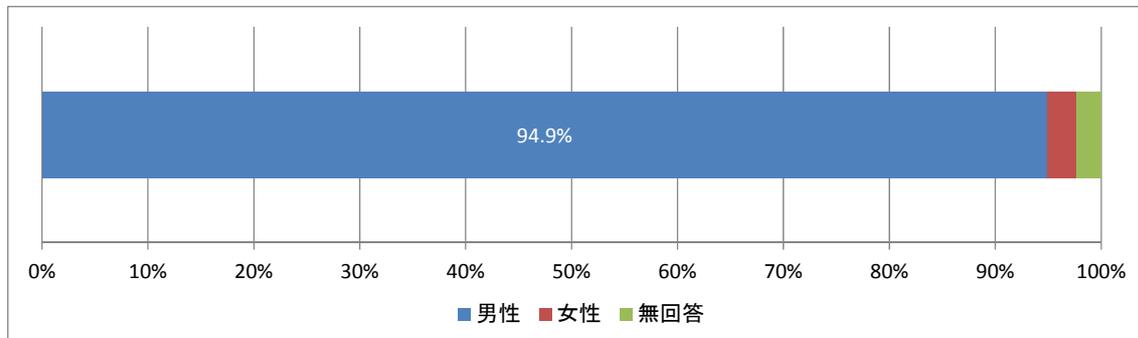


n= 434

	回答選択肢	回答数	割合
1	20歳未満	0	0.0
2	20歳代	4	0.9
3	30歳代	18	4.1
4	40歳代	53	12.2
5	50歳代	138	31.8
6	60歳代	147	33.9
7	70歳代	43	9.9
8	80歳以上	7	1.6
9	無回答	24	5.5
	合計	434	100.0

●回答者（あなた）の性別

回答者（あなた）の性別は、「男性」が412人（94.9%）、「女性」が12人（2.8%）であった。
なお、「無回答」が10人（2.3%）あった。



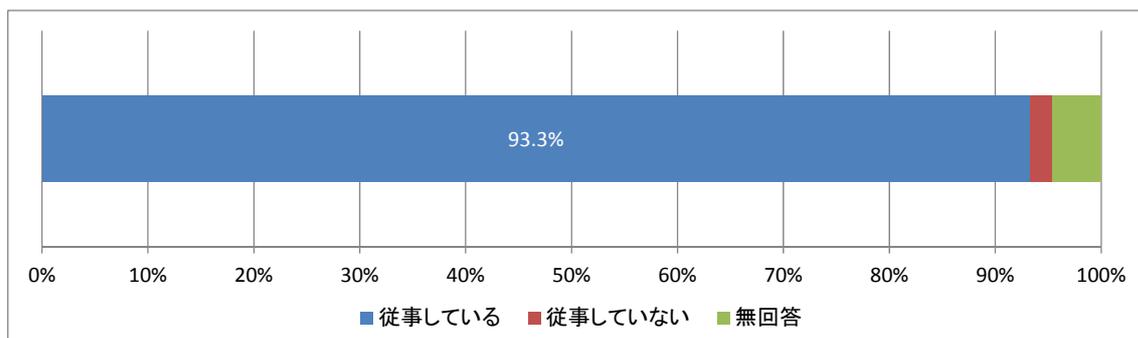
n= 434

回答選択肢		回答数	割合
1	男性	412	94.9
2	女性	12	2.8
3	無回答	10	2.3
合計		434	100.0

●回答者（あなた）の現在の農林水産業従事状況

回答者（あなた）の現在の農林水産業従事状況は、「従事している」が405人（93.3%）、「従事していない」が9人（2.1%）であった。

なお、「無回答」が20人（4.6%）あった。



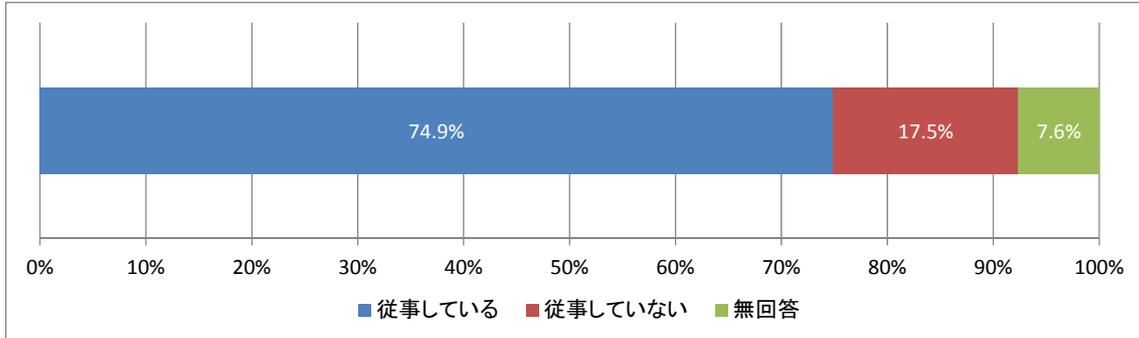
n= 434

回答選択肢		回答数	割合
1	従事している	405	93.3
2	従事していない	9	2.1
3	無回答	20	4.6
合計		434	100.0

●回答者（あなた）の10年後の農林水産業従事状況

回答者（あなた）の10年後の農林水産業従事状況は、「従事している」が325人（74.9%）、
「従事していない」が76人（17.5%）であった。

なお、「無回答」が33人（7.6%）あった。



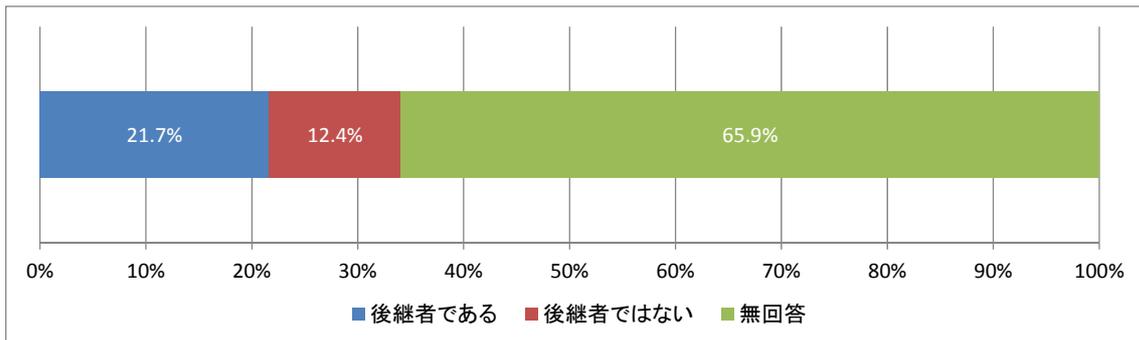
n= 434

回答選択肢		回答数	割合
1	従事している	325	74.9
2	従事していない	76	17.5
3	無回答	33	7.6
合計		434	100.0

●後継者である回答者（あなた）

後継者である回答者（あなた）は、「後継者である」が94人（21.7%）、
「後継者ではない」が54人（12.4%）であった。

なお、「無回答」が286人（65.9%）あった。

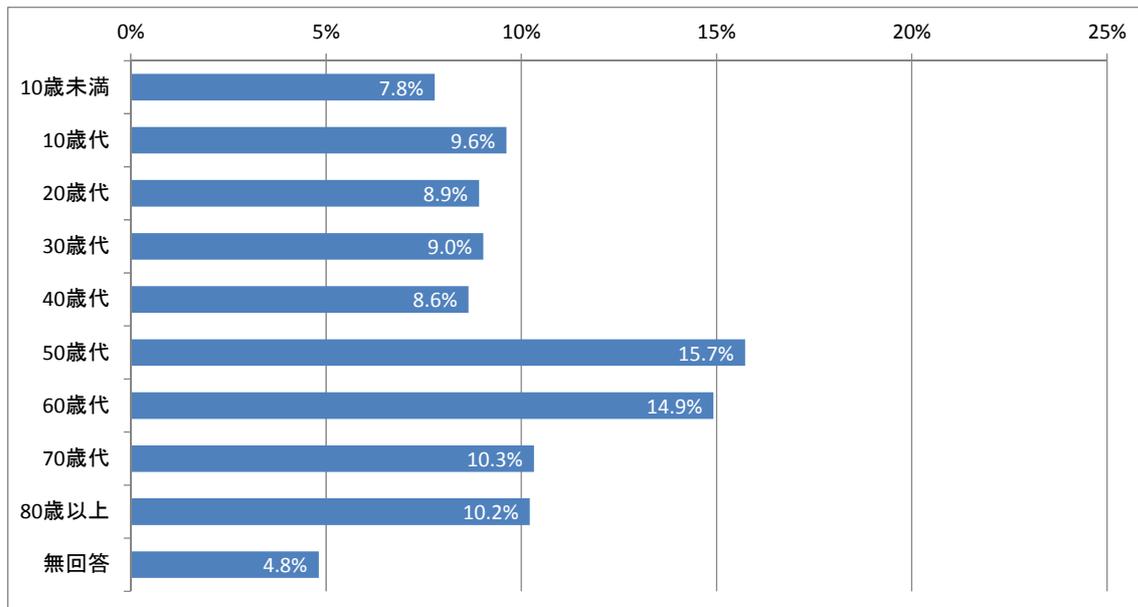


n= 434

回答選択肢		回答数	割合
1	後継者である	94	21.7
2	後継者ではない	54	12.4
3	無回答	286	65.9
合計		434	100.0

●回答世帯員の年齢

回答世帯員の年齢は、「50歳代」が291人（15.7%）で最も多く、次いで「60歳代」が276人（14.9%）、「70歳代」が191人（10.3%）、「80歳以上」が189人（10.2%）、「10歳代」が178人（9.6%）、「30歳代」が167人（9.0%）、「20歳代」が165人（8.9%）、「40歳代」が160人（8.6%）、「10歳未満」が144人（7.8%）、「無回答」が89人（4.8%）の順であった。



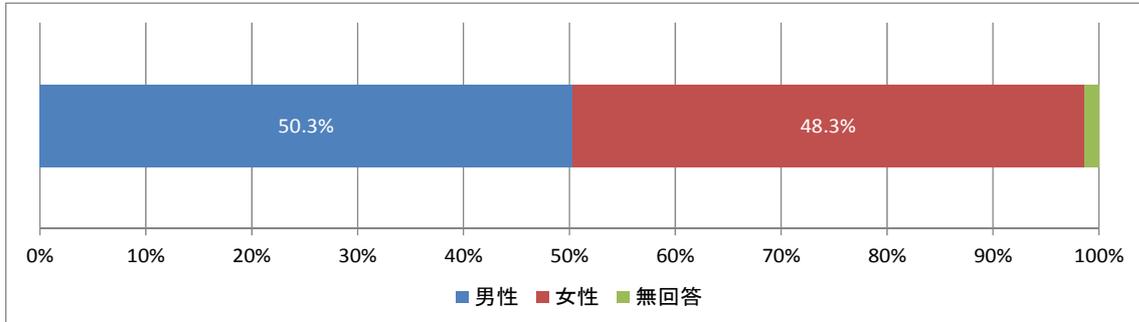
n= 1,850

回答選択肢		回答数	割合
1	10歳未満	144	7.8
2	10歳代	178	9.6
3	20歳代	165	8.9
4	30歳代	167	9.0
5	40歳代	160	8.6
6	50歳代	291	15.7
7	60歳代	276	14.9
8	70歳代	191	10.3
9	80歳以上	189	10.2
10	無回答	89	4.8
合計		1,850	100.0

※回答選択肢の「無回答」は、問7のいずれかの設問に回答しており、この設問については無回答であったものも含む。

●回答世帯員の性別

回答世帯員の性別は、「男性」が930人（50.3%）、「女性」が894人（48.3%）であった。
 なお、「無回答」が26人（1.4%）あった。



n= 1,850

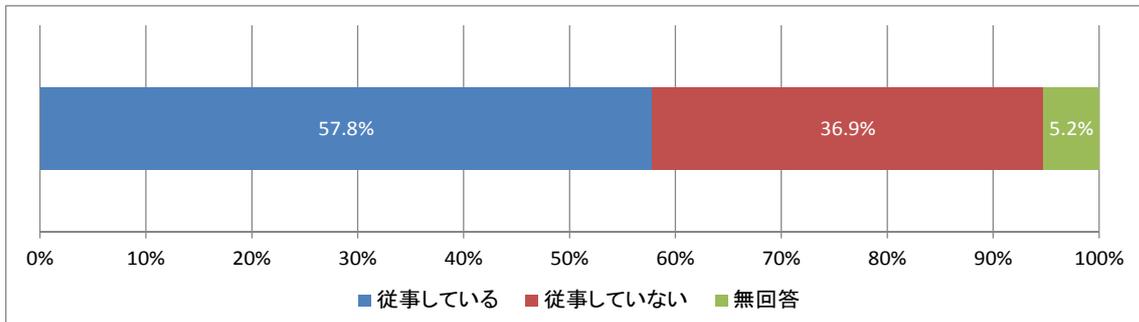
回答選択肢		回答数	割合
1	男性	930	50.3
2	女性	894	48.3
3	無回答	26	1.4
合計		1,850	100.0

※回答選択肢の「無回答」は、問7のいずれかの設問に回答しており、この設問については無回答であったものも含む。

●回答世帯員の現在の農林水産業従事状況

回答世帯員の現在の農林水産業従事状況は、「従事している」が1,070人（57.8%）、「従事していない」が683人（36.9%）であった。

なお、「無回答」が97人（5.2%）あった。



n= 1,850

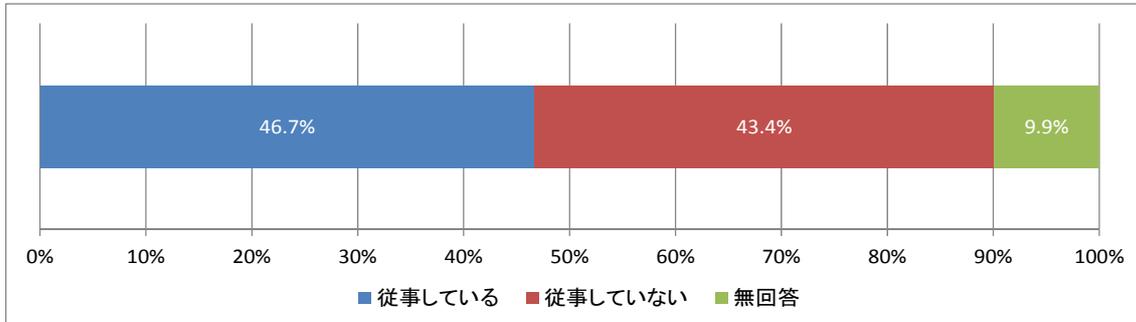
回答選択肢		回答数	割合
1	従事している	1,070	57.8
2	従事していない	683	36.9
3	無回答	97	5.2
合計		1,850	100.0

※回答選択肢の「無回答」は、問7のいずれかの設問に回答しており、この設問については無回答であったものも含む。

●回答世帯員の10年後の農林水産業従事状況

回答世帯員の10年後の農林水産業従事状況は、「従事している」が864人（46.7%）、「従事していない」が802人（43.4%）であった。

なお、「無回答」が184人（9.9%）あった。



n = 1,850

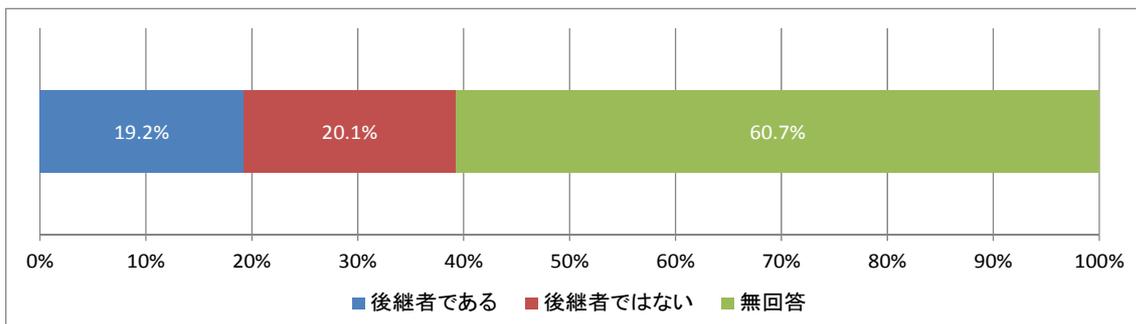
回答選択肢		回答数	割合
1	従事している	864	46.7
2	従事していない	802	43.4
3	無回答	184	9.9
合計		1,850	100.0

※回答選択肢の「無回答」は、問7のいずれかの設問に回答しており、この設問については無回答であったものも含む。

●後継者であると回答した世帯員

後継者であると回答した世帯員は、「後継者である」が355人（19.2%）、「後継者ではない」が372人（20.1%）であった。

なお、「無回答」が1,123人（60.7%）あった。



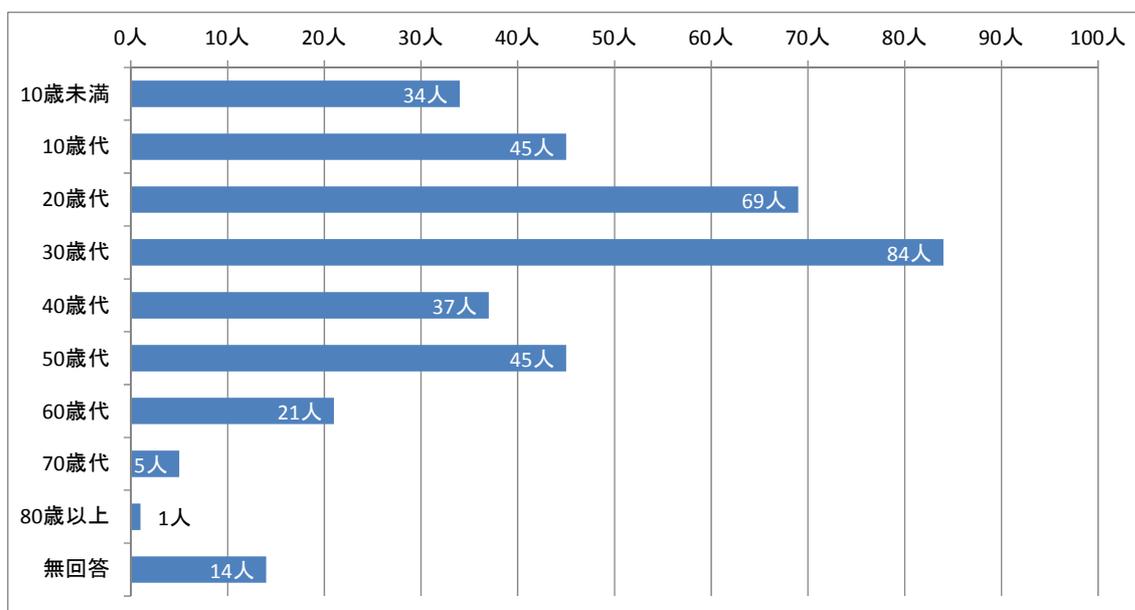
n = 1,850

回答選択肢		回答数	割合
1	後継者である	355	19.2
2	後継者ではない	372	20.1
3	無回答	1,123	60.7
合計		1,850	100.0

※回答選択肢の「無回答」は、問7のいずれかの設問に回答しており、この設問については無回答であったものも含む。

●後継者であると回答した世帯員の年齢

後継者であると回答した世帯員の年齢は、「30歳代」が84人（23.7%）で最も多く、次いで「20歳代」が69人（19.4%）、「10歳代」と「50歳代」がともに45人（12.7%）、「40歳代」が37人（10.4%）、「10歳未満」が34人（9.6%）、「60歳代」が21人（5.9%）、「無回答」が14人（3.9%）、「70歳代」が5人（1.4%）、「80歳以上」が1人（0.3%）の順であった。



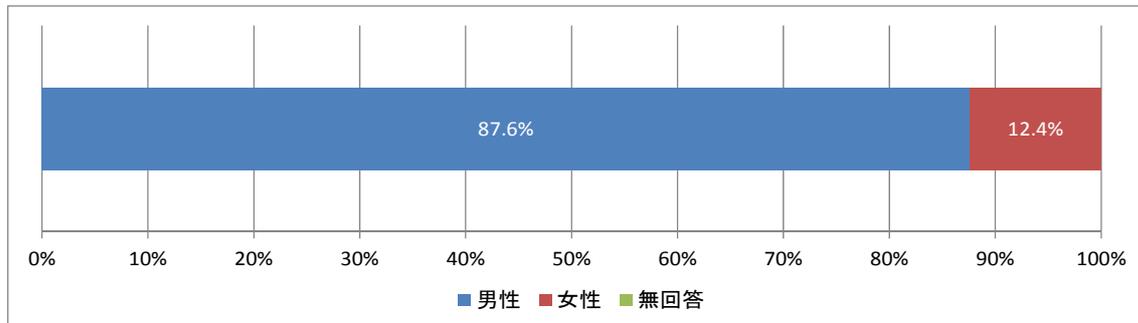
n= 355

回答選択肢		回答数	割合
1	10歳未満	34	9.6
2	10歳代	45	12.7
3	20歳代	69	19.4
4	30歳代	84	23.7
5	40歳代	37	10.4
6	50歳代	45	12.7
7	60歳代	21	5.9
8	70歳代	5	1.4
9	80歳以上	1	0.3
10	無回答	14	3.9
合計		355	100.0

※回答選択肢の「無回答」は、問7のいずれかの設問に回答しており、この設問については無回答であったものも含む。

●後継者であると回答した世帯員の性別

後継者であると回答した世帯員の性別は、「男性」が311人（87.6%）、「女性」が（12.4%）であった。



n = 355

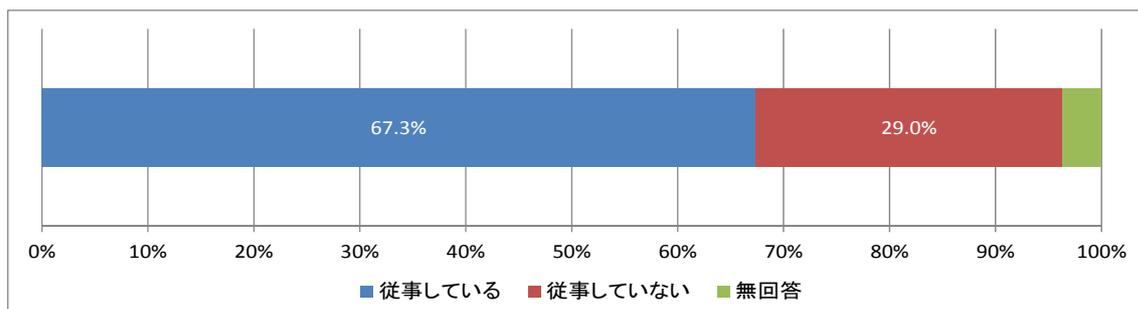
回答選択肢		回答数	割合
1	男性	311	87.6
2	女性	44	12.4
3	無回答	0	0.0
合計		355	100.0

※回答選択肢の「無回答」は、問7のいずれかの設問に回答しており、この設問については無回答であったものも含む。

●後継者であると回答した世帯員の現在の農林水産業従事状況

後継者であると回答した世帯員の現在の農林水産業従事状況は、「従事している」が239人（67.3%）、「従事していない」が103人（29.0%）であった。

なお、「無回答」が13人（3.7%）あった。



n = 355

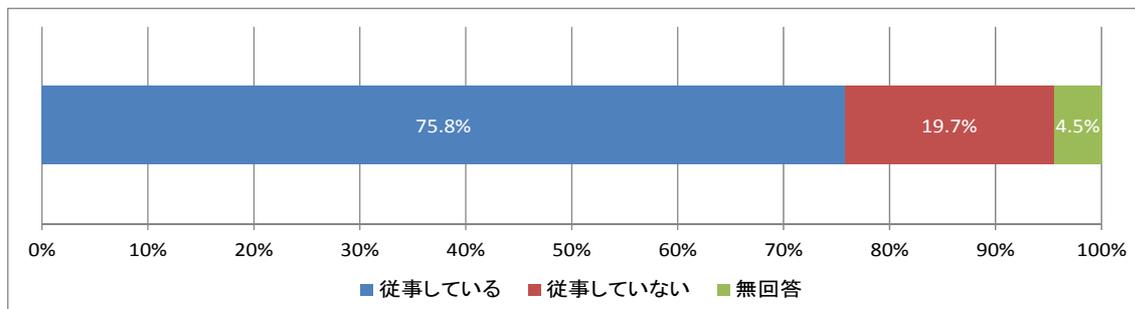
回答選択肢		回答数	割合
1	従事している	239	67.3
2	従事していない	103	29.0
3	無回答	13	3.7
合計		355	100.0

※回答選択肢の「無回答」は、問7のいずれかの設問に回答しており、この設問については無回答であったものも含む。

●後継者であると回答した世帯員の10年後の農林水産業従事状況

後継者であると回答した世帯員の10年後の農林水産業従事状況は、「従事している」が269人(75.8%)、「従事していない」が70人(19.7%)であった。

なお、「無回答」が16人(4.5%)あった。



n = 355

回答選択肢		回答数	割合
1	従事している	269	75.8
2	従事していない	70	19.7
3	無回答	16	4.5
合計		355	100.0

※回答選択肢の「無回答」は、問7のいずれかの設問に回答しており、この設問については無回答であったものも含む。

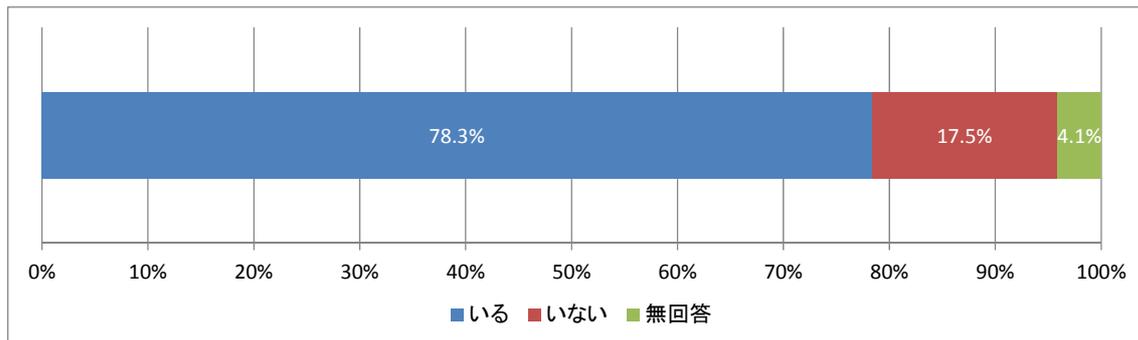
問8 農林水産業を経営していくにあたって、相談相手はいますか。

該当する番号1つに、○をつけてください。

●農林水産業の経営上の相談相手

農林水産業の経営上の相談相手は、「いる」が340戸(78.3%)、「いない」が76戸(17.5%)であった。

なお、「無回答」が18戸(4.1%)あった。



n= 434

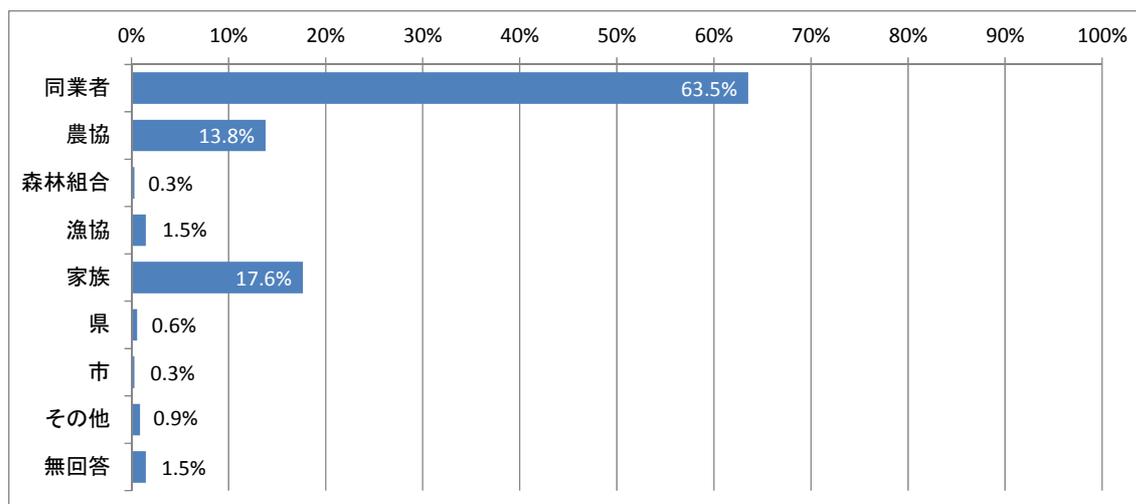
回答選択肢		回答数	割合
1	いる	340	78.3
2	いない	76	17.5
3	無回答	18	4.1
合計		434	100.0

問8で、「1 いる」とお答えになった方にお伺いします。

問9 主な相談相手は、どなたですか。該当する番号1つに、○をつけてください。

●主な相談相手

主な相談相手は、「同じ農林水産業を営んでいる方」が216戸（63.5%）で最も多く、次いで「家族」が60戸（17.6%）、「農協」が47戸（13.8%）、「漁協」と「無回答」がともに5戸（1.5%）、「その他」が3戸（0.9%）、「県」が2戸（0.6%）、「森林組合」と「市」がともに1戸（0.3%）の順であった。



問8で選択肢1「相談相手はいる」と回答

n= 340

回答選択肢		回答数	割合
1	同じ農林水産業を営んでいる方	216	63.5
2	農協	47	13.8
3	森林組合	1	0.3
4	漁協	5	1.5
5	家族	60	17.6
6	県	2	0.6
7	市	1	0.3
8	その他	3	0.9
9	無回答	5	1.5
合計		340	100.0

問9選択肢8「その他」の内容

記述式

n= 3

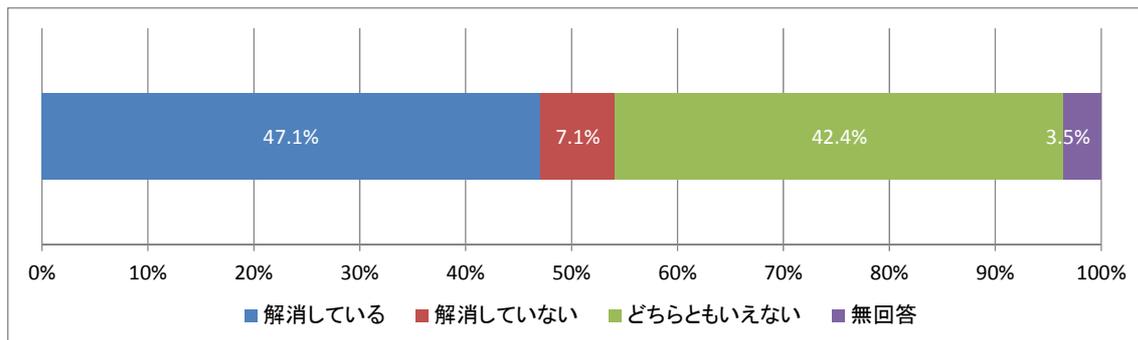
回答選択肢		回答数	割合
1	飼料メーカー	1	33.3
2	取引先会社	1	33.3
3	種苗業者	1	33.3
合計		3	100.0

問8で、「1 いる」とお答えになった方にお伺いします。

問10 相談することで、問題は解消していますか。
該当する番号1つに、○をつけてください。

●相談することで問題解消しているか

相談することで問題解消しているかは、「解消している」が160戸で最も多く、次いで「どちらともいえない」が144戸（42.4%）、「解消していない」が24戸（7.1%）、「無回答」が12戸（3.5%）の順であった。



問8で選択肢1「相談相手はいる」と回答

n= 340

回答選択肢		回答数	割合
1	解消している	160	47.1
2	解消していない	24	7.1
3	どちらともいえない	144	42.4
4	無回答	12	3.5
合計		340	100.0

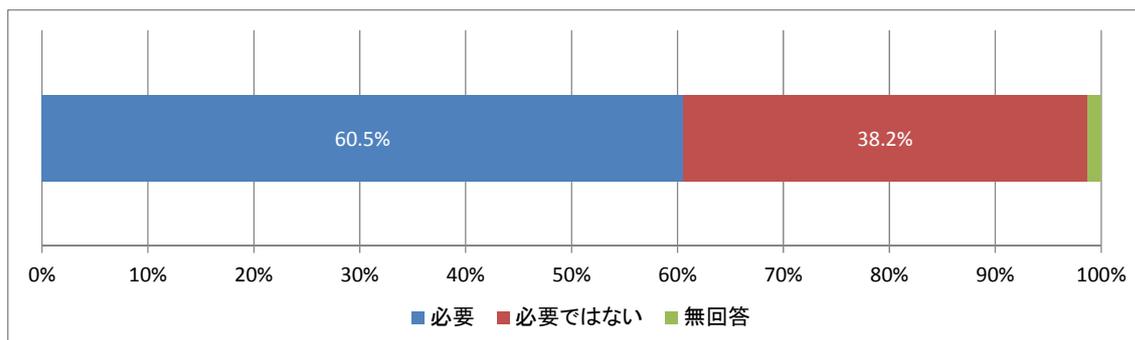
問8で、「2 いない」とお答えになった方にお伺いします。

問11 相談相手や相談する機会は、必要ですか。
該当する番号1つに、○をつけてください。

●相談相手や相談する機会の必要性

相談相手や相談する機会の必要性は、「必要」が46戸(60.5%)、「必要ではない」が29戸(38.2%)であった。

なお、「無回答」が1戸(1.3%)あった。



問8で選択肢2「相談相手はいない」と回答

n= 76

回答選択肢		回答数	割合
1	必要	46	60.5
2	必要ではない	29	38.2
3	無回答	1	1.3
合計		76	100.0

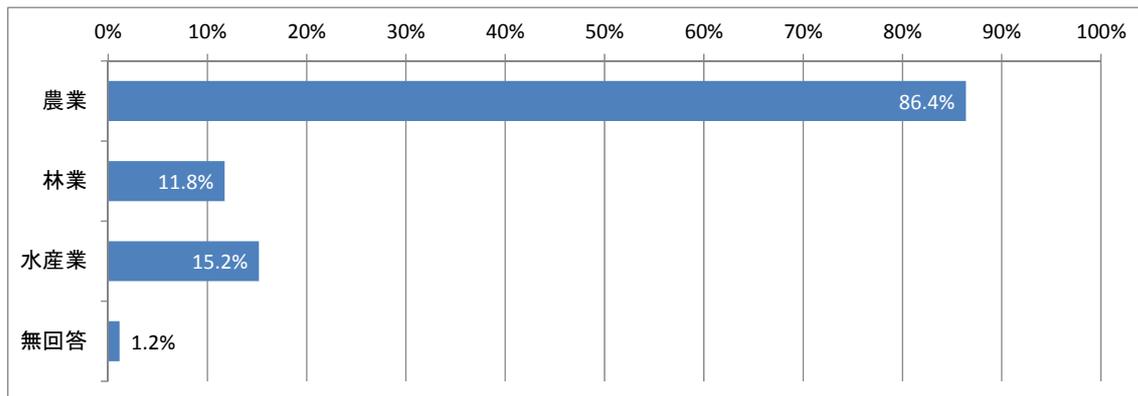
問12 農林水産業のうち、従事しているのはどれですか。

該当する番号に、○をつけてください。

●従事している農林水産業

従事している農林水産業は、「農業」が 375 戸 (86.4%) で最も多く、次いで「水産業」が 66 戸 (15.2%)、「林業」が 51 戸 (11.8%) の順であった。

なお、「無回答」が 5 戸 (1.2%) あった。



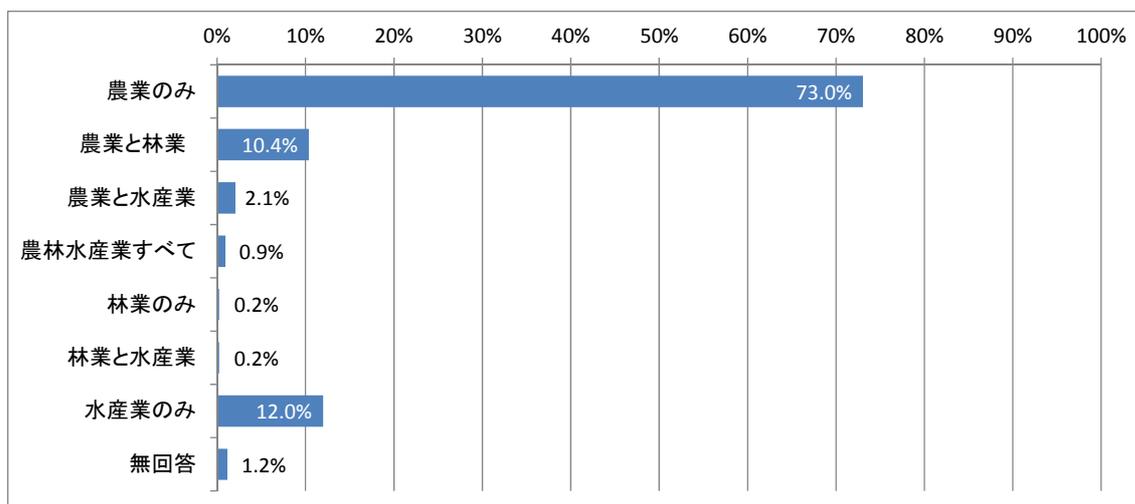
複数回答:無制限

n= 434

回答選択肢		回答数	割合
1	農業	375	86.4
2	林業	51	11.8
3	水産業	66	15.2
4	無回答	5	1.2
合計		497	114.5

●従事している農林水産業（複合経営）

従事している農林水産業（複合経営）は、「農業のみ」が317戸（73.0%）で最も多く、次いで「水産業のみ」が52戸（12.0%）、「農業と林業」が45戸（10.4%）、「農業と水産業」が9戸（2.1%）、「無回答」が5戸（1.2%）、「農林水産業すべて」が4戸（0.9%）、「林業のみ」と「林業と水産業」がともに1戸（0.2%）の順であった。



複数回答：無制限

n= 434

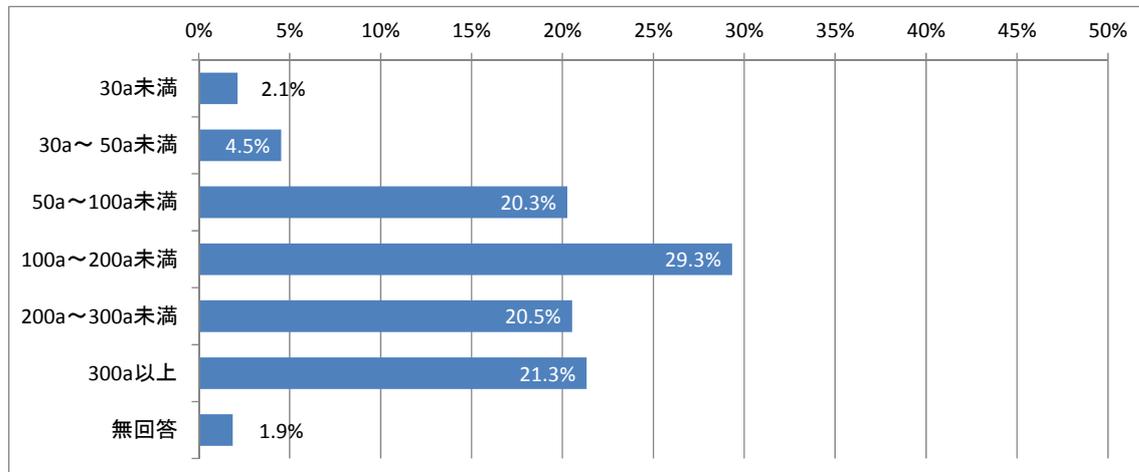
	回答選択肢	回答数	割合
1	農業のみ	317	73.0
2	農業と林業	45	10.4
3	農業と水産業	9	2.1
4	農林水産業すべて	4	0.9
5	林業のみ	1	0.2
6	林業と水産業	1	0.2
7	水産業のみ	52	12.0
8	無回答	5	1.2
	合計	434	100.0

第2部（農業従事世帯対象）

問13 あなたが経営している農地面積をお答えください。
 該当する番号1つに、○をつけてください。

●経営している農地面積

経営している農地面積は、「100アール～200アール未満」が110戸（29.3%）で最も多く、次いで「300アール以上」が80戸（21.3%）、「200アール～300アール未満」が77戸（20.5%）、「50アール～100アール未満」が76戸（20.3%）、「30アール～50アール未満」が17戸（4.5%）、「30アール未満」が8戸（2.1%）、「無回答」が7戸（1.9%）の順であった。



n= 375

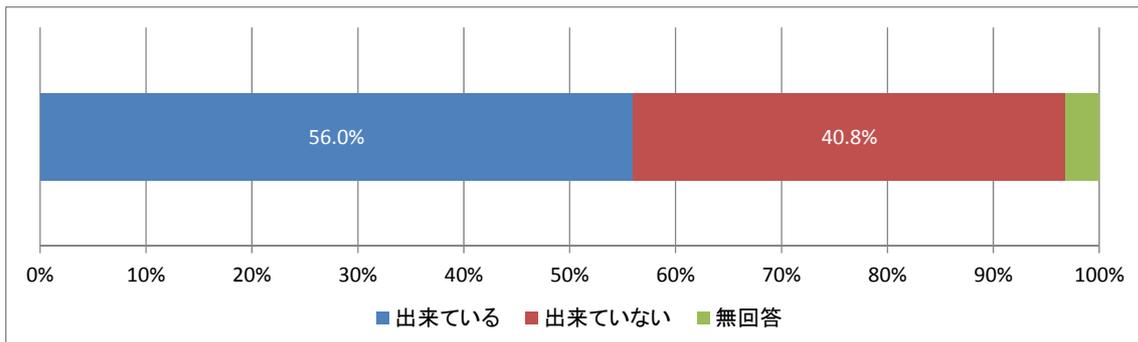
回答選択肢		回答数	割合
1	30アール未満	8	2.1
2	30アール～50アール未満	17	4.5
3	50アール～100アール未満	76	20.3
4	100アール～200アール未満	110	29.3
5	200アール～300アール未満	77	20.5
6	300アール以上	80	21.3
7	無回答	7	1.9
合計		375	100.0

問14 あなたが経営している農地は、農業生産基盤の整備ができていますか。
該当するもの、3つまで○をつけてください。

●農業生産基盤の整備状況

農業生産基盤の整備状況は、「出来ている」が210戸(56.0%)、「出来ていない」が153戸(40.8%)であった。

なお、「無回答」が12戸(3.2%)あった。

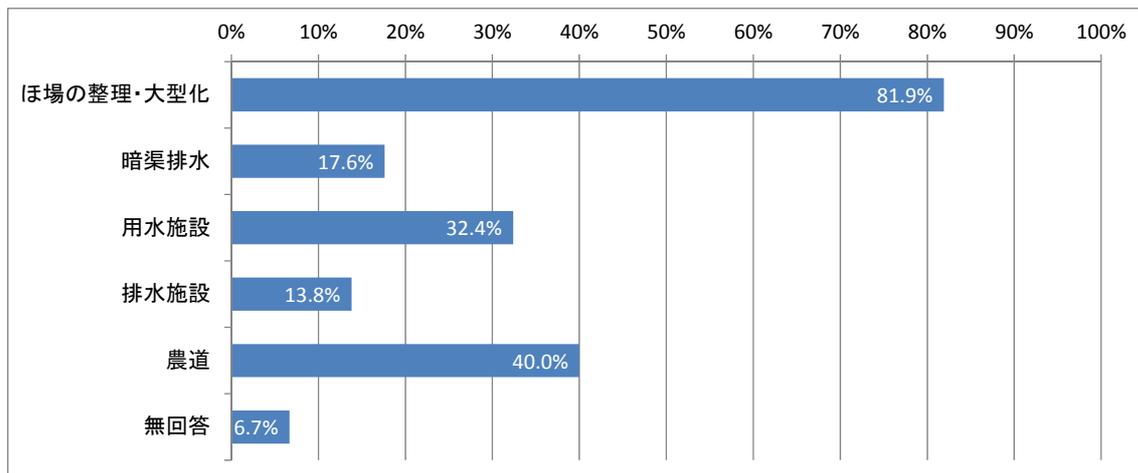


n= 375

回答選択肢		回答数	割合
1	出来ている	210	56.0
2	出来ていない	153	40.8
3	無回答	12	3.2
合計		375	100.0

●整備されている農業生産基盤

整備されている農業生産基盤は、「ほ場区画の整理・大型化（ほ場整備）」が172戸（81.9%）で最も多く、次いで「農道」が84戸（40.0%）、「用水施設」が68戸（32.4%）、「暗渠排水」が37戸（17.6%）、「排水施設」が29戸（13.8%）、「無回答」が14戸（6.7%）の順であった。



問14で選択肢1「出来ている」と回答

複数回答：無制限

n= 210

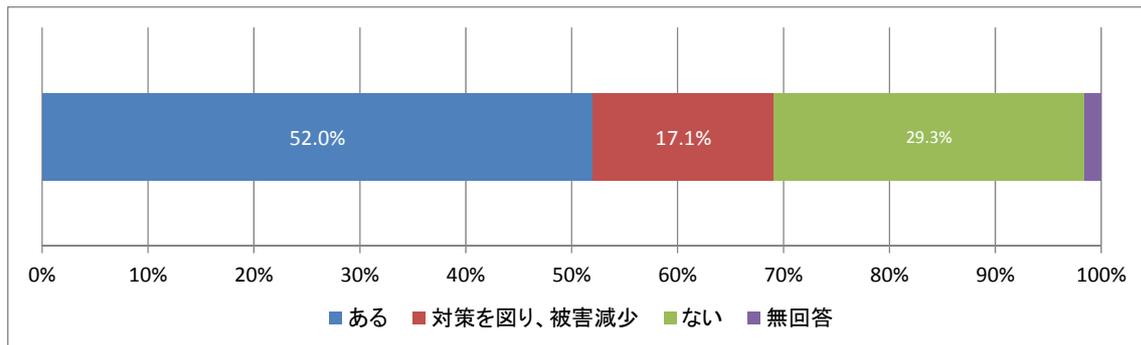
	回答選択肢	回答数	割合
1	ほ場区画の整理・大型化（ほ場整備）	172	81.9
2	暗渠排水	37	17.6
3	用水施設	68	32.4
4	排水施設	29	13.8
5	農道	84	40.0
6	無回答	14	6.7
	合計	404	192.4

※回答選択肢の「無回答」は、問14-②の全ての設問に無回答であったもの。

問15 あなたの農地でイノシシやアナグマなど、野生鳥獣による農産物への被害はありますか。該当する番号1つに、○をつけてください。

●野生鳥獣による農産物への被害

野生鳥獣による農産物への被害は、「ある」が195戸（52.0%）で最も多く、次いで「ない」が110戸（29.3%）、「過去に被害はあったが、対策を図ったことで被害が減少した」が64戸（17.1%）、「無回答」が6戸（1.6%）であった。



n= 375

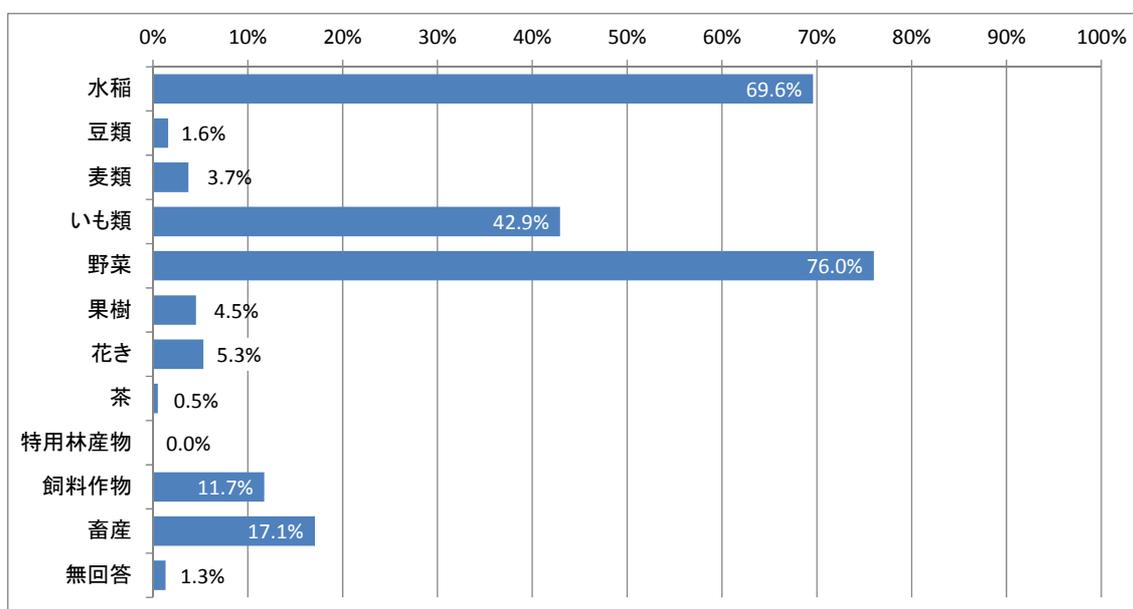
回答選択肢		回答数	割合
1	ある	195	52.0
2	過去に被害はあったが、対策を図ったことで被害が減少した	64	17.1
3	ない	110	29.3
4	無回答	6	1.6
合計		375	100.0

問16 あなたが主に、栽培および、飼育している品目はどれですか。
 該当する番号に、○をつけてください。
 また、いも類、野菜、果樹、花き、飼料作物、畜産は、主な作物名および飼養家畜名を3つまでご記入ください。併せて、栽培および、飼育している作付面積（単位はアール）または、飼養頭数（単位は頭または、羽）を記入してください。
 さらに、栽培および飼育している品目の主な出荷先はどこですか。多い順に番号をつけてください。

●栽培および、飼育している品目

栽培および、飼育している品目は、「野菜」が285戸（76.0%）で最も多く、次いで「水稻」が261戸（69.6%）、「いも類」が161戸（42.9%）、「畜産」が64戸（17.1%）、「飼料作物」が44戸（11.7%）の順であった。

なお、他の品目については以下のとおりである。



複数回答：無制限

n = 375

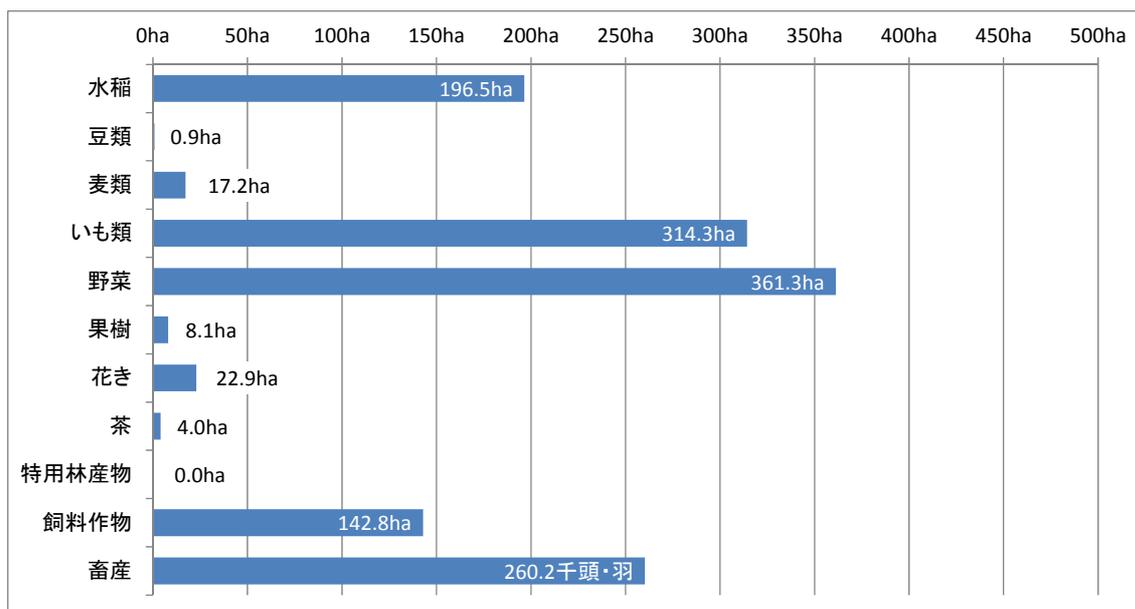
回答選択肢		回答数	割合
1	水稻	261	69.6
2	豆類	6	1.6
3	麦類	14	3.7
4	いも類	161	42.9
5	野菜	285	76.0
6	果樹	17	4.5
7	花き	20	5.3
8	茶	2	0.5
9	特用林産物	0	0.0
10	飼料作物	44	11.7
11	畜産	64	17.1
13	無回答	5	1.3
合計		879	234.4

※回答選択肢の「無回答」は、問16の全ての設問に無回答であったもの。

●栽培および、飼育している品目の面積・飼養頭・羽数

栽培および、飼育している品目の面積・飼養頭・羽数は、「野菜」が 361.3ha (27.2%) で最も多く、次いで「いも類」が 314.3ha (23.7%)、「畜産」が 260.2 千頭・羽 (19.6%)、「水稲」が 196.5ha (14.8%)、「飼料作物」が 142.8ha (10.8%)、「花き」が 22.9ha (1.7%)、「麦類」が 17.2ha (1.3%)、「果樹」が 8.1ha (0.6%)、「茶」が 4.0ha (0.3%)、「豆類」が 0.9ha (0.1%) の順であった。

なお、「特用林産物」についての回答はなかった。



複数回答: 無制限 記述式

n= 1,328.1

回答選択肢		面積等	割合
1	水稲	196.5	14.8
2	豆類	0.9	0.1
3	麦類	17.2	1.3
4	いも類	314.3	23.7
5	野菜	361.3	27.2
6	果樹	8.1	0.6
7	花き	22.9	1.7
8	茶	4.0	0.3
9	特用林産物	0.0	0.0
10	飼料作物	142.8	10.8
11	畜産	260.2	19.6
合計		1,328.1	100.0

※単位: ha/千頭・羽

●作物名・飼養家畜名

問16 選択肢4「いも類」作物名
複数回答:3つまで 記述式

作物名回答数 168
選択肢4回答数 161

割合1は、作物名回答数を母数として算出
割合2は、選択肢4回答数を母数として算出

	品目名	回答数	割合1	割合2
1	ばれいしょ	161	95.8	100.0
2	かんしょ	5	3.0	3.1
3	さといも	2	1.2	1.2
	合計	168	100.0	104.3

問16 選択肢5「野菜」作物名
複数回答:3つまで 記述式

作物名回答数 476
選択肢5回答数 285

割合1は、作物名回答数を母数として算出
割合2は、選択肢5回答数を母数として算出

	品目名	回答数	割合1	割合2
1	いちご	91	19.1	31.9
2	たまねぎ	79	16.6	27.7
3	レタス	71	14.9	24.9
4	ブロッコリー	50	10.5	17.5
5	かぼちゃ	34	7.1	11.9
6	キャベツ	17	3.6	6.0
7	ねぎ	12	2.5	4.2
8	ゴーヤ	12	2.5	4.2
9	スイートコーン	11	2.3	3.9
10	すいか	11	2.3	3.9
11	にんじん	10	2.1	3.5
12	だいこん	9	1.9	3.2
13	きゅうり	7	1.5	2.5
14	メロン	7	1.5	2.5
15	なす	5	1.1	1.8
16	ミニトマト	5	1.1	1.8
17	いんげん	5	1.1	1.8
18	唐人菜	5	1.1	1.8
19	アスパラガス	4	0.8	1.4
20	トマト	4	0.8	1.4
21	はくさい	3	0.6	1.1
22	おくら	3	0.6	1.1
23	ほうれんそう	3	0.6	1.1
24	セルリー	3	0.6	1.1
25	トウモロコシ	2	0.4	0.7
26	とうがん	2	0.4	0.7
27	ししとう	2	0.4	0.7
28	にら	2	0.4	0.7
29	しょうが	1	0.2	0.4
30	スナップエンドウ	1	0.2	0.4
31	さやえんどう	1	0.2	0.4
32	カリフラワー	1	0.2	0.4
33	水菜	1	0.2	0.4
34	ピーマン	1	0.2	0.4
35	そらまめ	1	0.2	0.4
	合計	476	100.0	167.0

問16 選択肢6「果樹」作物名
 複数回答:3つまで 記述式

作物名回答数 21
 選択肢6回答数 17

割合1は、作物名回答数を母数として算出
 割合2は、選択肢6回答数を母数として算出

	品目名	回答数	割合1	割合2
1	みかん	9	42.9	52.9
2	デコポン	3	14.3	17.6
3	オリーブ	2	9.5	11.8
4	ブルーベリー	2	9.5	11.8
5	柑橘類	2	9.5	11.8
6	いちじく	1	4.8	5.9
7	かき	1	4.8	5.9
8	びわ	1	4.8	5.9
	合計	21	100.0	123.5

問16 選択肢7「花き」作物名
 複数回答:3つまで 記述式

作物名回答数 25
 選択肢7回答数 20

割合1は、作物名回答数を母数として算出
 割合2は、選択肢7回答数を母数として算出

	品目名	回答数	割合1	割合2
1	菊	6	24.0	30.0
2	スターチス	4	16.0	20.0
3	カーネーション	3	12.0	15.0
4	切り花	2	8.0	10.0
5	ゆり	2	8.0	10.0
6	バラ	2	8.0	10.0
7	トルコキキョウ	1	4.0	5.0
8	小菊	1	4.0	5.0
9	ひまわり	1	4.0	5.0
10	洋ラン	1	4.0	5.0
11	コスモス	1	4.0	5.0
12	グラジオラス	1	4.0	5.0
	合計	25	100.0	125.0

問16 選択肢10「飼料作物」作物名
複数回答:3つまで 記述式

作物名回答数 93
選択肢10回答数 44

割合1は、作物名回答数を母数として算出
割合2は、選択肢10回答数を母数として算出

	品目名	回答数	割合1	割合2
1	イタリアンライグラス	38	40.9	86.4
2	ソルゴー	14	15.1	31.8
3	飼料用トウモロコシ	13	14.0	29.5
4	スーダン	9	9.7	20.5
5	エンバク	8	8.6	18.2
6	グリーンミレット	3	3.2	6.8
7	ヒエ	2	2.2	4.5
8	飼料用かぶ	2	2.2	4.5
9	ソルガム	2	2.2	4.5
10	ホールクロップ	1	1.1	2.3
11	飼料用米	1	1.1	2.3
	合計	93	100.0	211.4

問16 選択肢11「畜産」飼養家畜名
複数回答:3つまで 記述式

飼養家畜名回答数 66
選択肢11回答数 64

割合1は、飼養家畜名回答数を母数として算出
割合2は、選択肢11回答数を母数として算出

	品目名	回答数	割合1	割合2
1	繁殖牛	22	33.3	34.4
2	乳牛	14	21.2	21.9
3	牛	10	15.2	15.6
4	肉用牛	6	9.1	9.4
5	黒毛和牛	6	9.1	9.4
6	豚	3	4.5	4.7
7	ブロイラー	2	3.0	3.1
8	子牛	2	3.0	3.1
9	養蜂	1	1.5	1.6
	合計	66	100.0	103.1

●栽培および、飼育品目の主な出荷先

問16 選択肢1「水稻」

出荷先回答数 389

選択肢1回答数 261

割合1は、出荷先回答数を母数として算出

割合2は、選択肢1回答数を母数として算出

	品目名	回答数	割合1	割合2
1	農協系統出荷	81	20.8	31.0
2	農協農産物直売所	5	1.3	1.9
3	その他農畜産物直売所	13	3.3	5.0
4	卸売市場	2	0.5	0.8
5	卸業者	31	8.0	11.9
6	スーパーマーケット	0	0.0	0.0
7	通信販売	5	1.3	1.9
8	食品製造業	1	0.3	0.4
9	外食産業	4	1.0	1.5
10	自家消費	176	45.2	67.4
11	その他	47	12.1	18.0
12	無回答	24	6.2	9.2
	合計	389	100.0	149.0

問16 選択肢2「豆類」

出荷先回答数 12

選択肢2回答数 6

割合1は、出荷先回答数を母数として算出

割合2は、選択肢2回答数を母数として算出

	品目名	回答数	割合1	割合2
1	農協系統出荷	4	33.3	66.7
2	農協農産物直売所	2	16.7	33.3
3	その他農畜産物直売所	2	16.7	33.3
4	卸売市場	0	0.0	0.0
5	卸業者	0	0.0	0.0
6	スーパーマーケット	0	0.0	0.0
7	通信販売	0	0.0	0.0
8	食品製造業	0	0.0	0.0
9	外食産業	0	0.0	0.0
10	自家消費	2	16.7	33.3
11	その他	1	8.3	16.7
12	無回答	1	8.3	16.7
	合計	12	100.0	200.0

問16 選択肢3「麦類」

出荷先回答数 16

選択肢3回答数 14

割合1は、出荷先回答数を母数として算出

割合2は、選択肢3回答数を母数として算出

	品目名	回答数	割合1	割合2
1	農協系統出荷	12	75.0	85.7
2	農協農産物直売所	1	6.3	7.1
3	その他農畜産物直売所	1	6.3	7.1
4	卸売市場	0	0.0	0.0
5	卸業者	0	0.0	0.0
6	スーパーマーケット	0	0.0	0.0
7	通信販売	0	0.0	0.0
8	食品製造業	0	0.0	0.0
9	外食産業	0	0.0	0.0
10	自家消費	1	6.3	7.1
11	その他	1	6.3	7.1
12	無回答	0	0.0	0.0
	合計	16	100.0	114.3

問16 選択肢4「いも類」

出荷先回答数 236

選択肢4回答数 161

割合1は、出荷先回答数を母数として算出

割合2は、選択肢4回答数を母数として算出

	品目名	回答数	割合1	割合2
1	農協系統出荷	111	47.0	68.9
2	農協農産物直売所	15	6.4	9.3
3	その他農畜産物直売所	5	2.1	3.1
4	卸売市場	9	3.8	5.6
5	卸業者	62	26.3	38.5
6	スーパーマーケット	1	0.4	0.6
7	通信販売	0	0.0	0.0
8	食品製造業	2	0.8	1.2
9	外食産業	0	0.0	0.0
10	自家消費	20	8.5	12.4
11	その他	8	3.4	5.0
12	無回答	3	1.3	1.9
	合計	236	100.0	146.6

問16 選択肢5「野菜」

出荷先回答数 632
 選択肢5回答数 285

割合1は、出荷先回答数を母数として算出
 割合2は、選択肢5回答数を母数として算出

品目名	回答数	割合1	割合2
1 農協系統出荷	299	47.3	104.9
2 農協農産物直売所	38	6.0	13.3
3 その他農畜産物直売所	29	4.6	10.2
4 卸売市場	95	15.0	33.3
5 卸業者	88	13.9	30.9
6 スーパーマーケット	2	0.3	0.7
7 通信販売	0	0.0	0.0
8 食品製造業	7	1.1	2.5
9 外食産業	8	1.3	2.8
10 自家消費	39	6.2	13.7
11 その他	14	2.2	4.9
12 無回答	13	2.1	4.6
合計	632	100.0	221.8

問16 選択肢6「果樹」

出荷先回答数 33
 選択肢6回答数 17

割合1は、出荷先回答数を母数として算出
 割合2は、選択肢6回答数を母数として算出

品目名	回答数	割合1	割合2
1 農協系統出荷	9	27.3	52.9
2 農協農産物直売所	3	9.1	17.6
3 その他農畜産物直売所	4	12.1	23.5
4 卸売市場	6	18.2	35.3
5 卸業者	1	3.0	5.9
6 スーパーマーケット	0	0.0	0.0
7 通信販売	0	0.0	0.0
8 食品製造業	2	6.1	11.8
9 外食産業	1	3.0	5.9
10 自家消費	3	9.1	17.6
11 その他	1	3.0	5.9
12 無回答	3	9.1	17.6
合計	33	100.0	194.1

問16 選択肢7「花き」

出荷先回答数 39
 選択肢7回答数 20

割合1は、出荷先回答数を母数として算出

割合2は、選択肢7回答数を母数として算出

	品目名	回答数	割合1	割合2
1	農協系統出荷	12	30.8	60.0
2	農協農産物直売所	5	12.8	25.0
3	その他農畜産物直売所	4	10.3	20.0
4	卸売市場	16	41.0	80.0
5	卸業者	0	0.0	0.0
6	スーパーマーケット	1	2.6	5.0
7	通信販売	0	0.0	0.0
8	食品製造業	0	0.0	0.0
9	外食産業	0	0.0	0.0
10	自家消費	1	2.6	5.0
11	その他	0	0.0	0.0
12	無回答	0	0.0	0.0
	合計	39	100.0	195.0

問16 選択肢8「茶」

出荷先回答数 4
 選択肢8回答数 2

割合1は、出荷先回答数を母数として算出

割合2は、選択肢8回答数を母数として算出

	品目名	回答数	割合1	割合2
1	農協系統出荷	0	0.0	0.0
2	農協農産物直売所	1	25.0	50.0
3	その他農畜産物直売所	0	0.0	0.0
4	卸売市場	1	25.0	50.0
5	卸業者	0	0.0	0.0
6	スーパーマーケット	1	25.0	50.0
7	通信販売	0	0.0	0.0
8	食品製造業	0	0.0	0.0
9	外食産業	0	0.0	0.0
10	自家消費	0	0.0	0.0
11	その他	0	0.0	0.0
12	無回答	1	25.0	50.0
	合計	4	100.0	200.0

問16 選択肢9「特用林産物」

該当なし

選択肢9回答数 0

問16 選択肢10「飼料作物」

出荷先回答数 93

選択肢10回答数 44

割合1は、出荷先回答数を母数として算出

割合2は、選択肢10回答数を母数として算出

	品目名	回答数	割合1	割合2
1	農協系統出荷	0	0.0	0.0
2	農協農産物直売所	0	0.0	0.0
3	その他農畜産物直売所	0	0.0	0.0
4	卸売市場	0	0.0	0.0
5	卸業者	0	0.0	0.0
6	スーパーマーケット	0	0.0	0.0
7	通信販売	0	0.0	0.0
8	食品製造業	0	0.0	0.0
9	外食産業	0	0.0	0.0
10	自家消費	50	53.8	113.6
11	その他	1	1.1	2.3
12	無回答	42	45.2	95.5
	合計	93	100.0	211.4

問16 選択肢11「畜産」

出荷先回答数 70

選択肢11回答数 64

割合1は、出荷先回答数を母数として算出

割合2は、選択肢11回答数を母数として算出

	品目名	回答数	割合1	割合2
1	農協系統出荷	41	58.6	64.1
2	農協農産物直売所	0	0.0	0.0
3	その他農畜産物直売所	1	1.4	1.6
4	卸売市場	7	10.0	10.9
5	卸業者	1	1.4	1.6
6	スーパーマーケット	0	0.0	0.0
7	通信販売	0	0.0	0.0
8	食品製造業	1	1.4	1.6
9	外食産業	0	0.0	0.0
10	自家消費	1	1.4	1.6
11	その他	3	4.3	4.7
12	無回答	15	21.4	23.4
	合計	70	100.0	109.4

問16で、「4 卸売業者」とお答えになった方にお伺いします。

問17 具体的な出荷先をご記入ください。

●具体的な出荷先

※問17は、問16で主な出荷先として「卸売業者」と回答した者限定ではあるが、それ以外での回答もあった。そのため、回答のすべてを集計している。

※出荷先名は回答内容の通りとし、修正は行っていない。

複数回答:3つまで 記述式

水稲

作物名		出荷先名		回答数	割合
米	1	長崎県		1	14.3
	2	大村市		1	14.3
	3	米屋		1	14.3
	4	市内		1	14.3
	5	商人		1	14.3
	6	無回答		2	28.6
		合計		7	100.0

※回答選択肢の「無回答」は、問16で作目名の回答はあったが、具体的な出荷先名が無回答であったもの。

いも類

作物名		出荷先名		回答数	割合
ばれいしょ	1	愛野		1	2.6
	2	池田合同物産		1	2.6
	3	井上青果		1	2.6
	4	潤青果		1	2.6
	5	カネヨシ		2	5.1
	6	関西		1	2.6
	7	関東		1	2.6
	8	北九州青果		1	2.6
	9	国崎青果		2	5.1
	10	商社		1	2.6
	11	青果		1	2.6
	12	長崎市場		1	2.6
	13	中村物産		1	2.6
	14	松尾商店		1	2.6
	15	松尾青果		4	10.3
	16	松山青果		3	7.7
	17	マルミヤフーズ		1	2.6
	18	マルヨシ		1	2.6
	19	南高青果		8	20.5
	20	吉尾青果		1	2.6
	21	吉尾物産		2	5.1
	22	吉森商店		1	2.6
	23	吉森青果		1	2.6
	24	無回答		1	2.6
		合計		39	100.0

※回答選択肢の「無回答」は、問16で作目名の回答はあったが、具体的な出荷先名が無回答であったもの。

野菜

n= 94

作物名	出荷先名	回答数	割合
いちご	1 北九州市	1	1.1
	2 熊本市	1	1.1
	3 青果市場	1	1.1
	4 大同青果	1	1.1
	5 東京都	1	1.1
	6 長崎市場	1	1.1
	7 長崎大同青果	1	1.1
かぼちゃ	8 南高青果	1	1.1
	9 吉森商店	2	2.1
キャベツ	10 長崎青果	1	1.1
	11 諫早青果	5	5.3
	12 九州	1	1.1
	13 島原青果	1	1.1
きゅうり	14 諫早青果	1	1.1
スイートコーン	15 島原青果	1	1.1
セルリー	16 南高青果	1	1.1
だいこん	17 長崎青果	1	1.1
たまねぎ	18 吉森青果	1	1.1
	19 諫早青果	1	1.1
	20 国崎青果	1	1.1
	21 長崎市場	1	1.1
	22 長崎青果	1	1.1
	23 中村商店	1	1.1
	24 マルミヤフーズ	1	1.1
	25 南高青果	2	2.1
にんじん	26 島原自然塾	1	1.1
ねぎ	27 県内	1	1.1
	28 大地の社	2	2.1
はくさい	29 島原自然塾	1	1.1
	30 島原青果	1	1.1
ピーマン	31 島原市	1	1.1
ブロッコリー	32 国東青果	1	1.1
	33 雲仙野菜組合	1	1.1
	34 国崎青果	3	3.2
	35 熊本市	1	1.1
	36 市場	1	1.1
	37 島原青果	1	1.1
	38 大地の社	2	2.1
	39 西松フーズ	1	1.1
ほうれんそう	40 長崎青果	1	1.1
水菜	41 大同青果	1	1.1
ミニトマト	42 諫早青果	1	1.1
メロン	43 長崎市場	1	1.1
	44 長崎県	1	1.1
	45 山田青果	1	1.1

レタス	46	南高青果	1	1.1
	47	愛野	1	1.1
	48	諫早青果	1	1.1
	49	井上青果	3	3.2
	50	潤青果	2	2.1
	51	外食産業	1	1.1
	52	九州	1	1.1
	53	国崎青果	2	2.1
	54	商社	3	3.2
	55	青果	1	1.1
	56	鷹博農事	1	1.1
	57	高峯青果	1	1.1
	58	東京都	1	1.1
	59	中村物産	2	2.1
	60	松尾青果	3	3.2
	61	松山青果	2	2.1
	62	マルヨシ	1	1.1
63	南高青果	6	6.4	
64	吉尾青果	1	1.1	
65	わたなべ青果	4	4.3	
66	無回答	1	1.1	
合計			94	100.0

※回答選択肢の「無回答」は、問16で作目名の回答はあったが、具体的な出荷先名が無回答であったもの。

果樹

n= 1

作物名	出荷先名	回答数	割合
みかん	1 長崎市場	1	100.0
合計		1	100.0

花き

n= 4

作物名	出荷先名	回答数	割合
菊	1 長崎花市場	1	25.0
スターチス	2 長崎花市場	1	25.0
トルコキキョウ	3 世田谷花き	1	25.0
	4 姫路生花	1	25.0
合計		4	100.0

畜産

n= 3

作物名	出荷先名	回答数	割合
牛	1 県南家畜市場	1	33.3
乳牛	2 熊本家畜市場	1	33.3
養蜂	3 みつい北田	1	33.3
合計		3	100.0

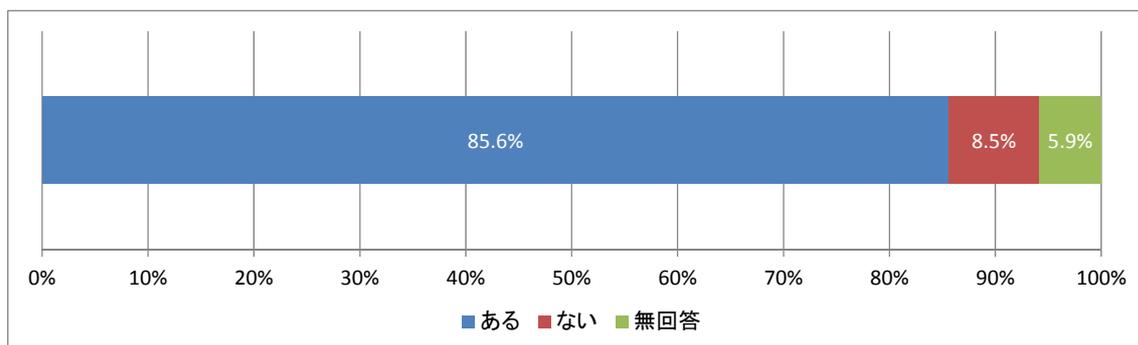
問18 現在、農業経営を行う上でのお悩み・問題点はありますか。

該当する番号1つに、○をつけてください。

●農業経営上の悩み・問題点

農業経営上の悩み・問題点は、「ある」が321戸（85.6%）、「ない」が32戸（8.5%）であった。

なお、「無回答」が22戸（5.9%）あった。



n= 375

回答選択肢		回答数	割合
1	ある	321	85.6
2	ない	32	8.5
3	無回答	22	5.9
合計		375	100.0

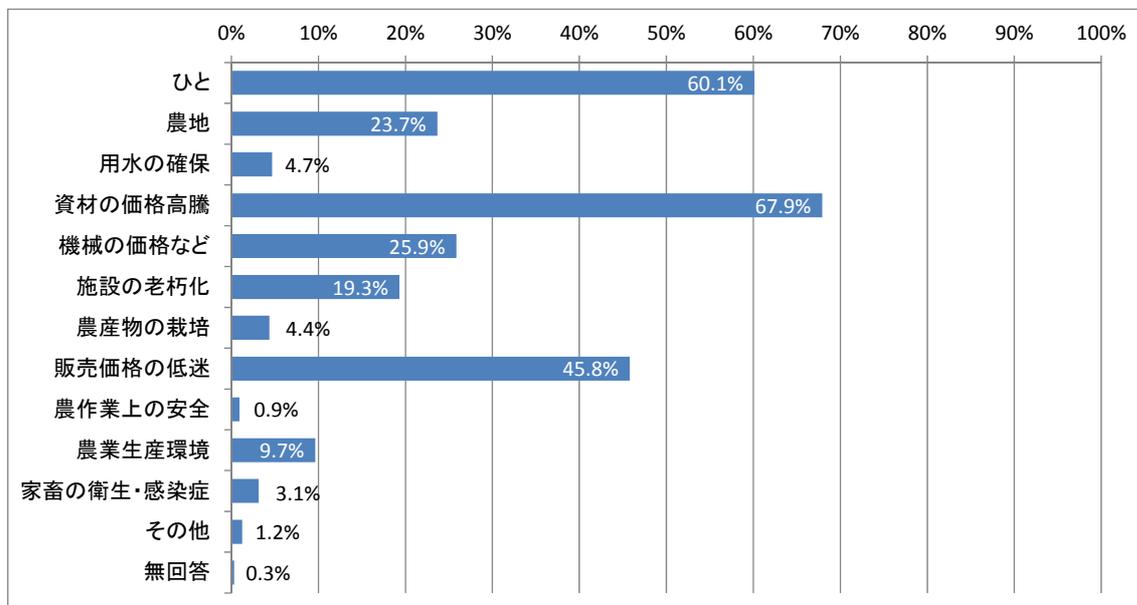
問18で、「1 ある」とお答えになった方にお伺いします。

問19 農業経営を行う上で、お悩み・問題点は次のどれですか。
該当するもの、3つまで○をつけてください。

●農業経営上の具体的な悩み・問題点

農業経営上の具体的な悩み・問題点は、「農業資材の価格高騰」が218戸(67.9%)で最も多く、次いで「ひと(労働力)」が193戸(60.1%)、「農畜産物の販売価格低迷」が147戸(45.8%)、「農業機械の価格、耐用年数」が83戸(25.9%)、「農地」が76戸(23.7%)、「農業用施設の老朽化」が62戸(19.3%)、「農業用水の確保」が15戸(4.7%)、「農産物の栽培」が14戸(4.4%)、「家畜衛生及び家畜の感染症」が10戸(3.1%)、「その他」が4戸(1.2%)、「農作業上の安全」が3戸(0.9%)の順であった。

なお、「無回答」が1戸(0.3%)あった。



問18で選択肢1「ある」と回答

複数回答:3つまで

n= 321

回答選択肢		回答数	割合
1	ひと(労働力)	193	60.1
2	農地	76	23.7
3	農業用水の確保	15	4.7
4	農業資材の価格高騰	218	67.9
5	農業機械の価格、耐用年数	83	25.9
6	農業用施設の老朽化	62	19.3
7	農産物の栽培	14	4.4
8	農畜産物の販売価格低迷	147	45.8
9	農作業上の安全	3	0.9
10	農業生産環境(鳥獣害による作物の被害)	31	9.7
11	家畜衛生及び家畜の感染症	10	3.1
12	その他	4	1.2
13	無回答	1	0.3
合計		857	267.0

※回答選択肢の「無回答」は、問19の全ての設問に無回答であったもの。

問19選択肢12「その他」の内容

記述式

n= 4

回答選択肢		回答数	割合
1	餌の価格高騰	1	25.0
2	収入について	1	25.0
3	燃料費	1	25.0
4	連作障害	1	25.0
合計		4	100.0

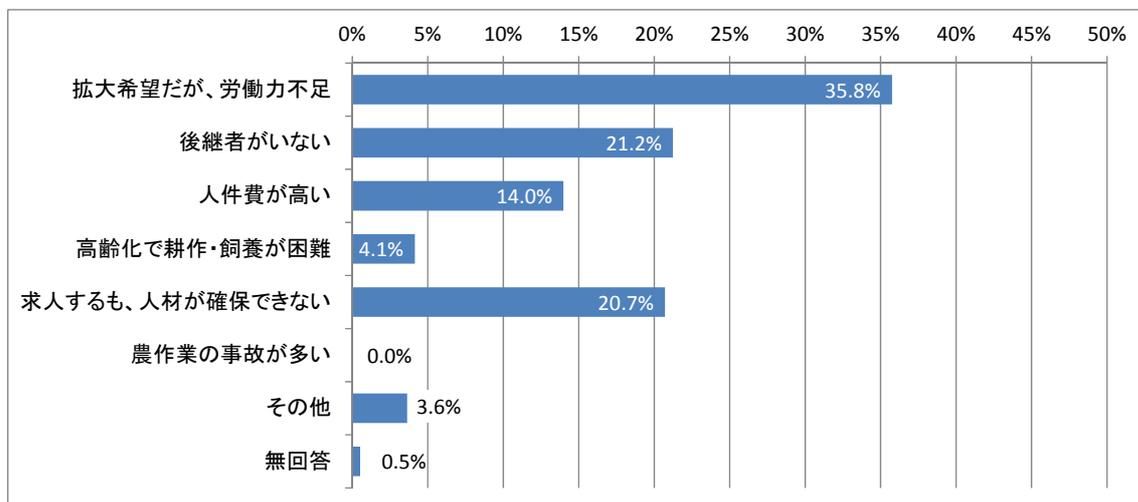
問19で、「1 ひと（労働力）」とお答えになった方にお伺いします。

問20 ひと（労働力）に対する具体的な悩み・問題点は次のどれですか。
該当する番号1つに、○をつけてください。

●ひと（労働力）に対する具体的な悩み・問題点

ひと（労働力）に対する具体的な悩み・問題点は、「規模拡大をしたいが、労働力不足」が69戸（35.8%）で最も多く、次いで「後継者がいない」が41戸（21.2%）、「パート求人をしてても人材が確保できない」が40戸（20.7%）、「人件費が高い」が27戸（14.0%）、「高齢化で耕作・飼養が困難」が8戸（4.1%）、「その他」が7戸（3.6%）、「無回答」が1戸（0.5%）の順であった。

なお、「農作業の事故が多い」との回答はなかった。



問19で選択肢1「ひと（労働力）」と回答

n = 193

回答選択肢		回答数	割合
1	規模拡大をしたいが、労働力不足	69	35.8
2	後継者がいない	41	21.2
3	人件費が高い	27	14.0
4	高齢化で耕作・飼養が困難	8	4.1
5	パート求人をしてても人材が確保できない	40	20.7
6	農作業の事故が多い	0	0.0
7	その他	7	3.6
8	無回答	1	0.5
合計		193	100.0

問20選択肢7「その他」の内容

記述式

n = 7

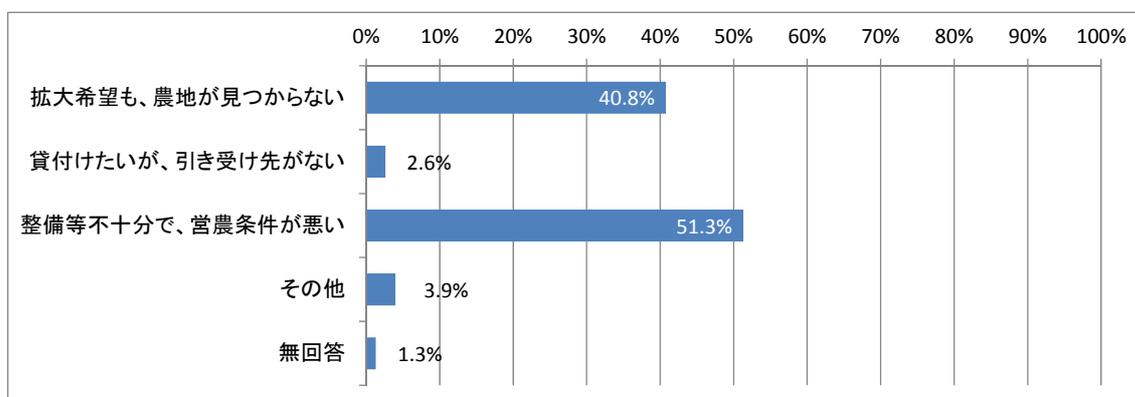
	回答選択肢	回答数	割合
1	ヘルパー事業が欲しい	1	14.3
2	求人を出す環境が整っていない	1	14.3
3	現在、従業員が2名いるが長く続けてくれるのか心配。また、やめた時の穴埋めが不安。	1	14.3
4	後継者に結婚相手がいない	1	14.3
5	必要な時だけ人材を確保したい	1	14.3
6	無回答	2	28.6
	合計	7	100.0

問19で、「2 農地」とお答えになった方にお伺いします。

問21 農地に対する具体的な悩み・問題点は次のどれですか。
該当する番号に、○をつけてください。

●農地に対する具体的な悩み・問題点

農地に対する具体的な悩み・問題点は、「基盤整備などが行われておらず、営農条件が悪い」が39戸(51.3%)で最も多く、次いで「規模拡大をしたいが、農地が見つからない」が31戸(40.8%)、「その他」が3戸(3.9%)、「農地を貸したいが、引き受け先がない」が2戸(2.6%)、「無回答」が1戸(1.3%)の順であった。



問19で選択肢2「農地」と回答

n = 76

回答選択肢	回答数	割合
1 規模拡大をしたいが、農地が見つからない	31	40.8
2 農地を貸したいが、引き受け先がない	2	2.6
3 基盤整備などが行われておらず、営農条件が悪い	39	51.3
4 その他	3	3.9
5 無回答	1	1.3
合計	76	100.0

問21選択肢4「その他」の内容

記述式

n = 3

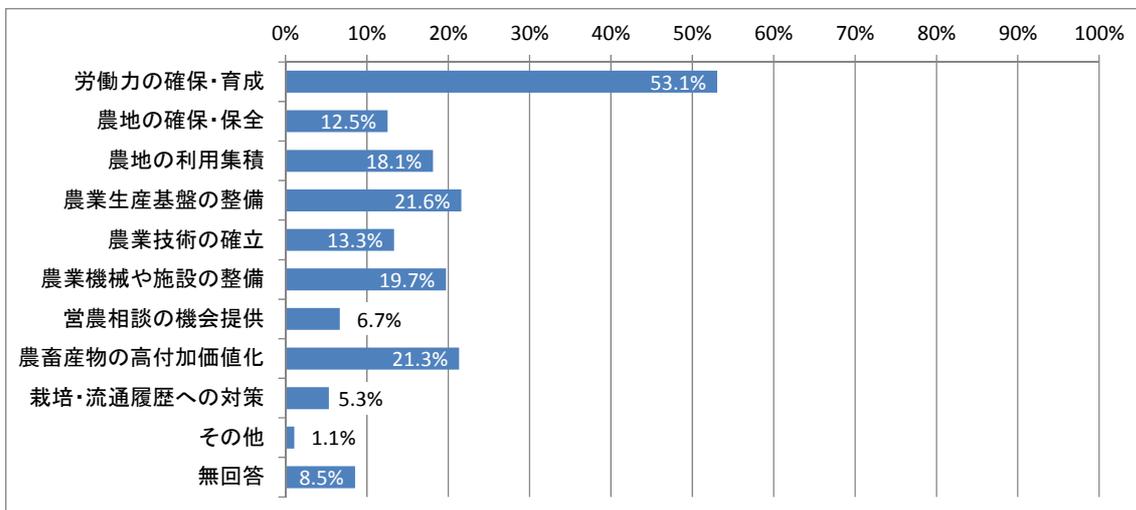
回答選択肢	回答数	割合
1 規模拡大のための希望農地が所有者不明・居住地は遠方・未相続などであったりすること。	1	33.3
2 農地が点在している	1	33.3
3 無回答	1	33.3
合計	3	100.0

問22 地域農業を存続していく上で、何が重要だと思いますか。

該当する番号に、○をつけてください。

●地域農業存続の上で重要なこと

地域農業存続の上で重要なことは、「労働力の確保・育成」が199戸（53.1%）で最も多く、次いで「農業生産基盤の整備」が81戸（21.6%）、「農畜産物の高付加価値化」が80戸（21.3%）、「農業機械や施設の整備」が74戸（19.7%）、「農地の利用集積」が68戸（18.1%）、「農業技術の確立」が50戸（13.3%）、「農地の確保・保全」が47戸（12.5%）、「無回答」が32戸（8.5%）、「営農相談の機会提供」が25戸（6.7%）、「農産物の栽培履歴や、生産から販売までの流通履歴への対策」が20戸（5.3%）、「その他」が4戸（1.1%）の順であった。



複数回答：無制限

n= 375

	回答選択肢	回答数	割合
1	労働力の確保・育成	199	53.1
2	農地の確保・保全	47	12.5
3	農地の利用集積	68	18.1
4	農業生産基盤の整備	81	21.6
5	農業技術の確立	50	13.3
6	農業機械や施設の整備	74	19.7
7	営農相談の機会提供	25	6.7
8	農畜産物の高付加価値化	80	21.3
9	農産物の栽培履歴や、生産から販売までの流通履歴への対策	20	5.3
10	その他	4	1.1
11	無回答	32	8.5
	合計	680	181.3

※回答選択肢の「無回答」は、問22の全ての設問に無回答であったもの。

問22選択肢10「その他」の内容

記述式

n= 4

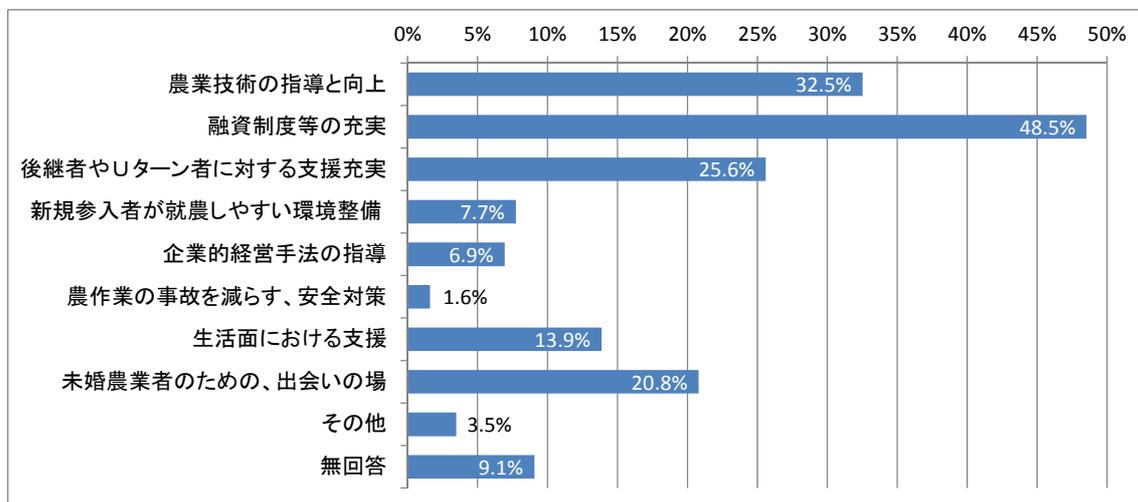
回答選択肢		回答数	割合
1	安定した収入	1	25.0
2	若手の育成	1	25.0
3	農業経営者の育成	1	25.0
4	販売経路の構築	1	25.0
合計		4	100.0

問23 担い手を確保・育成するためには、何が必要だと思いますか。

該当するもの、2つまで○をつけてください。

●担い手を確保・育成するために必要なこと

担い手を確保・育成するために必要なことは、「意欲ある農業者への融資制度等の充実」が182戸（48.5%）で最も多く、次いで「農業技術の指導と向上」が122戸（32.5%）、「農家の後継者やUターン者に対する支援の充実」が96戸（25.6%）、「未婚の農業者のために、出会いの場を設ける」が78戸（20.8%）、「生活面における支援」が52戸（13.9%）、「無回答」が34戸（9.1%）、「農業以外からの新規参入者が就農しやすい環境の整備」が29戸（7.7%）、「企業的経営手法の指導」が26戸（6.9%）、「その他」が13戸（3.5%）、「農作業（農業機械）の事故を減らすため、安全対策を図る」が6戸（1.6%）の順であった。



複数回答:2つまで

n= 375

回答選択肢	回答数	割合
1 農業技術の指導と向上	122	32.5
2 意欲ある農業者への融資制度等の充実	182	48.5
3 農家の後継者やUターン者に対する支援の充実	96	25.6
4 農業以外からの新規参入者が就農しやすい環境の整備	29	7.7
5 企業的経営手法の指導	26	6.9
6 農作業(農業機械)の事故を減らすため、安全対策を図る	6	1.6
7 生活面における支援	52	13.9
8 未婚の農業者のために、出会いの場を設ける	78	20.8
9 その他	13	3.5
10 無回答	34	9.1
合計	638	170.1

※回答選択肢の「無回答」は、問23の全ての設問に無回答であったもの。

問23選択肢9「その他」の内容

記述式

n= 13

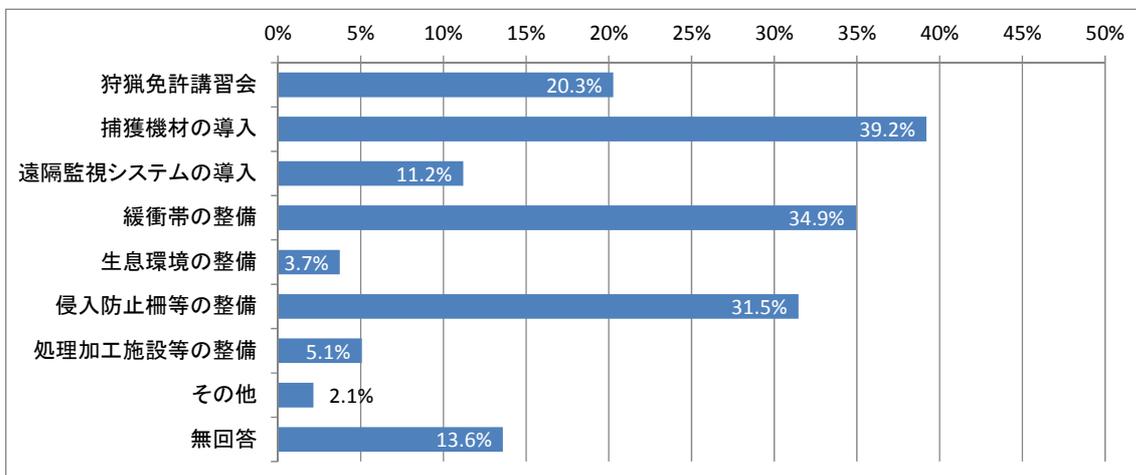
回答選択肢		回答数	割合
1	安定した経営。利益があれば担い手の確保は出来るはず。	1	7.7
2	安定した収入の確保	1	7.7
3	価格安定	1	7.7
4	機械化による作業の軽減と販路拡大	1	7.7
5	現役農業者に対する教育指導	1	7.7
6	仕事ばかりではなく、趣味をつくる	1	7.7
7	市場価格の上昇	1	7.7
8	指導者がいない	1	7.7
9	生産物価格の安定	1	7.7
10	担い手に対する環境整備	1	7.7
11	農産物価格が高くなり安定した高収入が得られれば、誰でも農業をする。	1	7.7
12	農産物価格の安定	1	7.7
13	無回答	1	7.7
合計		13	100.0

問24 有害鳥獣被害への対策として何が必要だと思いますか。

該当するもの、2つまで○をつけてください。

●有害鳥獣被害への対策

有害鳥獣被害への対策は、「安全で効果的な捕獲に役立つ箱わななど、捕獲機材の導入」が147戸(39.2%)で最も多く、次いで「鳥獣を農地に近づきにくくさせる緩衝帯の整備」が131戸(34.9%)、「地域が一体となった侵入防止柵等の整備」が118戸(31.5%)、「捕獲の担い手育成のための狩猟免許講習会」が76戸(20.3%)、「無回答」が51戸(13.6%)、「わなによる捕獲の確認作業を軽減する遠隔監視システムの導入」が42戸(11.2%)、「捕獲鳥獣を地域資源として活用するための処理加工施設等の整備」が19戸(5.1%)、「植栽等による鳥獣の生息環境の整備」が14戸(3.7%)、「その他」が8戸(2.1%)の順であった。



複数回答:2つまで

n= 375

	回答選択肢	回答数	割合
1	捕獲の担い手育成のための狩猟免許講習会	76	20.3
2	安全で効果的な捕獲に役立つ箱わななど、捕獲機材の導入	147	39.2
3	わなによる捕獲の確認作業を軽減する遠隔監視システムの導入	42	11.2
4	鳥獣を農地に近づきにくくさせる緩衝帯の整備	131	34.9
5	植栽等による鳥獣の生息環境の整備	14	3.7
6	地域が一体となった侵入防止柵等の整備	118	31.5
7	捕獲鳥獣を地域資源として活用するための処理加工施設等の整備	19	5.1
8	その他	8	2.1
9	無回答	51	13.6
	合計	606	161.6

※回答選択肢の「無回答」は、問23の全ての設問に無回答であったもの。

問24選択肢8「その他」の内容

記述式

n= 8

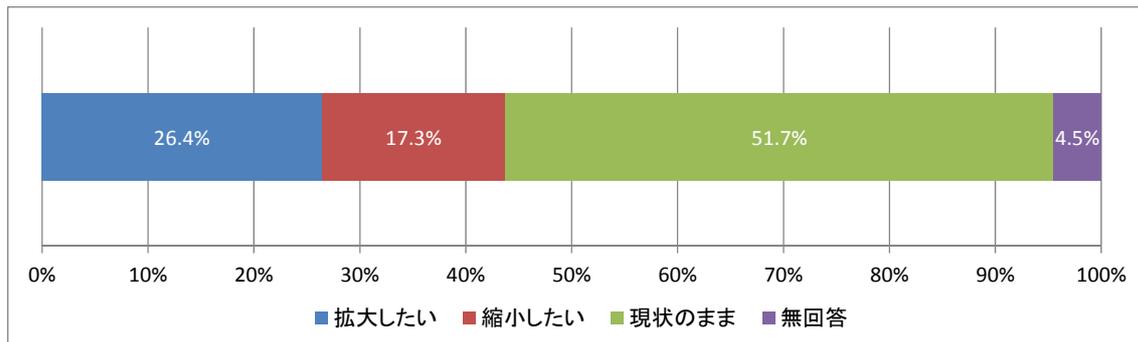
	回答選択肢	回答数	割合
1	ワイヤーメッシュの支給をやってほしい。	1	12.5
2	殺処分	1	12.5
3	山から出さないような対策	1	12.5
4	山を整備すること	1	12.5
5	自衛隊に要請しての完全駆除	1	12.5
6	対策が過度になりすぎないように配慮し、自然界とのバランスを保つようにすること。	1	12.5
7	道路の整備	1	12.5
8	繁殖を抑えるホルモン剤等で減少させる。	1	12.5
	合計	8	100.0

問25 10年後の経営耕地の規模について、どのようにお考えですか。

該当する番号1つに、○をつけてください。

●10年後の経営耕地の規模

10年後の経営耕地の規模は、「現状のまま」が194戸（51.7%）で最も多く、次いで「拡大したい」が99戸（26.4%）、「縮小したい」が65戸（17.3%）、「無回答」が17戸（4.5%）の順であった。



n= 375

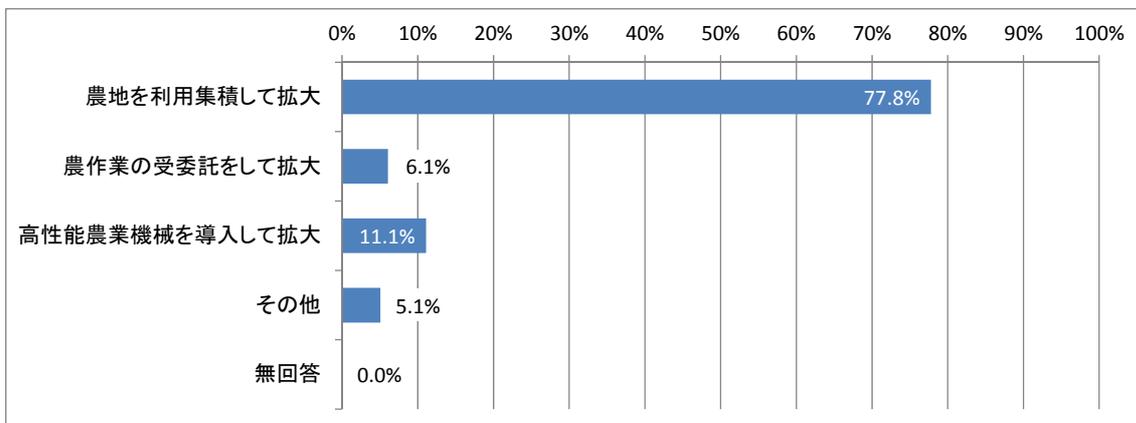
回答選択肢		回答数	割合
1	拡大したい	99	26.4
2	縮小したい	65	17.3
3	現状のまま	194	51.7
4	無回答	17	4.5
合計		375	100.0

問25で、「1 拡大したい」とお答えになった方にお伺いします。

問26 拡大する方法は、どのようにお考えですか。
該当する番号1つに、○をつけてください。

●経営耕地規模を拡大する方法

経営耕地規模を拡大する方法は、「周辺の農地を利用集積して拡大したい」が77戸(77.8%)で最も多く、次いで「高性能の農業機械を導入して拡大したい」が11戸(11.1%)、「周辺の農家から農作業の受委託をして拡大したい」が6戸(6.1%)、「その他」が5戸(5.1%)の順であった。



問25で選択肢1「拡大したい」と回答

		n= 99	
回答選択肢		回答数	割合
1	周辺の農地を利用集積して拡大したい	77	77.8
2	周辺の農家から農作業の受委託をして拡大したい	6	6.1
3	高性能の農業機械を導入して拡大したい	11	11.1
4	その他	5	5.1
5	無回答	0	0.0
合計		99	100.0

問26選択肢4「その他」の内容

記述式

		n= 5	
回答選択肢		回答数	割合
1	休耕地の解消	1	20.0
2	労働力を確保し、育成したい	1	20.0
3	無回答	3	60.0
合計		5	100.0

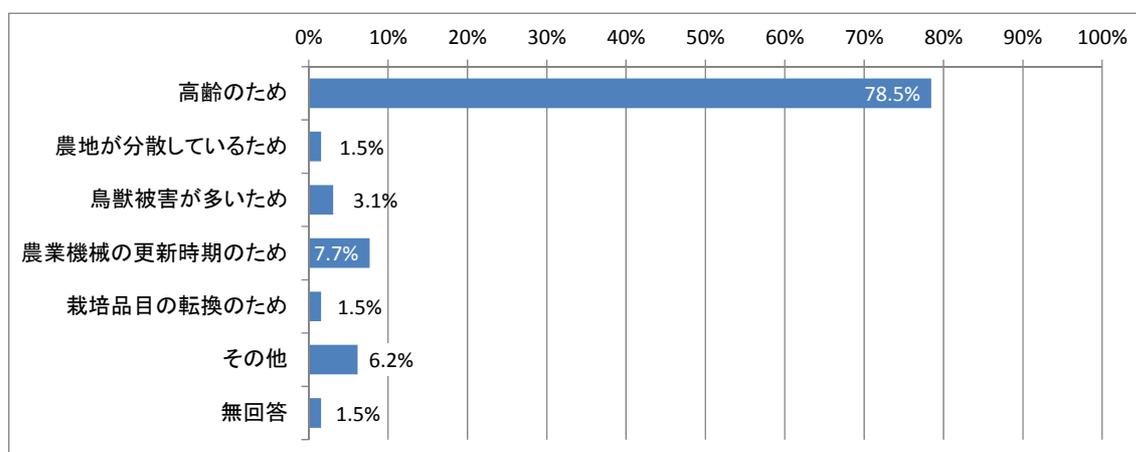
問25で、「2 縮小したい」とお答えになった方にお伺いします。

問27 縮小したい理由は、どのようにお考えですか。

該当する番号1つに、○をつけてください。

●経営耕地規模を縮小したい理由

経営耕地規模を縮小したい理由は、「高齢のため」が51戸（78.5%）で最も多く、次いで「農業機械が買い替えの時期のため」が5戸（7.7%）、「その他」が4戸（6.2%）、「鳥獣被害が多いため」が2戸（3.1%）、「農地が分散しているため」、「栽培品目の転換のため」、「無回答」が同じく1戸（1.5%）の順であった。



問25で選択肢1「縮小したい」と回答

n= 65

回答選択肢		回答数	割合
1	高齢のため	51	78.5
2	農地が分散しているため	1	1.5
3	鳥獣被害が多いため	2	3.1
4	農業機械が買い替えの時期のため	5	7.7
5	栽培品目の転換のため	1	1.5
6	その他	4	6.2
7	無回答	1	1.5
合計		65	100.0

問27選択肢6「その他」の内容

記述式

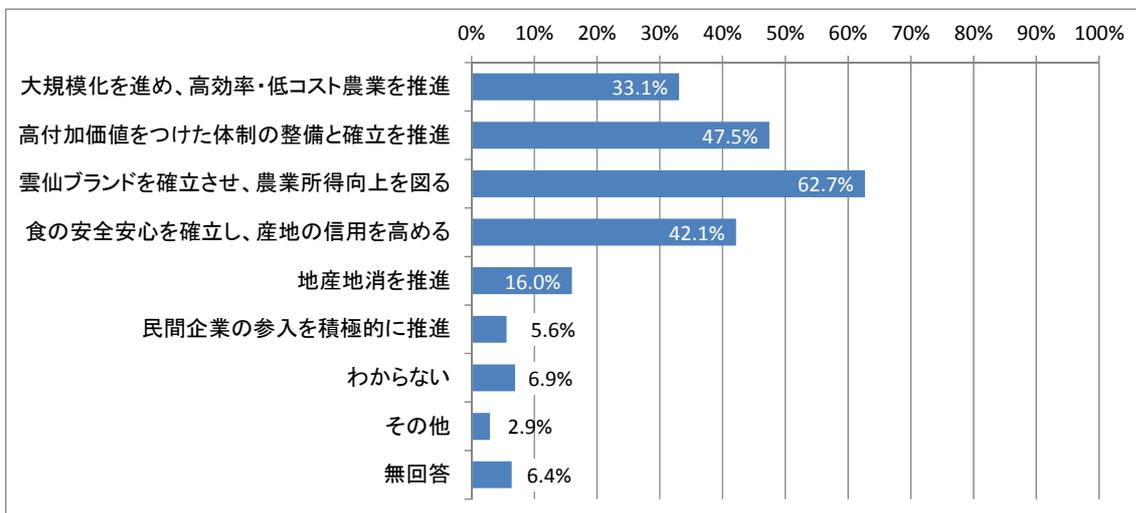
n= 4

回答選択肢		回答数	割合
1	労働力不足	3	75.0
2	農産物価格の低迷	1	25.0
合計		4	100.0

問28 おおむね10年後の雲仙市のあるべき農業の姿について、どのようにお考えですか。
該当するもの、3つまで○をつけてください。

●おおむね10年後の雲仙市のあるべき農業の姿

おおむね10年後の雲仙市のあるべき農業の姿は、「雲仙ブランドを確立させ、農業所得の向上を図るべき」が235戸（62.7%）で最も多く、次いで「高付加価値をつけた体制の整備と確立を推進するべき」が178戸（47.5%）、「食の安全安心をいっそう確立し、産地としての信用をより高めるべき」が158戸（42.1%）、「大規模化を進めて高効率・低コストの農業を推進するべき」が124戸（33.1%）、「地産地消を推進するべき」が60戸（16.0%）、「わからない」が26戸（6.9%）、「無回答」が24戸（6.4%）、「民間企業の農業参入を積極的に推進するべき」が21戸（5.6%）、「その他」11戸（2.9%）の順であった。



複数回答:3つまで

n= 375

	回答選択肢	回答数	割合
1	大規模化を進めて高効率・低コストの農業を推進するべき	124	33.1
2	高付加価値をつけた体制の整備と確立を推進するべき	178	47.5
3	雲仙ブランドを確立させ、農業所得の向上を図るべき	235	62.7
4	食の安全安心をいっそう確立し、産地としての信用をより高めるべき	158	42.1
5	地産地消を推進するべき	60	16.0
6	民間企業の農業参入を積極的に推進するべき	21	5.6
7	わからない	26	6.9
8	その他	11	2.9
9	無回答	24	6.4
	合計	837	223.2

※回答選択肢の「無回答」は、問28の全ての設問に無回答であったもの。

問28選択肢8「その他」の内容

記述式

n= 11

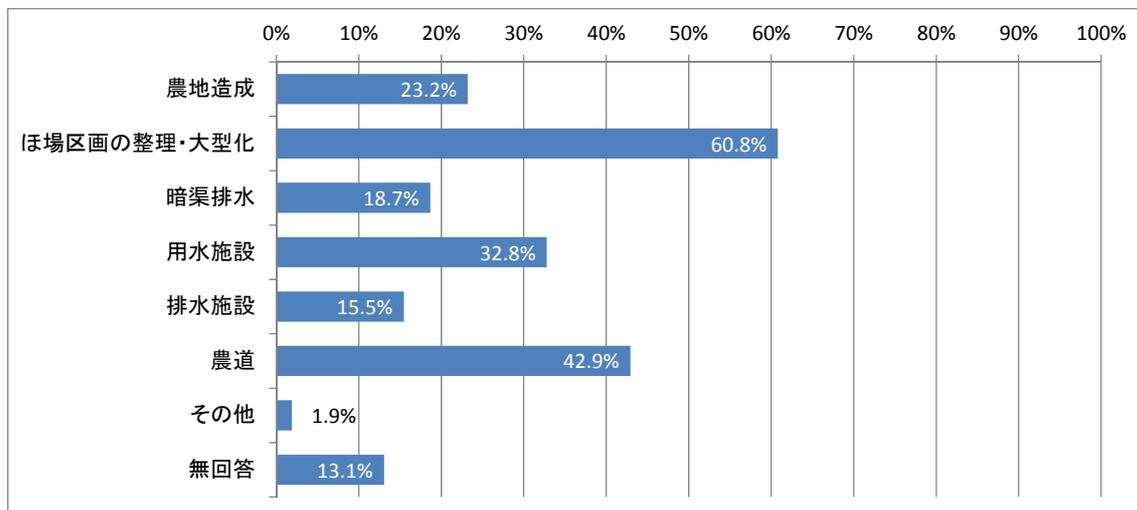
	回答選択肢	回答数	割合
1	やる気のある農家に対する行政のバックアップ	1	9.1
2	企業的な経営感覚を身に付け、自身で販路を開拓させていくべき。	1	9.1
3	契約栽培を中心に、安定的な価格	1	9.1
4	若い農業者の育成	1	9.1
5	新品種導入による産地育成。特産物の育成。	1	9.1
6	人口減少への対策	1	9.1
7	大規模農家と小規模農家の区別を明確にして、事業を推進するべき。	1	9.1
8	地区全体が一体となった農業経営	1	9.1
9	道路の整備	1	9.1
10	農産物加工場を作るべき	1	9.1
11	農林水産業を通して、日本のみならず海外からも視察や観光に訪れるモデルとなる雲仙市を作るべき。	1	9.1
	合計	11	100.0

問29 地域の農業生産性向上を図るためには、どのような農業生産基盤の整備が必要だと思いますか。該当するもの、3つまで○をつけてください。

●地域の農業生産性向上を図るために必要な農業生産基盤整備

地域の農業生産性向上を図るために必要な農業生産基盤整備は、「ほ場区画の整理・大型化(ほ場整備)」が228戸(60.8%)で最も多く、次いで「農道」が161戸(42.9%)、

「用水施設(開水路、パイプライン、揚水機場、ため池)」が123戸(32.8%)、「農地造成(採草放牧地など)」が87戸(23.2%)、「暗渠排水」が70戸(18.7%)、「排水施設(水路、排水門・樋門、排水機場)」が58戸(15.5%)、「無回答」が49戸(13.1%)、「その他」が7戸(1.9%)の順であった。



複数回答:3つまで

n= 375

回答選択肢	回答数	割合
1 農地造成(採草放牧地など)	87	23.2
2 ほ場区画の整理・大型化(ほ場整備)	228	60.8
3 暗渠排水	70	18.7
4 用水施設(開水路、パイプライン、揚水機場、ため池)	123	32.8
5 排水施設(水路、排水門・樋門、排水機場)	58	15.5
6 農道	161	42.9
7 その他	7	1.9
8 無回答	49	13.1
合計	783	208.8

※回答選択肢の「無回答」は、問29の全ての設問に無回答であったもの。

問29選択肢7「その他」の内容

記述式

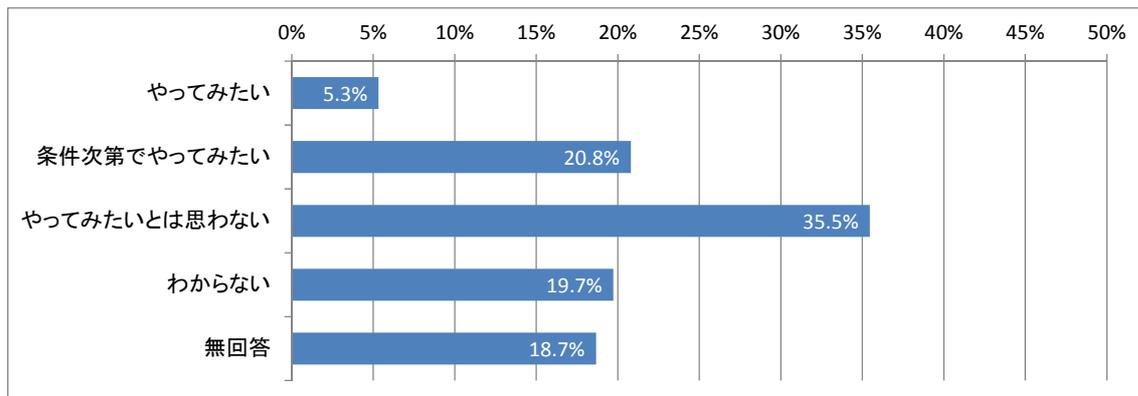
n= 7

	回答選択肢	回答数	割合
1	効率的な農業経営が行えるインフラ整備	1	14.3
2	消費量が減っているので、生産量は必要ないと思う。	1	14.3
3	生態系を破壊しないよう十分に配慮し、整備は最小限にとどめる必要がある。	1	14.3
4	大規模化では対応できない作物の生産向上に対する基盤整備	1	14.3
5	南串山町は段々畑が多く、機械の出し入れが困難。	1	14.3
6	労力削減のための機械の補助	1	14.3
7	無回答	1	14.3
	合計	7	100.0

問30 あなたは農畜産物の生産だけでなく、農畜産物の加工や流通など6次産業化をやってみたいと思いますか。該当する番号1つに、○をつけてください。

●農畜産物の加工や流通など6次産業化

農畜産物の加工や流通など6次産業化は、「やってみたいとは思わない」が133戸（35.5%）で最も多く、次いで「条件次第でやってみたいと思う」が78戸（20.8%）、「わからない」が74戸（19.7%）、「無回答」が70戸（18.7%）、「やってみたいと思う」が20戸（5.3%）の順であった。



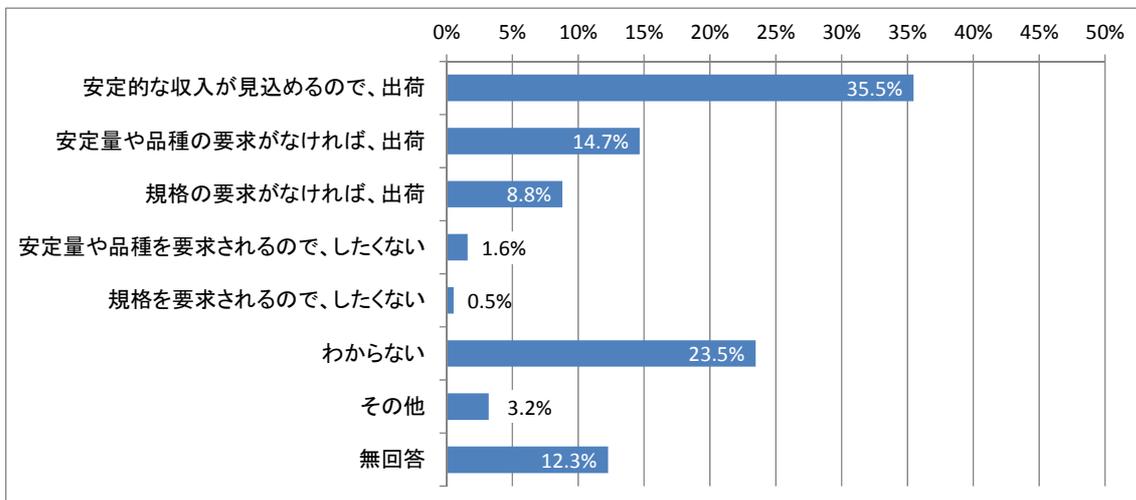
n= 375

回答選択肢		回答数	割合
1	やってみたいと思う	20	5.3
2	条件次第でやってみたいと思う	78	20.8
3	やってみたいとは思わない	133	35.5
4	わからない	74	19.7
5	無回答	70	18.7
合計		375	100.0

問31 あなたは市内に、野菜のカット工場が建設・操業した場合、野菜を出荷したいと思いますか。該当する番号1つに、○をつけてください。

●野菜のカット工場が建設・操業した場合の出荷意向

野菜のカット工場が建設・操業した場合の出荷意向は、「安定的な収入が見込めるので、出荷したい」が133戸(35.5%)で最も多く、次いで「わからない」が88戸(23.5%)、「安定量や品種が求められなければ、出荷したい」が55戸(14.7%)、「無回答」が46戸(12.3%)、「色、形、大きさなど規格が求められなければ、出荷したい」が33戸(8.8%)、「その他」が12戸(3.2%)、「安定量や品種が求められるので、出荷したくない」が6戸(1.6%)、「色、形、大きさなど規格が求められるので、出荷したくない」が2戸(0.5%)の順であった。



n= 375

回答選択肢		回答数	割合
1	安定的な収入が見込めるので、出荷したい	133	35.5
2	安定量や品種が求められなければ、出荷したい	55	14.7
3	色、形、大きさなど規格が求められなければ、出荷したい	33	8.8
4	安定量や品種が求められるので、出荷したくない	6	1.6
5	色、形、大きさなど規格が求められるので、出荷したくない	2	0.5
6	わからない	88	23.5
7	その他	12	3.2
8	無回答	46	12.3
合計		375	100.0

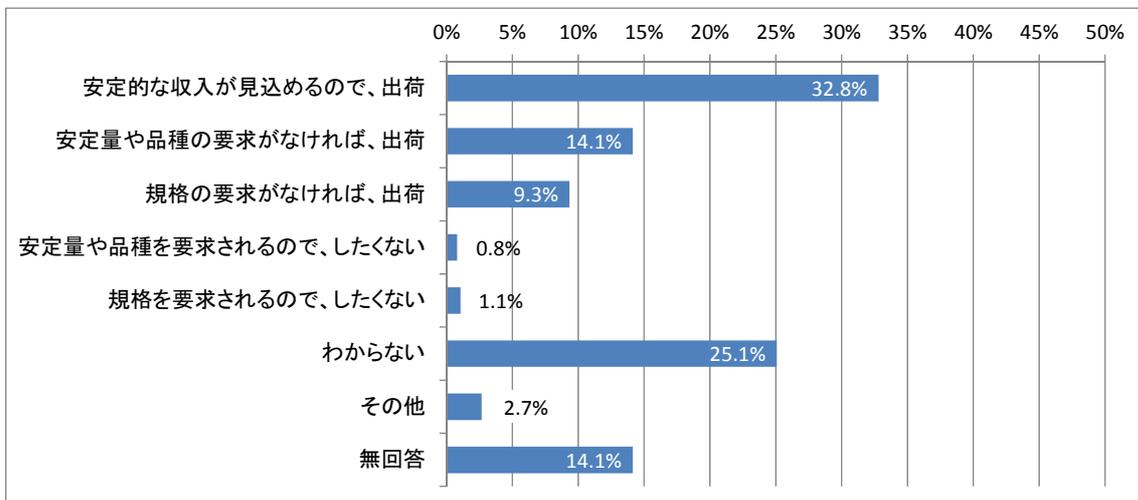
問31選択肢7「その他」の内容
記述式

		n= 12	
	回答選択肢	回答数	割合
1	JAの生産部会で働きたい	1	8.3
2	カット野菜を販売できる人材が必要	1	8.3
3	安定した収入が見込めれば出荷する	1	8.3
4	加工用の野菜は大量生産になるので、面積不足	1	8.3
5	経済的に見合えば出荷する	1	8.3
6	現実的な話とは思えない	1	8.3
7	事業者と生産者の両者が、折り合いの付くことが条件。両者がWin-Winの関係。	1	8.3
8	条件次第	1	8.3
9	必要ない	1	8.3
10	有利なら出荷したい	1	8.3
11	無回答	2	16.7
	合計	12	100.0

問32 あなたは市内に、惣菜工場が建設・操業した場合、農畜産物を出荷したいと思いま
すか。該当する番号1つに、○をつけてください。

●惣菜工場が建設・操業した場合の出荷意向

惣菜工場が建設・操業した場合の出荷意向は、「安定的な収入が見込めるので、出荷したい」が123戸(32.8%)で最も多く、次いで「わからない」が94戸(25.1%)、「安定量や品種が求められなければ、出荷したい」と「無回答」がともに53戸(14.1%)、「色、形、大きさなど規格が求められなければ、出荷したい」が35戸(9.3%)、「その他」が10戸(2.7%)、「色、形、大きさなど規格が求められるので、出荷したくない」が4戸(1.1%)、「安定量や品種が求められるので、出荷したくない」が3戸(0.8%)の順であった。



n= 375

回答選択肢	回答数	割合
1 安定的な収入が見込めるので、出荷したい	123	32.8
2 安定量や品種が求められなければ、出荷したい	53	14.1
3 色、形、大きさなど規格が求められなければ、出荷したい	35	9.3
4 安定量や品種が求められるので、出荷したくない	3	0.8
5 色、形、大きさなど規格が求められるので、出荷したくない	4	1.1
6 わからない	94	25.1
7 その他	10	2.7
8 無回答	53	14.1
合計	375	100.0

問32選択肢7「その他」の内容

記述式

n= 10

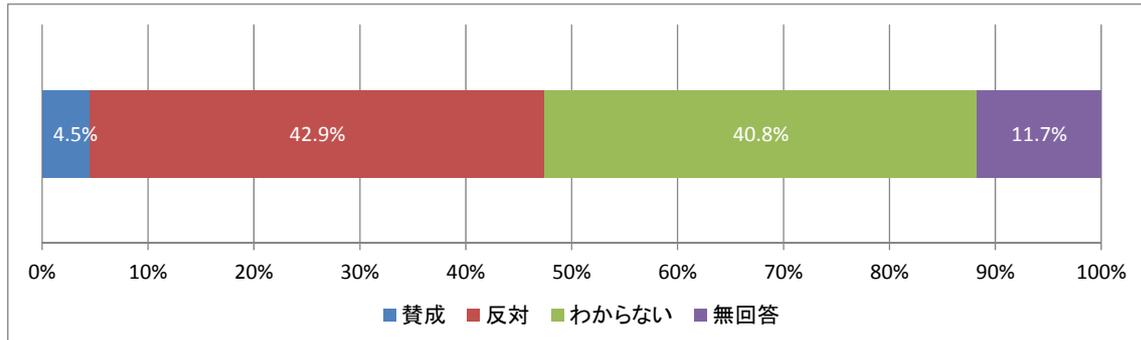
回答選択肢		回答数	割合
1	JAの生産部会で働きたい	1	10.0
2	価格しだい	1	10.0
3	経済的に見合えば出荷する	1	10.0
4	現実的な話とは思えない	1	10.0
5	作っていない	1	10.0
6	思わない	1	10.0
7	事業者と生産者の両者が、折り合いの付くことが条件。両者がWin-Winの関係。	1	10.0
8	条件次第	1	10.0
9	有利なら利用する	1	10.0
10	無回答	1	10.0
合計		10	100.0

問33 TPPへの参加について、どのようにお考えですか。

該当する番号1つに、○をつけてください。

●TPPへの参加について

TPPへの参加については、「反対」が161戸（42.9%）で最も多く、次いで「わからない」が153戸（40.8%）、「無回答」が44戸（11.7%）、「賛成」が17戸（4.5%）の順であった。



n= 375

回答選択肢		回答数	割合
1	賛成	17	4.5
2	反対	161	42.9
3	わからない	153	40.8
4	無回答	44	11.7
合計		375	100.0

問33選択肢1「賛成」の内容

記述式

n= 17

	回答選択肢	回答数	割合
1	海外に輸出しやすくなる	1	5.9
2	海外の安い農業資材の輸入	1	5.9
3	経営のやり方次第で、成り立つ。	1	5.9
4	国の考えがわからない。日本は交渉下手だから。	1	5.9
5	国は農業を保護すべき	1	5.9
6	国産品の方が良いという消費者がいるはずであるし、それを伝えたい。	1	5.9
7	参加には賛成ですが、日本農家を守る施策も必要。	1	5.9
8	少子化等で地産地消にも限界があるので、グローバルな展開が必要。	1	5.9
9	政治的に避けられない	1	5.9
10	戦前のように世界から疎外されることのないようにグローバルな視野で対応すべき。	1	5.9
11	日本の農業はTPPを受け入れないと、変革できない	1	5.9
12	農家の自立を促す	1	5.9
13	農業もやがて、国際的な競争の中で生きてゆく必要がある。	1	5.9
14	農業経営ができる人が残るから	1	5.9
15	輸出先(販路)が増えるから	1	5.9
16	流れは変わらない。必要な農産物は生き残って行くと思う。	1	5.9
17	無回答	1	5.9
	合計	17	100.0

問33選択肢2「反対」の内容

記述式

n= 161

	回答選択肢	回答数	割合
1	農産物価格のさらなる低下を招く。	35	21.7
2	農産物価格が下がり、収益が減るから。	1	0.6
3	農産物価格の低下。医療費が高くなる。	1	0.6
4	農産物価格の低下。食の安全への不安。	1	0.6
5	農産物価格の低下。日本の農業は潰れる。	1	0.6
6	農産物価格の低下により収入が減少し、経営難に陥る。	1	0.6
7	価格の低下。ブランド品だけが売れるようになる。	1	0.6
8	経費や税金が高くなるのに、農産物価格は低下する	1	0.6
9	食の安全・安心が守れない。	7	4.3
10	価格面で競争・対抗できない。	3	1.9
11	海外農産物に価格で対抗できない。日本では規模拡大しても生産コストを下げられない。	1	0.6
12	海外とは生産経費や農地規模が違うので、対抗できない。	1	0.6
13	現時点で日本農業には競争力が無い	1	0.6

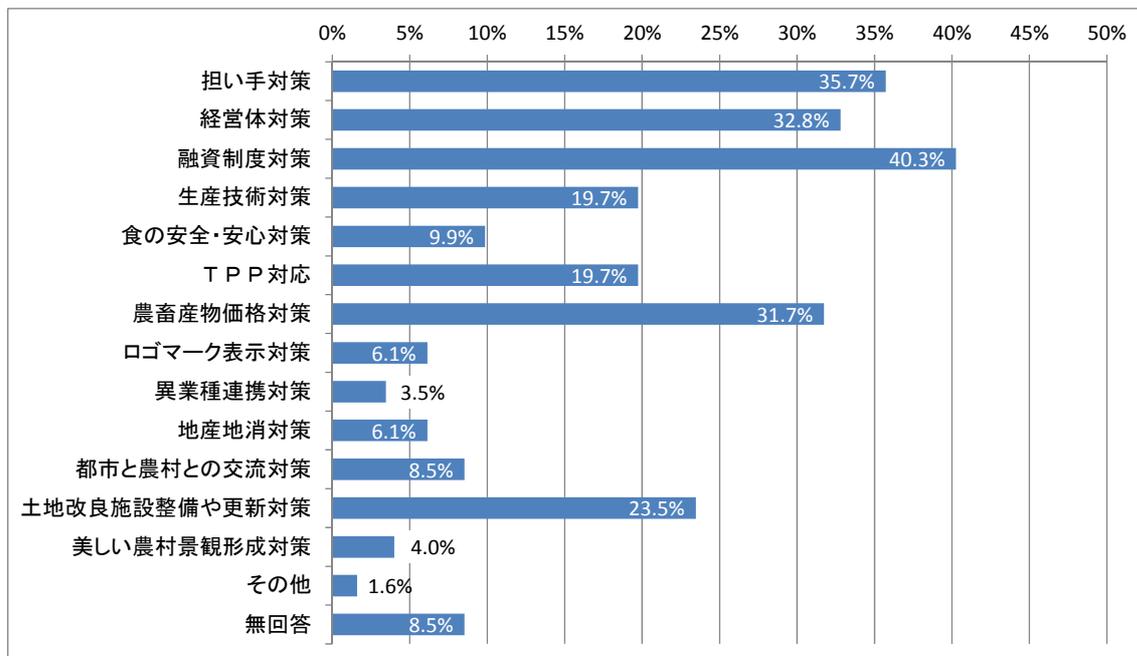
14	安い輸入農産物が入ってくれば、コストのかかる国内産は太刀打ちできない。	1	0.6
15	コスト面で太刀打ちできない。	1	0.6
16	海外との経営規模・物価の差が大きい	1	0.6
17	当地域は地形的に考えると、大規模化は難しい。そのため、海外産の農産物に対して価格での対応は困難だと思う。	1	0.6
18	農業を主体とした国に対抗できない。	1	0.6
19	当地区の農業は地形的・規模的にかなわない。	1	0.6
20	日本の農業は他国と比べると弱すぎるから	1	0.6
21	海外から安い農産物が入ってくる	1	0.6
22	日本の農業崩壊の恐れがある。	3	1.9
23	地方及び集落の崩壊を招く	1	0.6
24	バランスが崩れる	1	0.6
25	農業地域の崩壊	1	0.6
26	農家は打撃を受ける	1	0.6
27	離農の加速化による地域の人口減少と衰退	1	0.6
28	農業の根幹が危機的状況に追い込まれるから	1	0.6
29	地域社会の根源が大きく変わる	1	0.6
30	全てを自由競争にすると、弱い地域は取り残され、疲弊する。	1	0.6
31	水稲主体の日本農業では向かない	1	0.6
32	個人的には反対ではないが、日本の農業全体的には反対である。稲作農家が主体の日本農業では、稲作や畜産を切り捨てるようなものだと思う。	1	0.6
33	見通しが立たず、将来が不安。	3	1.9
34	全体像が見えない	1	0.6
35	参加した場合の影響が、示されていない。	1	0.6
36	小規模農家は潰れる。	3	1.9
37	・小規模農家は淘汰される。・農産物価格の低下。	1	0.6
38	国内自給率を上げるべき。	2	1.2
39	・自給率が低いのに輸出しても仕方がない。・食の安全が守れない。	1	0.6
40	農業者の減少につながる。	2	1.2
41	農業収入が減少する。	2	1.2
42	国内産の野菜が売れなくなる	1	0.6
43	輸入の増加	1	0.6
44	工業製品のみが有利で、農家にメリットがない。	2	1.2
45	大企業が潤い、弱者は虐げられる。	1	0.6
46	TPPに反対する対策が取れていない	1	0.6
47	デメリットが多い	1	0.6
48	最初は痛い目を見るが、乗り切れれば良いかも。	1	0.6
49	反対しても国は参加する	1	0.6
50	無回答	60	37.3
	合計	161	100.0

問34 生産者の立場から行政に期待することはどれですか。

該当するもの、3つまで○をつけてください。

●生産者の立場から行政に期待すること

生産者の立場から行政に期待することは、「融資制度への対策」が151戸(40.3%)で最も多く、次いで「担い手への対策」が134戸(35.7%)、「経営体への対策」が123戸(32.8%)、「農畜産物価格への対策」が119戸(31.7%)、「土地改良施設の整備や更新への対策」が88戸(23.5%)、「生産技術への対策」と「TPPへの対応」がともに74戸(19.7%)、「食の安全・安心への対策」が37戸(9.9%)、「都市と農村との交流への対策」と「無回答」がともに32戸(8.5%)、「雲仙ブランドロゴマークの表示への対策」と「地産地消への対策」がともに23戸(6.1%)、「美しい農村景観形成への対策」が15戸(4.0%)、「異業種連携への対策」が13戸(3.5%)、「その他」が6戸(1.6%)の順であった。



複数回答:3つまで

n= 375

回答選択肢		回答数	割合
1	担い手への対策	134	35.7
2	経営体への対策	123	32.8
3	融資制度への対策	151	40.3
4	生産技術への対策	74	19.7
5	食の安全・安心への対策	37	9.9
6	TPPへの対応	74	19.7
7	農畜産物価格への対策	119	31.7
8	雲仙ブランドロゴマークの表示への対策	23	6.1
9	異業種連携への対策	13	3.5
10	地産地消への対策	23	6.1
11	都市と農村との交流への対策	32	8.5
12	土地改良施設の整備や更新への対策	88	23.5
13	美しい農村景観形成への対策	15	4.0
14	その他	6	1.6
15	無回答	32	8.5
合計		944	251.7

※回答選択肢の「無回答」は、問34の全ての設問に無回答であったもの。

問34選択肢14「その他」の内容

記述式

n= 6

回答選択肢		回答数	割合
1	ほ場、農道等の整備・補修・改善	1	16.7
2	家族経営を行う小規模生産者を支援する施策。あわせて、循環型・環境保全型農業を推進・支援する施策。	1	16.7
3	耕作放棄地の解消対策	1	16.7
4	農業者が本当に期待できる施策	1	16.7
5	野菜に消費税を掛けないでほしい。	1	16.7
6	無回答	1	16.7
合計		6	100.0

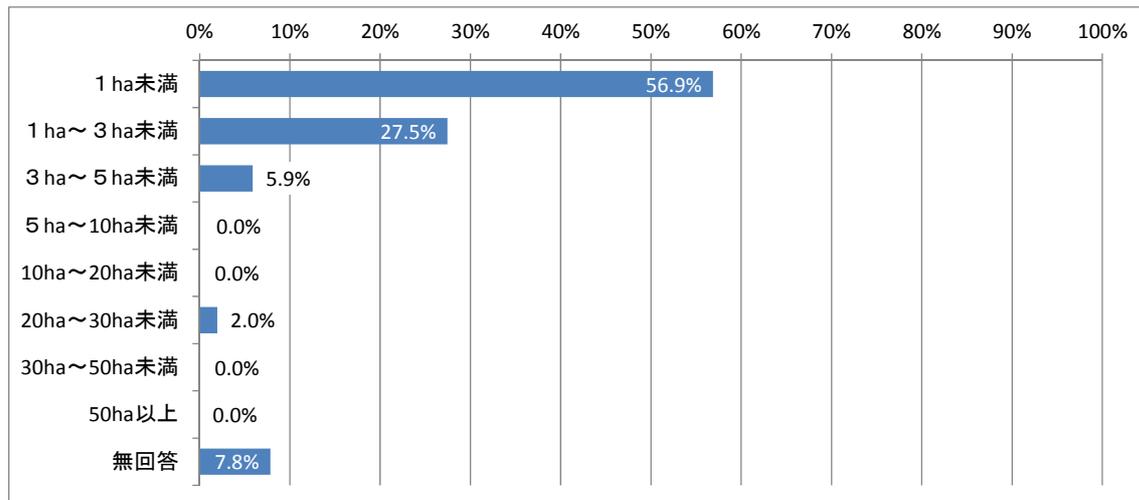
第3部（林業従事世帯対象）

問35 所有する山林面積をお答えください。

該当する番号1つに、○をつけてください。

●所有する山林面積

所有する山林面積は、「1ヘクタール未満」が29戸（56.9%）で最も多く、次いで「1ヘクタール～3ヘクタール未満」が14戸（27.5%）、「無回答」が4戸（7.8%）、「3ヘクタール～5ヘクタール未満」が3戸（5.9%）、「20ヘクタール～30ヘクタール未満」が1戸（2.0%）の順であった。



n= 51

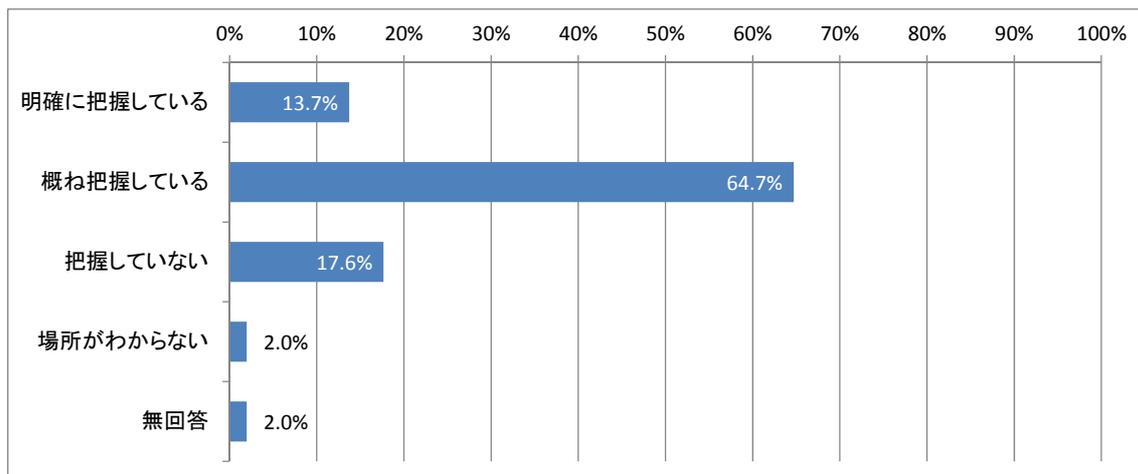
回答選択肢		回答数	割合
1	1ヘクタール未満	29	56.9
2	1ヘクタール～3ヘクタール未満	14	27.5
3	3ヘクタール～5ヘクタール未満	3	5.9
4	5ヘクタール～10ヘクタール未満	0	0.0
5	10ヘクタール～20ヘクタール未満	0	0.0
6	20ヘクタール～30ヘクタール未満	1	2.0
7	30ヘクタール～50ヘクタール未満	0	0.0
8	50ヘクタール以上	0	0.0
9	無回答	4	7.8
合計		51	100.0

問36 山林の境界は、把握していますか。

該当する番号1つに、○をつけてください。

●山林境界の把握

山林境界の把握は、「概ね把握している」が33戸（64.7%）で最も多く、次いで「把握していない」が9戸（17.6%）、「明確に把握している」が7戸（13.7%）、「場所がわからない」と「無回答」がともに1戸（2.0%）の順であった。



n= 51

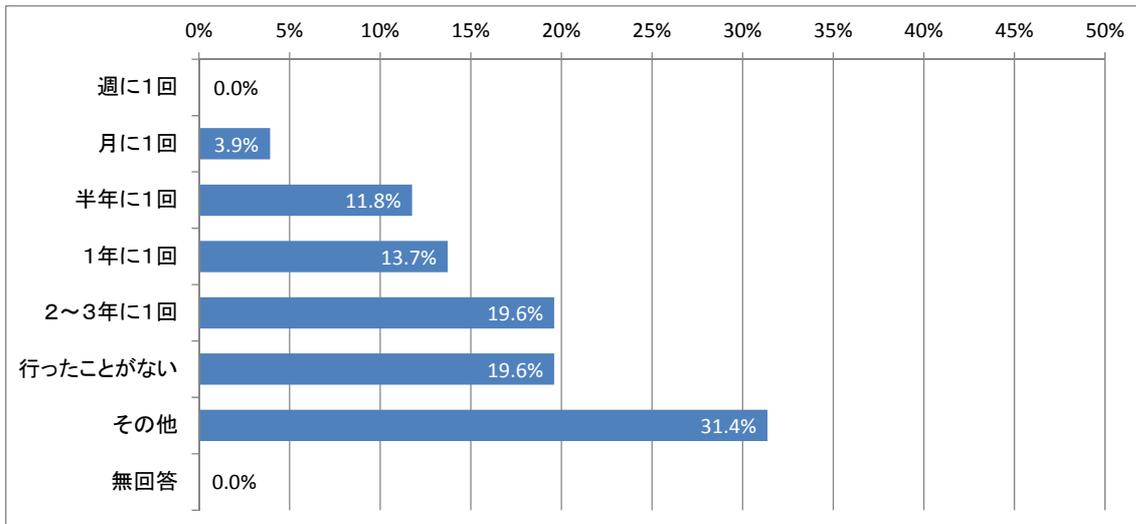
回答選択肢		回答数	割合
1	明確に把握している	7	13.7
2	概ね把握している	33	64.7
3	把握していない	9	17.6
4	場所がわからない	1	2.0
5	無回答	1	2.0
合計		51	100.0

問37 山林にどのぐらいの頻度で行きますか。
 該当する番号1つに、○をつけてください。

●山林に行く頻度

山林に行く頻度は、「その他」が16戸(31.4%)で最も多く、次いで「2～3年に1回」と「行ったことがない」がともに10戸(19.6%)、「1年に1回」が7戸(13.7%)、「半年に1回」が6戸(11.8%)、「月に1回」が2戸(3.9%)の順であった。

なお、「週に1回」の回答はなかった。



n = 51

回答選択肢		回答数	割合
1	週に1回	0	0.0
2	月に1回	2	3.9
3	半年に1回	6	11.8
4	1年に1回	7	13.7
5	2～3年に1回	10	19.6
6	行ったことがない	10	19.6
7	その他	16	31.4
8	無回答	0	0.0
合計		51	100.0

問37選択肢7「その他」の内容

記述式

n= 16

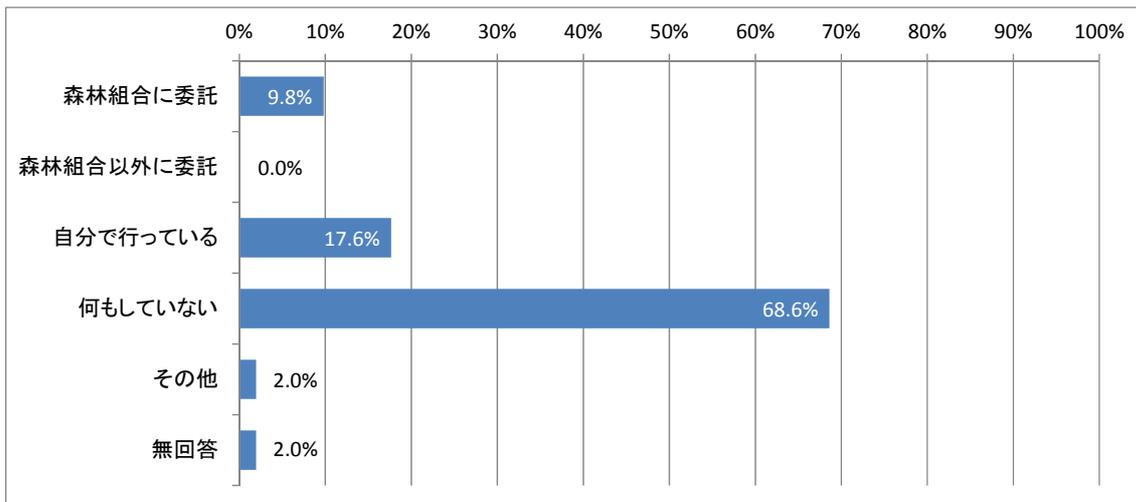
	回答選択肢	回答数	割合
1	10年に1回	3	18.8
2	10年前	1	6.3
3	30年前に1度	1	6.3
4	40年間行ったことがない	1	6.3
5	5～6年に1回	1	6.3
6	月に2回	1	6.3
7	現在は行っていない	1	6.3
8	地籍調査で行った程度	1	6.3
9	長いこと行っていない	1	6.3
10	冬場に行く	1	6.3
11	平成になってから行っていない	1	6.3
12	無回答	3	18.8
	合計	16	100.0

問38 山林の間伐作業は、どなたが実施していますか。

該当する番号1つに、○をつけてください。

●山林の間伐作業

山林の間伐作業は、「何もしていない」が35戸（68.6%）で最も多く、次いで「自分でやっている」が9戸（17.6%）、「森林組合に委託している」が5戸（9.8%）、「その他」と「無回答」がともに1戸（2.0%）の順であった。



n= 51

回答選択肢	回答数	割合
1 森林組合に委託している	5	9.8
2 森林組合以外に委託している	0	0.0
3 自分でやっている	9	17.6
4 何もしていない	35	68.6
5 その他	1	2.0
6 無回答	1	2.0
合計	51	100.0

問38選択肢5「その他」の内容

記述式

n= 1

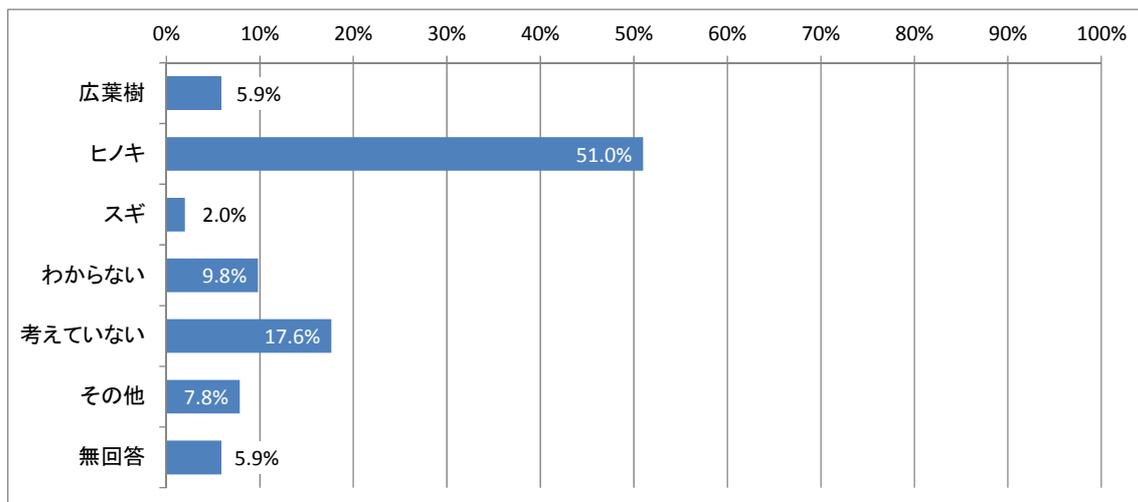
回答選択肢	回答数	割合
1 ボランティア	1	100.0
合計	1	100.0

問39 更新の際に植えたい樹種は、何ですか。

該当する番号1つに、○をつけてください。

●更新の際に植えたい樹種

更新の際に植えたい樹種は、「ヒノキ」が26戸（51.0%）で最も多く、次いで「考えていない」が9戸（17.6%）、「わからない」が5戸（9.8%）、「その他」が4戸（7.8%）、「広葉樹」と「無回答」がともに3戸（5.9%）、「スギ」が1戸（2.0%）の順であった。



n= 51

回答選択肢		回答数	割合
1	広葉樹	3	5.9
2	ヒノキ	26	51.0
3	スギ	1	2.0
4	わからない	5	9.8
5	考えていない	9	17.6
6	その他	4	7.8
7	無回答	3	5.9
合計		51	100.0

問39選択肢6「その他」の内容

記述式

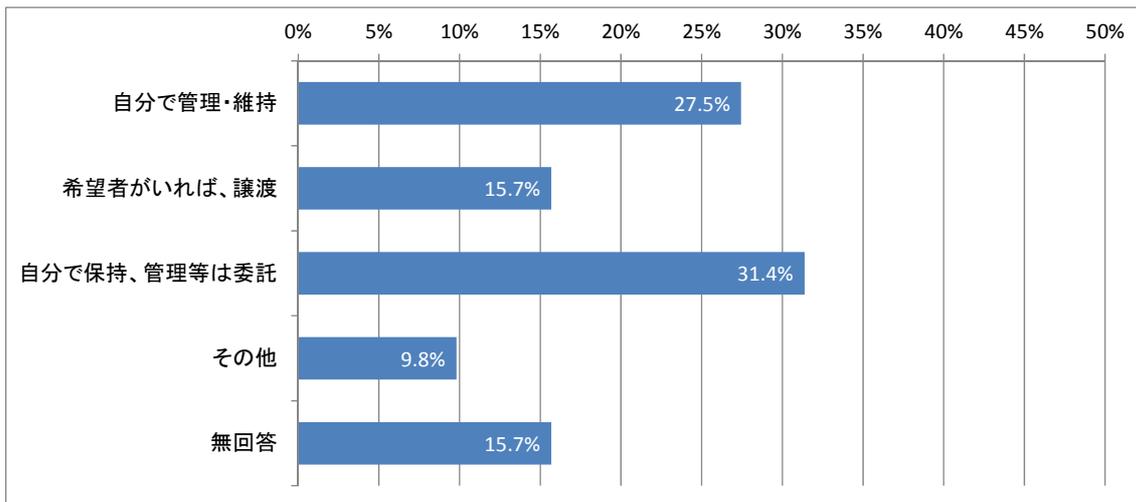
n= 4

回答選択肢		回答数	割合
1	クヌギ、ケヤキなどの落葉樹全般	1	25.0
2	スギとヒノキ	1	25.0
3	マツ	1	25.0
6	無回答	1	25.0
合計		4	100.0

問40 今後の山林の管理について、該当する番号1つに、○をつけてください。

●今後の山林の管理

今後の山林の管理は、「山林は自分で保持したいが、管理等は森林組合等に委託したい」が16戸(31.4%)で最も多く、次いで「自分で管理を行い、山林として維持したい」が14戸(27.5%)、「誰か希望者がいれば、譲渡したい」と「無回答」がともに8戸(15.7%)、「その他」が5戸(9.8%)の順であった。



n = 51

回答選択肢	回答数	割合
1 自分で管理を行い、山林として維持したい	14	27.5
2 誰か希望者がいれば、譲渡したい	8	15.7
3 山林は自分で保持したいが、管理等は森林組合等に委託したい	16	31.4
4 その他	5	9.8
5 無回答	8	15.7
合計	51	100.0

問40選択肢4「その他」の内容

記述式

n = 5

回答選択肢	回答数	割合
1 いらぬ	1	20.0
2 何もしたくない	1	20.0
3 無回答	3	60.0
合計	5	100.0

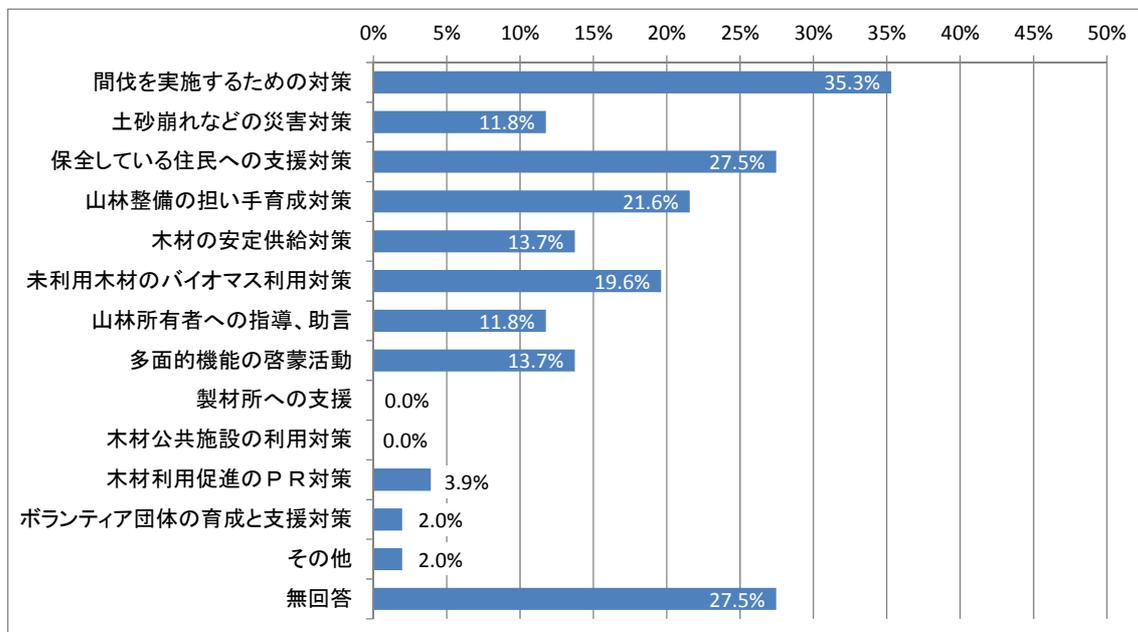
問41 行政に期待することはどれですか。

該当するもの、3つまで○をつけてください。

●行政に期待すること

行政に期待することは、「間伐を実施するための対策（作業道等の整備）」が18戸（35.3%）で最も多く、次いで「山林を保全している住民への支援対策」と「無回答」がともに14戸（27.5%）、「山林整備の担い手育成への対策」が11戸（21.6%）、「未利用木材のバイオマス利用への対策」が10戸（19.6%）、「山林が持つ多面的機能の啓蒙活動」が7戸（13.7%）、「土砂崩れなどの災害への対策」と「山林所有者への指導、助言」がともに6戸（11.8%）、「木材利用促進のPRへの対策」が2戸（3.9%）、「山林ボランティア団体の育成と支援への対策」と「その他」がともに1戸（2.0%）の順であった。

なお、「製材所への支援」と「木材公共施設の利用への対策」という回答はなかった。



複数回答:3つまで

n= 51

回答選択肢		回答数	割合
1	間伐を実施するための対策(作業道等の整備)	18	35.3
2	土砂崩れなどの災害への対策	6	11.8
3	山林を保全している住民への支援対策	14	27.5
4	山林整備の担い手育成への対策	11	21.6
5	木材の安定供給への対策	7	13.7
6	未利用木材のバイオマス利用への対策	10	19.6
7	山林所有者への指導、助言	6	11.8
8	山林が持つ多面的機能の啓蒙活動	7	13.7
9	製材所への支援	0	0.0
10	木材公共施設の利用への対策	0	0.0
11	木材利用促進のPRへの対策	2	3.9
12	山林ボランティア団体の育成と支援への対策	1	2.0
13	その他	1	2.0
14	無回答	14	27.5
合計		97	190.2

※回答選択肢の「無回答」は、問41の全ての設問に無回答であったもの。

問41選択肢13「その他」の内容

記述式

n= 1

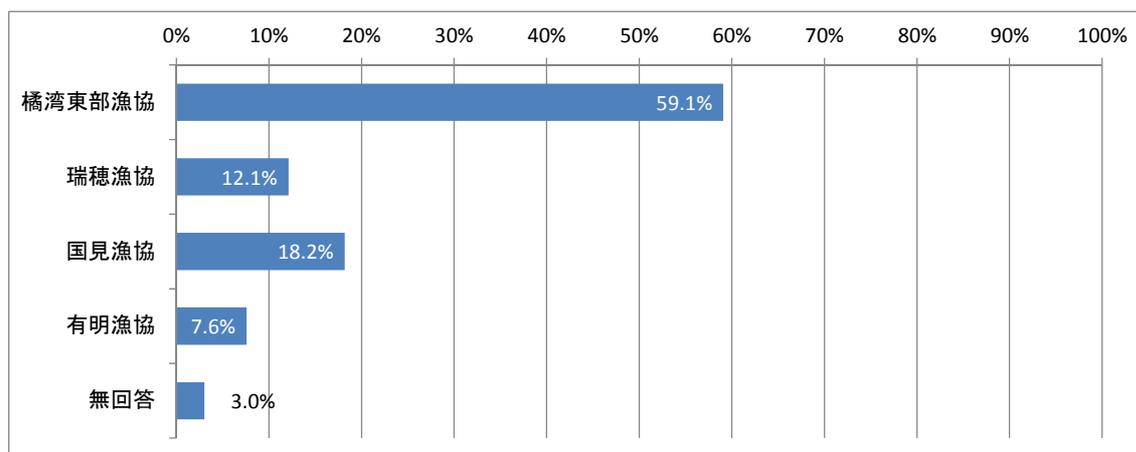
回答選択肢		回答数	割合
1	木材は宝であり、雲仙モデルを確立すべき	1	100.0
合計		1	100.0

第4部（水産業従事世帯対象）

問42 あなたが所属している漁協は、どれですか。
 該当する番号1つに、○をつけてください。

●所属している漁協

所属している漁協は、「橘湾東部漁協」が39戸（59.1%）で最も多く、次いで「国見漁協」が12戸（18.2%）、「瑞穂漁協」が8戸（12.1%）、「有明漁協」が5戸（7.6%）、「無回答」が2戸（3.0%）の順であった。



n = 66

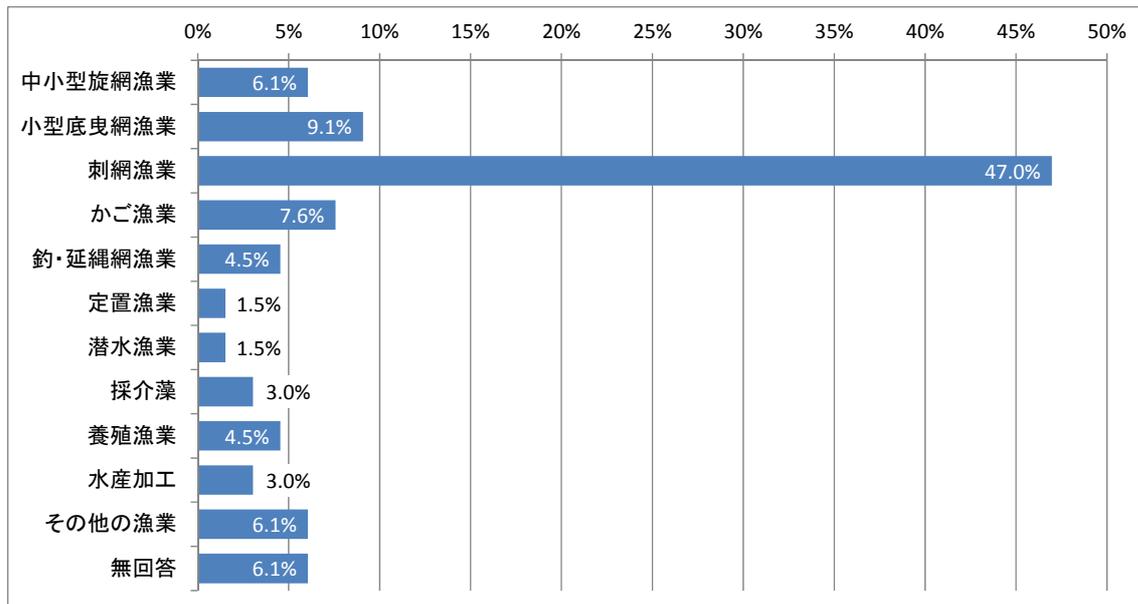
回答選択肢		回答数	割合
1	橘湾東部漁協	39	59.1
2	瑞穂漁協	8	12.1
3	国見漁協	12	18.2
4	有明漁協	5	7.6
5	無回答	2	3.0
合計		66	100.0

問43 あなたが主に営んでいる漁業種類は、どれですか。

該当する番号1つに、○をつけてください。

●主に営んでいる漁業種類

主に営んでいる漁業種類は、「刺網漁業」が31戸（47.0%）で最も多く、次いで「小型底曳網漁業」が6戸（9.1%）、「かご漁業」が5戸（7.6%）、「中小型旋網漁業」、「その他の漁業」、「無回答」がそれぞれ4戸（6.1%）、「釣・延縄網漁業」と「養殖漁業」がともに3戸（4.5%）、「採介藻」が2戸（3.0%）、「定置漁業」と「潜水漁業」がともに1戸（1.5%）の順であった。



n = 66

回答選択肢		回答数	割合
1	中小型旋網漁業	4	6.1
2	小型底曳網漁業	6	9.1
3	刺網漁業	31	47.0
4	かご漁業	5	7.6
5	釣・延縄網漁業	3	4.5
6	定置漁業	1	1.5
7	潜水漁業	1	1.5
8	採介藻	2	3.0
9	養殖漁業	3	4.5
10	水産加工	2	3.0
11	その他の漁業	4	6.1
12	無回答	4	6.1
合計		66	100.0

問43選択肢11「その他の漁業」の内容

記述式

n= 4

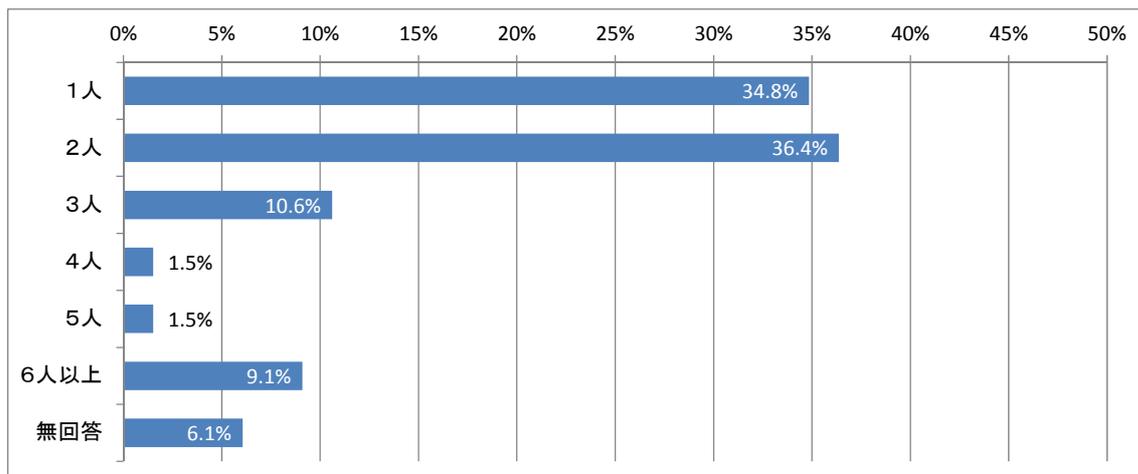
回答選択肢		回答数	割合
1	休業中	1	25.0
2	小型巻網	1	25.0
12	無回答	2	50.0
合計		4	100.0

問44 あなたが主に営んでいる漁業操業には、何人従事していますか。

該当する番号1つに、○をつけてください。

●漁業操業の従事人数

漁業操業の従事人数は、「2人」が24戸(36.4%)で最も多く、次いで「1人」が23戸(34.8%)、「3人」が7戸(10.6%)、「6人以上」が6戸(9.1%)、「無回答」が4戸(6.1%)、「4人」と「5人」がともに1戸(1.5%)の順であった。



n= 66

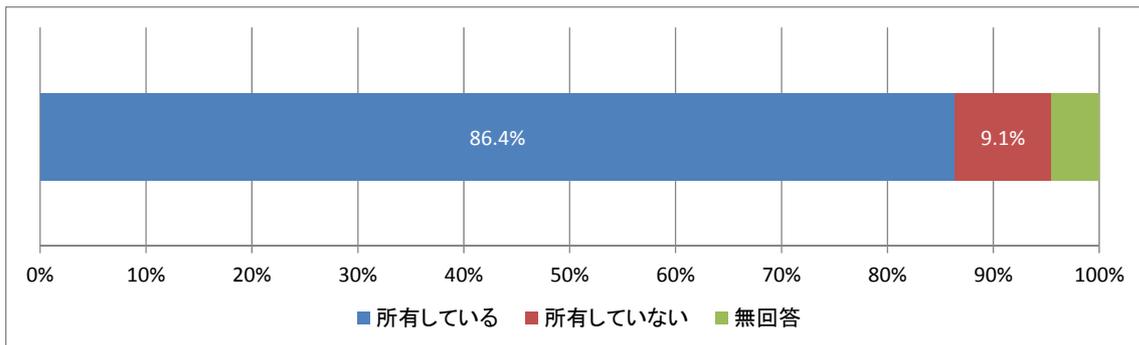
回答選択肢		回答数	割合
1	1人	23	34.8
2	2人	24	36.4
3	3人	7	10.6
4	4人	1	1.5
5	5人	1	1.5
6	6人以上	6	9.1
7	無回答	4	6.1
合計		66	100.0

問45 あなたは漁船を所有していますか。
 該当する番号1つに、○をつけてください。

●漁船の所有状況

漁船の所有状況は、「所有している」が57戸（86.4%）、「所有していない」が6戸（9.1%）であった。

なお、「無回答」が3戸（4.5%）あった。



n= 66

回答選択肢		回答数	割合
1	所有している	57	86.4
2	所有していない	6	9.1
3	無回答	3	4.5
合計		66	100.0

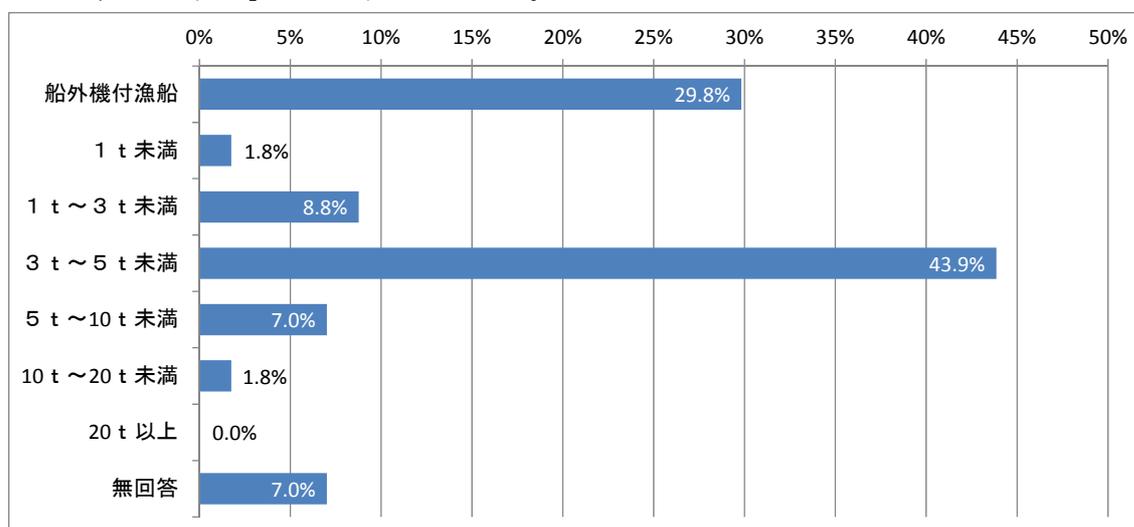
問45で、「1 所有している」とお答えになった方にお伺いします。

問46 あなたが所有している漁船の種類は、どれですか。
該当する番号1つに、○をつけてください。

●所有している漁船の種類

所有している漁船の種類は、「3 t～5 t未満」が25戸（43.9%）で最も多く、次いで「船外機付漁船」が17戸（29.8%）、「1 t～3 t未満」が5戸（8.8%）、「5 t～10 t未満」と「無回答」がともに4戸（7.0%）、「1 t未満」と「10 t～20 t未満」がともに1戸（1.8%）の順であった。

なお、「20 t以上」との回答はなかった。



問45で選択肢1「所有している」と回答

n= 57

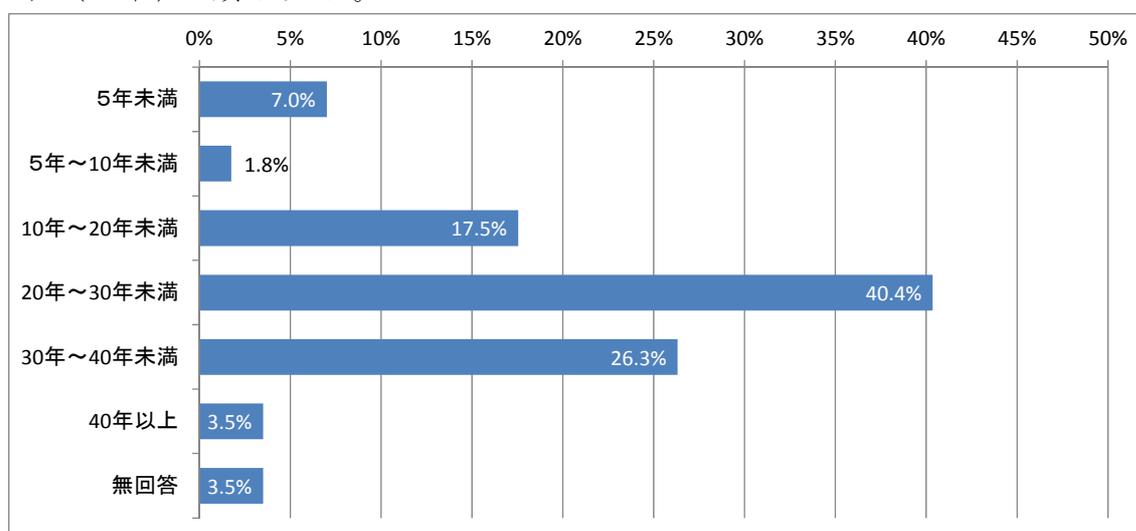
回答選択肢	回答数	割合
1 船外機付漁船	17	29.8
2 1t未満	1	1.8
3 1t～3t未満	5	8.8
4 3t～5t未満	25	43.9
5 5t～10t未満	4	7.0
6 10t～20t未満	1	1.8
7 20t以上	0	0.0
8 無回答	4	7.0
合計	57	100.0

問45で、「1 所有している」とお答えになった方にお伺いします。

問47 あなたが所有している漁船は、使用し始めて何年が経過していますか。
該当する番号1つに、○をつけてください。

●所有している漁船の使用経過年数

所有している漁船の使用経過年数は、「20年～30年未満」が23戸（40.4%）で最も多く、次いで「30年～40年未満」が15戸（26.3%）、「10年～20年未満」が10戸（17.5%）、「5年未満」が4戸（7.0%）、「40年以上」と「無回答」がともに2戸（3.5%）、「5年～10年未満」が1戸（1.8%）の順であった。



問45で選択肢1「所有している」と回答

n= 57

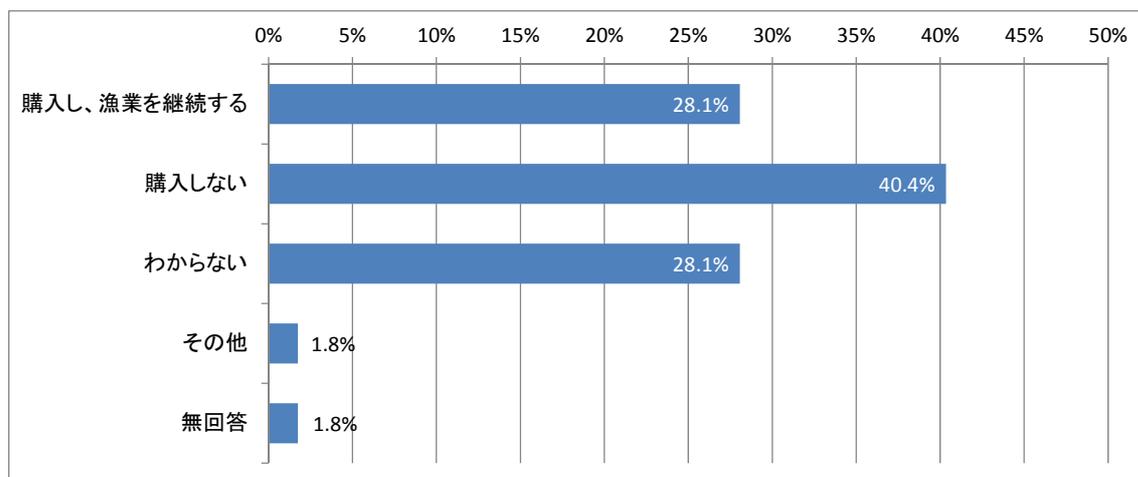
回答選択肢		回答数	割合
1	5年未満	4	7.0
2	5年～10年未満	1	1.8
3	10年～20年未満	10	17.5
4	20年～30年未満	23	40.4
5	30年～40年未満	15	26.3
6	40年以上	2	3.5
7	無回答	2	3.5
合計		57	100.0

問45で、「1 所有している」とお答えになった方にお伺いします。

問48 あなたが所有する漁船（中古船を含む）の耐用年数を経過、または、漁船が使用できなくなった場合、新たに漁船を購入して、漁業を継続しますか。
該当する番号1つに、○をつけてください。

●漁船の更新および、漁業継続の意向

漁船の更新および、漁業継続の意向は、「購入しない」が23戸（40.4%）で最も多く、次いで「購入し、漁業を継続する」と「わからない」がともに16戸（28.1%）、「その他」と「無回答」がともに1戸（1.8%）の順であった。



問45で選択肢1「所有している」と回答

n= 57

回答選択肢		回答数	割合
1	購入し、漁業を継続する	16	28.1
2	購入しない	23	40.4
3	わからない	16	28.1
4	その他	1	1.8
5	無回答	1	1.8
合計		57	100.0

問48選択肢4「その他」の内容

記述式

n= 1

回答選択肢		回答数	割合
1	魚は取れない上に、売れない	1	100.0
合計		1	100.0

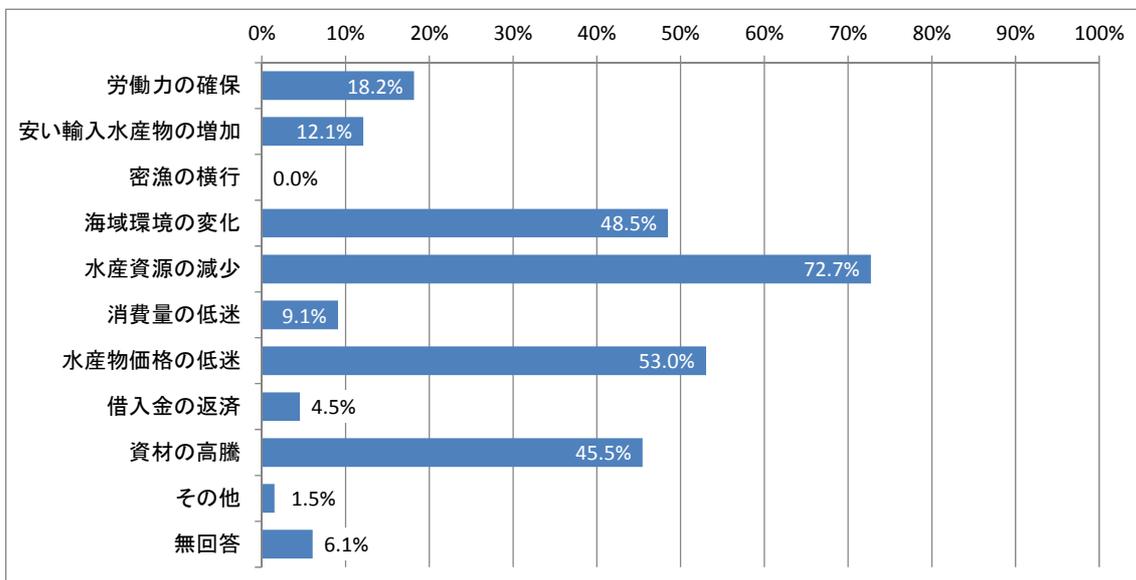
問49 漁業経営上の問題点は、何だと思えますか。

該当するもの、3つまで○をつけてください。

●漁業経営上の問題点

漁業経営上の問題点は、「水産資源の減少」が48戸（72.7%）で最も多く、次いで「水産物価格の低迷」が35戸（53.0%）、「海域環境の変化」が32戸（48.5%）、「資材の高騰（燃料費を含む）」が30戸（45.5%）、「労働力の確保」が12戸（18.2%）、「安い輸入水産物の増加」が8戸（12.1%）、「消費量の低迷」が6戸（9.1%）、「無回答」が4戸（6.1%）、「借入金の返済」が3戸（4.5%）、「その他」が1戸（1.5%）の順であった。

なお、「密漁の横行」との回答はなかった。



複数回答:3つまで

n= 66

	回答選択肢	回答数	割合
1	労働力の確保	12	18.2
2	安い輸入水産物の増加	8	12.1
3	密漁の横行	0	0.0
4	海域環境の変化	32	48.5
5	水産資源の減少	48	72.7
6	消費量の低迷	6	9.1
7	水産物価格の低迷	35	53.0
8	借入金の返済	3	4.5
9	資材の高騰(燃料費を含む)	30	45.5
10	その他	1	1.5
11	無回答	4	6.1
	合計	179	271.2

※回答選択肢の「無回答」は、問49の全ての設問に無回答であったもの。

問49選択肢10「その他」の内容

記述式

n= 1

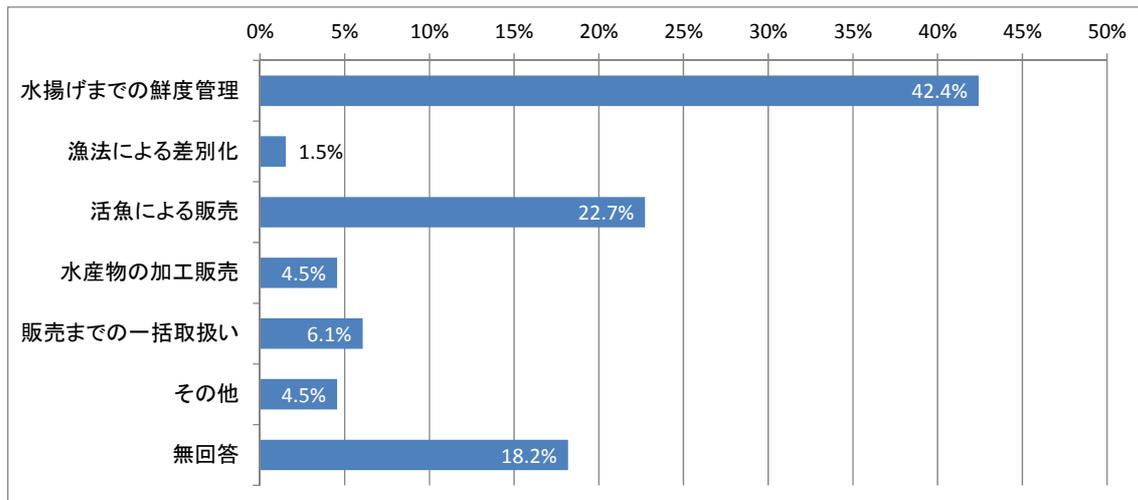
	回答選択肢	回答数	割合
1	諫早湾の埋め立てで産卵場所が無くなり、有明海は死の海になった。	1	100.0
	合計	1	100.0

問50 水産物価格向上のために取り組んでいることはどれですか。

該当する番号1つに、○をつけてください。

●水産物価格向上のための取組

水産物価格向上のための取組は、「水揚げまでの鮮度管理」が28戸（42.4%）で最も多く、次いで「活魚による販売」が15戸（22.7%）、「無回答」が12戸（18.2%）、「漁獲から販売までの一括取り扱い」が4戸（6.1%）、「水産物を加工して販売」と「その他」がともに3戸（4.5%）、「漁法による差別化」が1戸（1.5%）の順であった。



n= 66

回答選択肢		回答数	割合
1	水揚げまでの鮮度管理	28	42.4
2	漁法による差別化	1	1.5
3	活魚による販売	15	22.7
4	水産物を加工して販売	3	4.5
5	漁獲から販売までの一括取り扱い	4	6.1
6	その他	3	4.5
7	無回答	12	18.2
合計		66	100.0

問50選択肢6「その他」の内容

記述式

n= 3

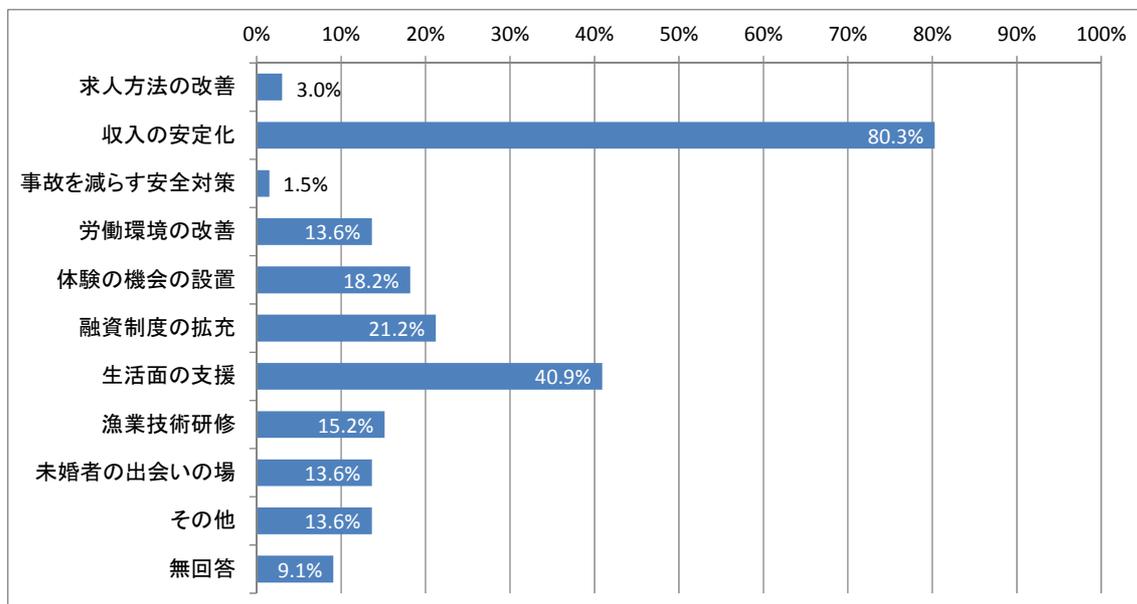
回答選択肢		回答数	割合
1	生活できるだけの水揚げが無いから、考えられない。	1	33.3
2	無回答	2	66.7
合計		3	100.0

問51 漁業者を増やすためには、何が必要だと思いますか。

該当するもの、3つまで○をつけてください。

●漁業者を増やすために必要なこと

漁業者を増やすために必要なことは、「漁業収入の安定化を図る」が53戸（80.3%）で最も多く、次いで「生活面における支援」が27戸（40.9%）、「融資制度の拡充」が14戸（21.2%）、「漁業に関心をもってもらうため、体験の機会を設ける」が12戸（18.2%）、「漁業技術研修を実施する」が10戸（15.2%）、「労働環境の改善を図る」、「未婚の漁業者のために、出会いの場を設ける」、「その他」がそれぞれ9戸（13.6%）、「無回答」が6戸（9.1%）、「漁業求人方法の改善を図る」が2戸（3.0%）、「漁業事故を減らすため、安全対策を推進する」が1戸（1.5%）の順であった。



複数回答:3つまで

n= 66

	回答選択肢	回答数	割合
1	漁業求人方法の改善を図る	2	3.0
2	漁業収入の安定化を図る	53	80.3
3	漁業事故を減らすため、安全対策を推進する	1	1.5
4	労働環境の改善を図る	9	13.6
5	漁業に関心をもってもらうため、体験の機会を設ける	12	18.2
6	融資制度の拡充	14	21.2
7	生活面における支援	27	40.9
8	漁業技術研修を実施する	10	15.2
9	未婚の漁業者のために、出会いの場を設ける	9	13.6
10	その他	9	13.6
11	無回答	6	9.1
	合計	152	230.3

※回答選択肢の「無回答」は、問51の全ての設問に無回答であったもの。

問51選択肢10「その他」の内容

記述式

n= 9

	回答選択肢	回答数	割合
1	環境変化により、全国の漁業研修と新しい漁業の方法	1	11.1
2	漁業で生活できるだけの収入の確保。息子に継がせようと思っても、今のままでは無理。	1	11.1
3	魚が住める漁場環境の整備	1	11.1
4	現状の有明海では上記に当てはまるものはない。ワカメ以外の海藻も全滅してしまい、漁業者が育つはずがない。	1	11.1
5	水質の改善	1	11.1
6	増えることはない。漁場が少ない。	1	11.1
7	諫早湾干拓排水門の開門	1	11.1
8	無回答	2	22.2
	合計	9	100.0

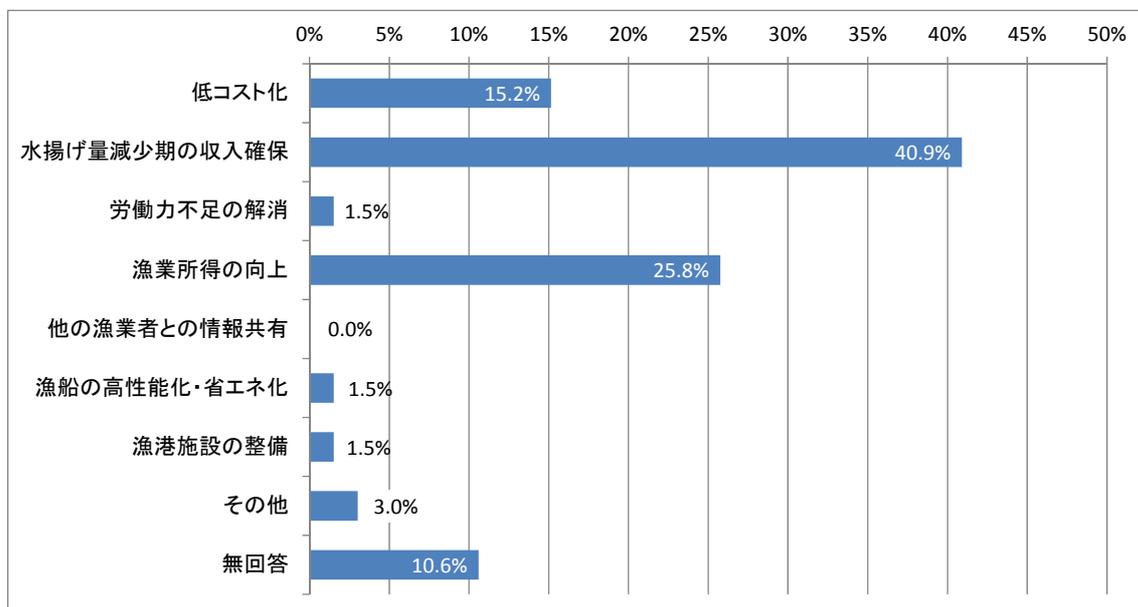
問52 漁業を続けていく上で、何が必要だと思いますか。

該当する番号1つに、○をつけてください。

●漁業継続に必要なこと

漁業継続に必要なことは、「水揚げ量が少ない時期における収入確保」が27戸（40.9%）で最も多く、次いで「漁業所得（水産物価格）の向上」が17戸（25.8%）、「低コスト化（経費の節減）」が10戸（15.2%）、「無回答」が7個（10.6%）、「その他」が2戸（3.0%）、「労働力不足の解消」、「漁船の高性能化・省エネ化（省エネルギー化）」、「漁港施設の整備」がそれぞれ1戸（1.5%）の順であった。

なお、「他の漁業者との情報共有」との回答はなかった。



n= 66

回答選択肢	回答数	割合
1 低コスト化（経費の節減）	10	15.2
2 水揚げ量が少ない時期における収入確保	27	40.9
3 労働力不足の解消	1	1.5
4 漁業所得（水産物価格）の向上	17	25.8
5 他の漁業者との情報共有	0	0.0
6 漁船の高性能化・省エネ化（省エネルギー化）	1	1.5
7 漁港施設の整備	1	1.5
8 その他	2	3.0
9 無回答	7	10.6
合計	66	100.0

問52選択肢8「その他」の内容

記述式

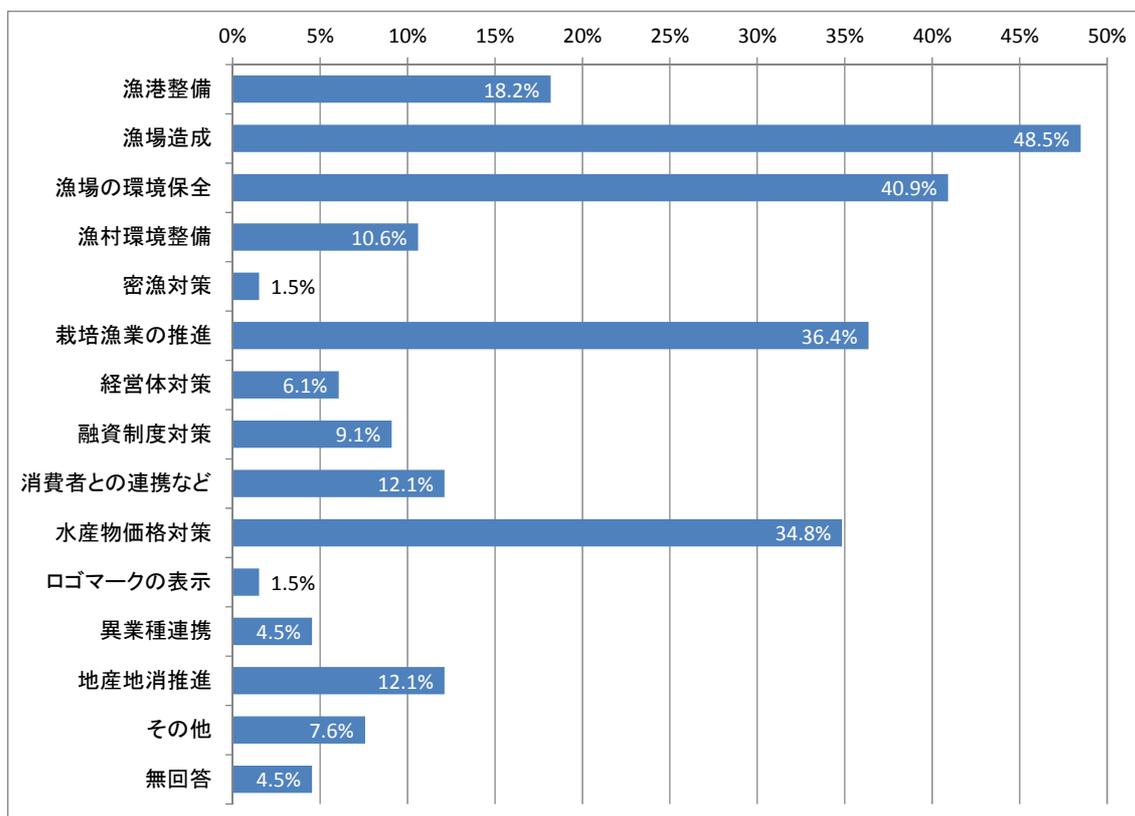
n= 2

	回答選択肢	回答数	割合
1	諫早湾埋め立ての撤回しか有り得ない	1	50.0
2	無回答	1	50.0
	合計	2	100.0

問53 あなたが行政に期待することはどれですか。
該当するもの、3つまで○をつけてください。

●漁業者が行政に期待すること

漁業者が行政に期待することは、「漁場造成への対策」が32戸（48.5%）で最も多く、次いで「漁場の環境保全への対策」が27戸（40.9%）、「栽培漁業の推進への対策」が24戸（36.4%）、「水産物価格への対策」が23戸（34.8%）、「漁港整備への対策」が12戸（18.2%）、「消費者との連携、信頼関係づくりへの対策」と「地産地消推進への対策」がともに8戸（12.1%）、「漁村環境整備への対策」が7戸（10.6%）、「融資制度への対策」が6戸（9.1%）、「その他」が5戸（7.6%）、「経営体への対策」が4戸（6.1%）、「異業種連携への対策」と「無回答」がともに3戸（4.5%）、「密漁への対策」と「雲仙ブランドロゴマークの表示への対策」がともに1戸（1.5%）の順であった。



複数回答:3つまで

n= 66

回答選択肢		回答数	割合
1	漁港整備への対策	12	18.2
2	漁場造成への対策	32	48.5
3	漁場の環境保全への対策	27	40.9
4	漁村環境整備への対策	7	10.6
5	密漁への対策	1	1.5
6	栽培漁業の推進への対策	24	36.4
7	経営体への対策	4	6.1
8	融資制度への対策	6	9.1
9	消費者との連携、信頼関係づくりへの対策	8	12.1
10	水産物価格への対策	23	34.8
11	雲仙ブランドロゴマークの表示への対策	1	1.5
12	異業種連携への対策	3	4.5
13	地産地消推進への対策	8	12.1
14	その他	5	7.6
15	無回答	6	9.1
合計		167	253.0

※回答選択肢の「無回答」は、問53の全ての設問に無回答であったもの。

問53選択肢14「その他」の内容

記述式

n= 5

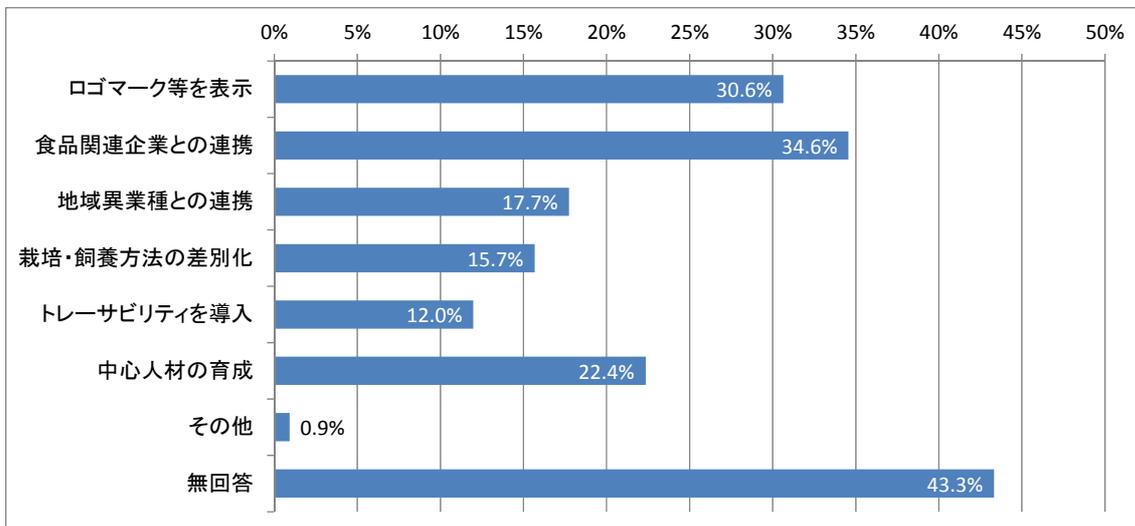
回答選択肢		回答数	割合
1	諫早湾干拓排水門の開門	2	40.0
2	あさり等の漁場を作ること。土地などをユンボで耕す経費を、市が助成する。	1	20.0
3	赤潮対策	1	20.0
4	無回答	1	20.0
合計		5	100.0

第5部（雲仙ブランド、連携、雲仙市農林水産業施策）

問54 雲仙産農林水産物をブランド化していくためには、どのような取り組みが必要だと思いますか。該当するもの、3つまで○をつけてください。

●雲仙産農林水産物のブランド化への必要な取り組み

雲仙産農林水産物のブランド化への必要な取り組みは、「無回答」が188戸（43.3%）で最も多く、次いで「流通業・食品製造業・外食産業などの食品関連企業と、連携する」が150戸（34.6%）、「雲仙産を他の産地と区別する表示（ロゴマーク等）をする」が133戸（30.6%）、「中心となる人材を育成する」が97戸（22.4%）、「商業・観光・医療などと、地域連携する」が77戸（17.7%）、「他の産地と差別化を図る栽培や飼養の方法を取り入れる」が68戸（15.7%）、「トレーサビリティシステムを導入する」が52戸（12.0%）、「その他」が4戸（0.9%）の順であった。



複数回答：3つまで

n= 434

回答選択肢		回答数	割合
1	雲仙産を他の産地と区別する表示（ロゴマーク等）をする	133	30.6
2	流通業・食品製造業・外食産業などの食品関連企業と、連携する	150	34.6
3	商業・観光・医療などと、地域連携する	77	17.7
4	他の産地と差別化を図る栽培や飼養の方法を取り入れる	68	15.7
5	トレーサビリティシステムを導入する	52	12.0
6	中心となる人材を育成する	97	22.4
7	その他	4	0.9
8	無回答	188	43.3
合計		769	177.2

※回答選択肢の「無回答」は、問54の全ての設問に無回答であったもの。

問54選択肢7「その他」の内容

記述式

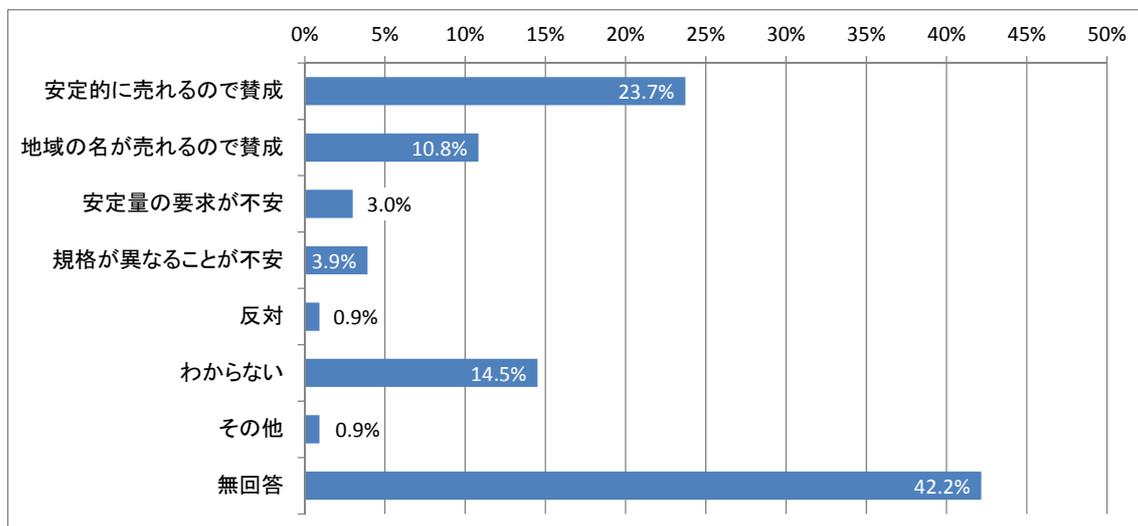
n= 4

	回答選択肢	回答数	割合
1	あさはブランド品になり得る	1	25.0
2	消費者が好むものをブランド化して欲しい	1	25.0
3	他にない品種をつくる	1	25.0
4	無回答	1	25.0
	合計	4	100.0

問55 飲食店のほか、食品企業と連携を図り、“雲仙産”の農林水産物を活かした企業の製品（プライベートブランド）を創出し、PRをしていくことについては、どう思いますか。該当する番号1つに、○をつけてください。

●食品企業との連携および、プライベートブランドの創出とPR

食品企業との連携および、プライベートブランドの創出とPRは、「無回答」が183戸(42.2%)で最も多く、次いで「農林水産物が安定的に売れるので賛成」が103戸(23.7%)、「わからない」が63戸(14.5%)、「地域の名が売れるので賛成」が47戸(10.8%)、「連携する企業で、規格が異なることが不安」が17戸(3.9%)、「安定量を求められるので不安」が13戸(3.0%)、「反対」と「その他」がともに4戸(0.9%)の順であった。



n= 434

回答選択肢	回答数	割合
1 農林水産物が安定的に売れるので賛成	103	23.7
2 地域の名が売れるので賛成	47	10.8
3 安定量を求められるので不安	13	3.0
4 連携する企業で、規格が異なることが不安	17	3.9
5 反対	4	0.9
6 わからない	63	14.5
7 その他	4	0.9
8 無回答	183	42.2
合計	434	100.0

問55選択肢7「その他」の内容
記述式

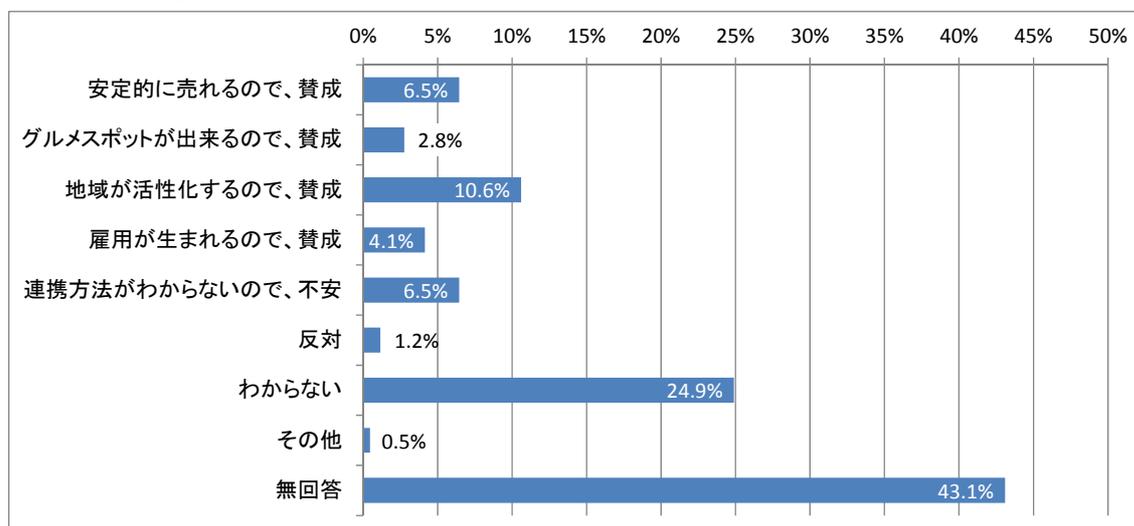
n= 4

	回答選択肢	回答数	割合
1	一部の人だけが恩恵を受けるだけ	1	25.0
2	行政主導では無理、もっとモラルを高めるべき	1	25.0
3	信頼できる企業ならば良い	1	25.0
4	農林水産業者と事業者の両者が、合意できる内容であれば賛成。	1	25.0
	合計	4	100.0

問56 商業・観光・医療などの様々な異業種を巻き込み、地域の食・人材・技術を有機的に結びつけ、新たな製品や販路開拓を目的に新たな「食」とビジネス展開をしてみたいと思いますか。該当する番号1つに、○をつけてください。

●地域の異業種との連携および、新たな製品と販路開拓

地域の異業種との連携および、新たな製品と販路開拓は、「無回答」が187戸（43.1%）で最も多く、次いで「わからない」が108戸（24.9%）、「地域経済が活性化するので、やってみたい」が46戸（10.6%）、「農林水産物や地域の名が売れるので、やってみたい」と「どのように異業種と連携していくのか、わからないので不安」がともに28戸（6.5%）、「新たな雇用の可能性があるので、やってみたい」が18戸（4.1%）、「新たな特産物やグルメスポットができるので、やってみたい」が12戸（2.8%）、「反対」が5戸（1.2%）、「その他」が2戸（0.5%）の順であった。



n= 434

回答選択肢	回答数	割合
1 農林水産物や地域の名が売れるので、やってみたい	28	6.5
2 新たな特産物やグルメスポットができるので、やってみたい	12	2.8
3 地域経済が活性化するので、やってみたい	46	10.6
4 新たな雇用の可能性があるので、やってみたい	18	4.1
5 どのように異業種と連携していくのか、わからないので不安	28	6.5
6 反対	5	1.2
7 わからない	108	24.9
8 その他	2	0.5
9 無回答	187	43.1
合計	434	100.0

問56選択肢8「その他」の内容

記述式

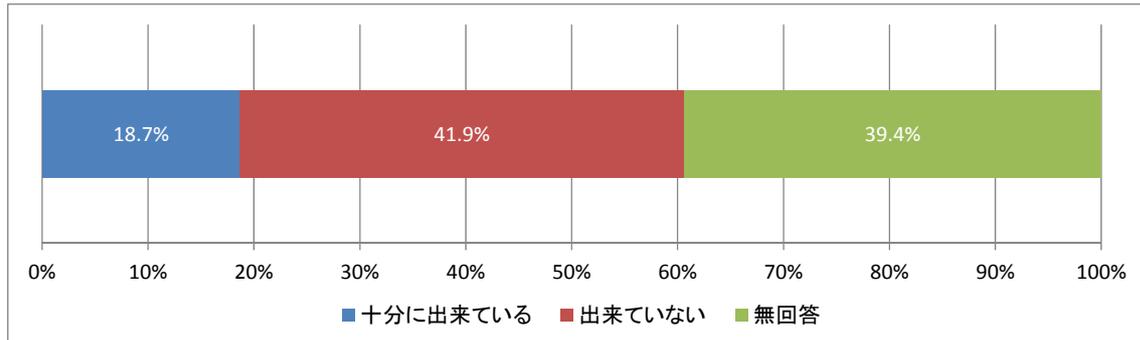
n= 2

回答選択肢		回答数	割合
1	千々石町に「ちぢわんもん」が立ち上がったので、参考にしてもらいたい。	1	50.0
2	農林水産業者と事業者の両者が、合意できる内容であれば賛成。	1	50.0
合計		2	100.0

問57 あなたは、雲仙市の農林水産業施策について、行政の対応は十分に出来ていると思いますか。

●雲仙市の農林水産業施策について

雲仙市の農林水産業施策については、「出来ていない」が182戸（41.9%）で最も多く、次いで「無回答」が171戸（39.4%）、「十分に出来ている」が81戸（18.7%）の順であった。



n= 434

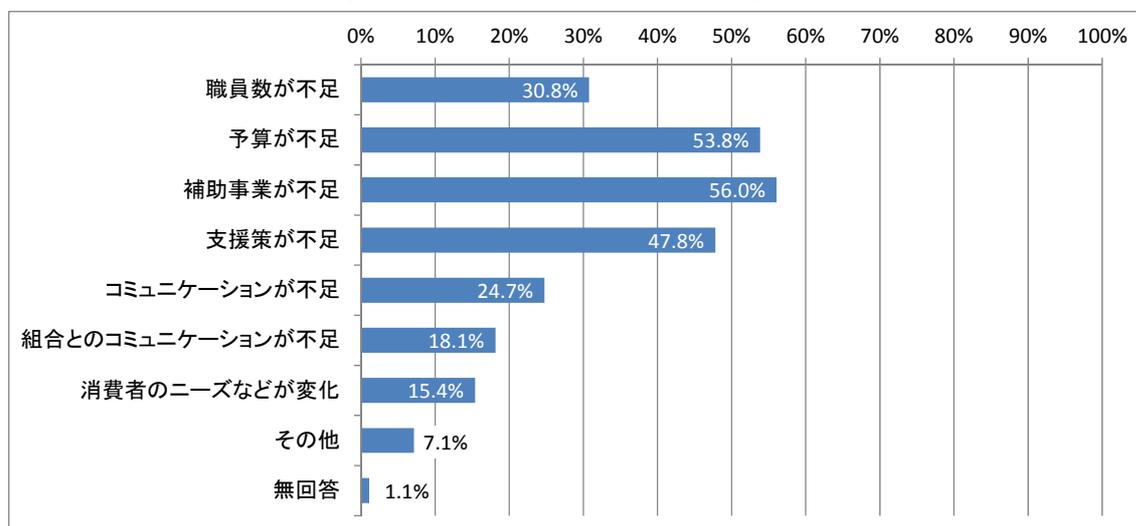
回答選択肢		回答数	割合
1	十分に出来ている	81	18.7
2	出来ていない	182	41.9
3	無回答	171	39.4
合計		434	100.0

問57で、「2 いいえ（出来ていない）」とお答えになった方にお伺いします。

問58 あなたは、農林水産業の振興策が思うように進まない原因は何だと思えますか。
該当するもの、3つまで○をつけてください。

●農林水産業の振興策が進まない原因

農林水産業の振興策が進まない原因は、「農林水産業関係の補助事業が不足している」が102戸（56.0%）で最も多く、次いで「農林水産業関係の予算が不足している」が98戸（53.8%）、「農林水産業関係の支援策が不足している」が87戸（47.8%）、「農林水産業関係に関わる職員数が不足している」が56戸（30.8%）、「農林水産課とのコミュニケーションが不足している」が45戸（24.7%）、「農協、森林組合、漁協とのコミュニケーションが不足している」が33戸（18.1%）、「消費者のニーズ、食生活、嗜好が変化してきたから」が28戸（15.4%）、「その他」が13戸（7.1%）、「無回答」が2戸（1.1%）の順であった。



問57で選択肢2「いいえ（出来ていない）」と回答
複数回答：3つまで

		n = 182	
	回答選択肢	回答数	割合
1	農林水産業関係に関わる職員数が不足している	56	30.8
2	農林水産業関係の予算が不足している	98	53.8
3	農林水産業関係の補助事業が不足している	102	56.0
4	農林水産業関係の支援策が不足している	87	47.8
5	農林水産課とのコミュニケーションが不足している	45	24.7
6	農協、森林組合、漁協とのコミュニケーションが不足している	33	18.1
7	消費者のニーズ、食生活、嗜好が変化してきたから	28	15.4
8	その他	13	7.1
9	無回答	2	1.1
	合計	464	254.9

※回答選択肢の「無回答」は、問58の全ての設問に無回答であったもの。

問58選択肢8「その他」の内容

記述式

n= 13

	回答選択肢	回答数	割合
1	どのようなことをやっているのか、よくわからない	1	7.7
2	マーケットへのリサーチが欠けているし、商品開発に探究心が無い。調査が不足している。	1	7.7
3	将来像を語り、必要な施策を作ること。	1	7.7
4	少子高齢化	1	7.7
5	職員が事務に追われている。	1	7.7
6	色々な魚の旬の時期と食べ方を、消費者は知らない ので、そのアピール。	1	7.7
7	大規模農家を優遇しすぎる	1	7.7
8	地域の独自性を、世界的な動向や変化に活かす支援 策が不足している。	1	7.7
9	能力不足	1	7.7
10	補助事業の条件が厳しく、足枷になっている。	1	7.7
11	野菜の価格が安定すれば、農業に活気が出る	1	7.7
12	無回答	2	15.4
	合計	13	100.0

ご意見・ご希望などがありましたら、自由にご記入ください。

●自由意見

回答者の属性	回答内容
国見町 66歳 男性 農業従事	雲仙市農林水産業振興計画の策定は大変だと思いますが、10年先を見通し、素晴らしい振興計画が出来上がるように期待しています。
国見町 61歳 男性 農業従事	私の住んでいる神代山ノ上地区は約100軒の地区で、他の地区に比べ高齢化の進行も早いように思えます。そんな中にも7人程の後継者が居りますので、地区全体で見守り、育てていきたいと思っています。行政側も私達を良き方向に導くような振興策をお願いしたい。
国見町 64歳 女性 農業従事	温室やハウスに補助を使わず、自前で建てた人には資産税等を免除してもらいたい。1.4%は高すぎて、やる気をなくす。
国見町 44歳 男性 農業従事	農業経営は年々利益が薄くなります。野菜の値段は変わらずに生産コストだけが上がっていき、大変です。利益を確保するには農地面積を増やし、経営規模を拡大して行くしかありませんが、リスクが大きすぎます。
国見町 43歳 男性 農業従事	今後も地域の発展につながることであれば、協力します。頑張ってください。
国見町 70歳 男性 水産業従事	神代漁港の浮棧橋の修理をお願いします。
国見町 68歳 男性 水産業従事	東里の四面宮～石原建設間の側溝が大雨の時に、水が溢れる。改修をお願いしたい。
国見町 66歳 男性 水産業従事	<ul style="list-style-type: none"> ・非水門を開けてほしくない。「あわ」と「汚し」、「ガタ」等が海の底に蓄積して浅くなり、網の汚しとイカリが効かない。 ・テレビ局の取材や視察に組合など上の人達は嘘を言い、漁業者の意見は役所に全く届かない。 ・水を綺麗にして、潮の流れを良くして欲しい。このままでは漁業者は皆、潰れてしまう。

回答者の属性	回答内容
瑞穂町 64歳 男性 農業従事	雲仙市の農林水産課の事業には、感謝することが多くあります。但し、事業を推進するに当たっては、臨機応変な対応をお願いしたい。農家の希望と行政の対応が必ずしも一致しないことがある。農業振興のためにもやる気のある農家に対しては、臨機応変な対応をお願いしたい。
瑞穂町 60歳 男性 農業従事	<ul style="list-style-type: none"> ・施設園芸をしているが、施設の老朽化により修理等に毎年経費が掛かる。新規施設の建設は現状無いので、修理・改善等にも補助事業を拡充して欲しい。 ・加温用重油の助成継続をお願いします。 ・重油タンクも古くなり、油漏れの心配がある。農協等と連携し、タンクの点検・取り替えに助成はできないだろうか。油漏れ等の保険もあると聞かすが、詳細な情報があれば欲しい。
瑞穂町 70歳 男性 農業従事	アンケートに書かれているような対応では、日本の農業は壊滅してしまう。土地を地域や地区ごとに一体化した農業経営に利用しなければ、日本の未来はない。
瑞穂町 27歳 男性 農業従事	希望などが沢山ありますので、直接市役所に赴き、相談したいと思います。
瑞穂町 53歳 男性 農業・林業従事	イノシシの被害が酷く、10年後には耕作者はいなくなる。殺処分も含め、真剣に考えて頂きたい。
瑞穂町 62歳 男性 水産業従事	豊かな海を取り戻すために、水門の開放を実施してほしい。元の海へ戻してほしい。
吾妻町 55歳 男性 農業従事	TPPが成立すると、農産物価格が低下する不安がある。
吾妻町 65歳 男性 農業・林業従事	人材育成が必要。
愛野町 53歳 男性 農業・林業従事	数年前に融資型経営安定事業に申し込んだ時に、「コンバインで9ha作付されますか？」との質問があり、思わずバカかと思った。9haの水稲作付は東北や北海道の話だろう。当地域に適した事業で活性化を図ってほしい。
千々石町 年齢不明 男性 農業従事	多品種栽培では各地との競争となり、結果として農産物価格の低迷に繋がっていると思う。地域ブランド品種が出てくれば、価格も上がり活性化すると思う。

回答者の属性	回答内容
小浜町 48歳 男性 農業従事	<p>人口が減少している昨今、農産物の生産量を増やしても農産物価格が下がるので、農家は苦しいだけ。税金も高く、機械代を払うために働いているようなもの。</p> <p>現況を雲仙市と県も、もう少し知ってほしい。</p>
小浜町 50歳 男性 農業従事	<p>アンケートも必要だとは思いますが、地域や農産物ごとに考え方や必要な施策も違うと思います。直接会って話を聞くことが大事だと思います。</p>
小浜町 67歳 男性 農業従事	<p>30年後の小浜町の人口は現在の1/4にまで減少するとの意見が出ていますが、それに見合う農業対策を早急に立てるべき。まずは10年後の計画を立案し、我々に提示して頂きたい。また、行政は認定農業者を優先して施策を進めているが、一般農業者に対しても配慮を願いたい。</p>
小浜町 45歳 男性 農業従事	<p><u>①地産地消の推進・支援策（物的資源）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・雲仙市、島原半島という地域の中で消費される農林水産物の生産、加工、販売。 ・農林水産業者とその農林水産物を取り扱う事業者の地産地消域内での拠点づくり。 ・農林水産業者と事業者の両者が合意できる内容の連携。 <p><u>②農林水産業者定住の推進・支援策（人的資源）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政運営によるI、J、Uターン移住者への住居提供の仲介、低料金賃貸。 ・行政運営による援農隊などの作業労働力の小規模農林水産業者への無料提供。 ・行政運営によるグリーンツーリズム、ブルーツーリズムの運営。 <p><u>③環境保全型農林水産業の推進・支援策（環境問題）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・安心安全な農林水産物を提供する農林水産業者への雲仙市による環境保全費の給付。 ・安心安全な農林水産物を提供する直売所の雲仙市による各町内への設置、運営。 ・安心安全な農林水産物の労働に見合った報酬での正当価格の取り引き。

回答者の属性	回答内容
小浜町 79歳 男性 水産業従事	<ul style="list-style-type: none"> ・若い人が安定して生活できる収入の確保。 ・地域で働く場所があり、そこで家庭を築けるようにすれば、若者は増える。 ・知恵を出し合って、ふるさとを活性化して頂きたい。
南串山町 46歳 男性 農業従事	小浜、千々石線の道路を通りやすくして欲しい。南串山町にも水を分けて欲しい。
南串山町 50歳 男性 農業従事	農地の流動化、賃借相手の情報等を市のホームページ等で知らせてほしい。
南串山町 47歳 男性 農業従事	<ul style="list-style-type: none"> ・補助事業の予算も足りないし、食生活の変化やグローバル化など環境の変化へスピーディーに対応して欲しい。 ・もうかる産業にすれば人材はついてくる。そのためには、生産基盤を徹底すべき。 ・行政と農家を繋ぐものとして、農水課の職員との連携を強化すべき。また、国の施策に対しても提言できるような仕組みも必要。
南串山町 58歳 男性 農業従事	<ul style="list-style-type: none"> ・食べて行くために一生懸命働いているものの、税金に持って行かれる。 ・馬鈴薯や野菜等の売り込みを、市・農協・生産者が一体となり行えないのか。 ・後継者がいる世帯には補助事業があるが、いない所にはあまり利用させてもらえない。
南串山町 53歳 男性 水産業従事	諫早干拓の影響と解決。海の水質環境の変化に伴い、魚種の変化への対策。農業後継者に支援はあっても、水産業後継者には支援はない。
町名不明 年齢不明 男性 水産業従事	昭和39年以来、漁業を営んでいますが、現状では子や孫に漁師をやらせようとは思わない。

5. 雲仙市農林水産業の課題整理

アンケート調査、ヒアリング調査から導きだされる課題を、農業は①「労力」、②「ほ場条件」、③「雲仙ブランドの確立と高付加価値化」、④「6次産業化」、⑤「融資制度」に、林業は⑥「山林の境界明確化」、⑦「幼齢林の育成」、⑧「作業道の整備」に、水産業は⑨「水産資源の保全」、⑩「販路拡大」、「漁場の海域改善と整備」の11つの項目に分けて整理します。

①労力

○農業経営を行う上で、悩み・問題点			
	現況特性	アンケート調査	●「農業資材の価格高騰」が218戸(67.9%)で最も多く、次いで、「ひと(労働力)」が193戸(60.1%)、「農畜産物の販売価格低迷」が147戸(45.8%)、「農業機械の価格、耐用年数」が83戸(25.9%)、「農地」が76戸(23.7%)であった。
		ヒアリング調査	
	課題		●産地として、労力を確保していくことが大きな課題です。
○ひとに対する具体的な悩み・問題点			
	現況特性	アンケート調査	●「規模拡大をしたいが、労働力不足」が69戸(35.8%)で最も多く、次いで、「後継者がいない」が41戸(21.2%)、「パート求人をしていても人材が確保できない」が40戸(20.7%)、「人件費が高い」が27戸(14.0%)であった。
		ヒアリング調査	●重量野菜の収穫期、イチゴパック詰め労力が不足している。 ●農援隊、ヘルパーだけでは労力が不足している。
	課題		●産地として、規模拡大意向が多いが、労力が不足しているため、労力の確保が大きな課題である。 ●収穫期に体力がある若い労力数が必要である。
○地域農業存続の上で重要事項			
	現況特性	アンケート調査	●「労働力の確保・育成」が199戸(53.1%)で最も多く、次いで、「農業生産基盤の整備」が81戸(21.6%)、「農畜産物の高付加価値化」が80戸(21.3%)、「農業機械や施設の整備」が74戸(19.7%)、「農地の利用集積」が68戸(18.1%)の順であった。
		ヒアリング調査	●労力の確保と、ほ場条件の整備が必要である。
	課題		●産地として、労力を確保していくことが大きな課題です。
○担い手を確保・育成するために必要事項			
	現況特性	アンケート調査	●「意欲ある農業者への融資制度等の充実」が182戸(48.5%)で最も多く、次いで、「農業技術の指導と向上」が122戸(32.5%)、「農家の後継者やUターン者に対する支援の充実」が96戸(25.6%)、「未婚の農業者のために、出会いの場を設ける」が78戸(20.8%)であった。
		ヒアリング調査	
	課題		●意欲ある農業者への支援が必要である。

②ほ場条件

○農業経営を行う上で、悩み・問題点			
現況 特性	アンケート 調査	●「農業資材の価格高騰」が 218 戸 (67.9%) で最も多く、次いで、「ひと (労働力)」が 193 戸 (60.1%)、「農畜産物の販売価格低迷」が 147 戸 (45.8%)、「農業機械の価格、耐用年数」が 83 戸 (25.9%)、「農地」が 76 戸 (23.7%) であった。	
	ヒアリング 調査		
	課題	●ほ場条件の整備が必要である。	
○農地に対する具体的な悩み・問題点			
現況 特性	アンケート 調査	●「基盤整備などが行われておらず、営農条件が悪い」が 39 戸 (51.3%) で最も多く、次いで、「規模拡大をしたいが、農地が見つからない」が 31 戸 (40.8%) であった。	
	ヒアリング 調査	●ほ場条件の整備が遅れているため、ほ場条件の整備を進め、労力の低減を図りたい。	
	課題	●ほ場条件の整備が必要である。 ●農地の借り手と貸し手のマッチングが進んでいない。	
○地域農業存続の上で重要事項			
現況 特性	アンケート 調査	●「労働力の確保・育成」が 199 戸 (53.1%) で最も多く、次いで、「農業生産基盤の整備」が 81 戸 (21.6%)、「農畜産物の高付加価値化」が 80 戸 (21.3%)、「農業機械や施設の整備」が 74 戸 (19.7%)、「農地の利用集積」が 68 戸 (18.1%) の順であった。	
	ヒアリング 調査		
	課題	●ほ場条件の整備が必要である。 ●農地の借り手と貸し手のマッチングが進んでいない。	
○10年後の経営耕地の規模			
現況 特性	アンケート 調査	●「現状のまま」が 194 戸 (51.7%) で最も多く、次いで「拡大したい」が 99 戸 (26.4%)、「縮小したい」が 65 戸 (17.3%) であった。 ●「周辺の農地を利用集積して拡大したい」が 77 戸 (77.8%) で最も多かった。	
	ヒアリング 調査		
	課題	●ほ場条件の整備が必要である。 ●農地の借り手と貸し手のマッチングが進んでいない。	
○必要な農業生産基盤整備			
現況 特性	アンケート 調査	●「ほ場区画の整理・大型化 (ほ場整備)」が 228 戸 (60.8%) で最も多く、次いで「農道」が 161 戸 (42.9%)、「用水施設 (開水路、パイプライン、揚水機場、ため池)」が 123 戸 (32.8%)、「農地造成 (採草放牧地など)」が 87 戸 (23.2%) であった。	
	ヒアリング 調査	●ほ場条件の整備が遅れているため、ほ場条件の整備を進め、労力の低減を図りたい。	
	課題	●ほ場条件の整備が必要である。	

③雲仙ブランドの確立と高付加価値化

○10年後の雲仙市のあるべき農業の姿		
現況 特性	アンケート 調査	●「雲仙ブランドを確立させ、農業所得の向上を図るべき」が235戸(62.7%)で最も多く、次いで「高付加価値をつけた体制の整備と確立を推進するべき」が178戸(47.5%)、「食の安全安心をいっそう確立し、産地としての信用をより高めるべき」が158戸(42.1%)、「大規模化を進めて高効率・低コストの農業を推進するべき」が124戸(33.1%)であった。
	ヒアリング 調査	●産地として、生産に特化していく。
課題		●他の産地と差別化を図る必要がある。 ●食の安全安心の確立し、産地としての信用度を高める必要がある。

④6次産業化

○農畜産物の加工や流通など6次産業化		
現況 特性	アンケート 調査	●「やってみたいとは思わない」が133戸(35.5%)で最も多く、次いで「条件次第でやってみたいと思う」が78戸(20.8%)、「わからない」が74戸(19.7%)の順であった。
	ヒアリング 調査	●規格外は、県外に出荷しているが、JAとして、6次産業化は考えていない。生産に特化する。
課題		●規格外の農産物は、できる限り市内で水産物とセットにした加工品を女性の完成を活かした開発を行い、6次産業化のほか、医福食農との連携を図り、雇用の創出を図っていく必要がある。
○野菜のカット工場が建設・操業した場合の出荷意向		
現況 特性	アンケート 調査	●「安定的な収入が見込めるので、出荷したい」が133戸(35.5%)で最も多く、次いで「わからない」が88戸(23.5%)の順であった。
	ヒアリング 調査	●規格外は、県外に出荷しているが、カット工場の整備は考えていない。
課題		●規格外の農産物は、できる限り市内で水産物とセットにした加工品を女性の完成を活かした開発を行い、6次産業化のほか、医福食農との連携を図り、雇用の創出を図っていく必要がある。
○惣菜工場が建設・操業した場合の出荷意向		
現況 特性	アンケート 調査	●「安定的な収入が見込めるので、出荷したい」が123戸(32.8%)で最も多く、次いで「わからない」が94戸(25.1%)の順であった。
	ヒアリング 調査	●規格外は、県外に出荷しているが、惣菜工場の整備は考えていない。

⑤融資制度

○生産者の立場から行政に期待すること		
現況 特性	アンケート 調査	<ul style="list-style-type: none"> ●「融資制度への対策」が 151 戸（40.3%）で最も多く、次いで「担い手への対策」が 134 戸（35.7%）、「経営体への対策」が 123 戸（32.8%）、「農畜産物価格への対策」が 119 戸（31.7%）、「土地改良施設の整備や更新への対策」が 88 戸（23.5%）、「生産技術への対策」と「T P P への対応」がともに 74 戸（19.7%）の順であった。
	ヒアリング 調査	<ul style="list-style-type: none"> ●ほ場条件の整備、労力支援、認定農業者の年齢見直し
課題		<ul style="list-style-type: none"> ●意欲ある農業者への支援が必要である。 ●みんなで描くキラリと光る雲仙産地の認知度アップを図っていく必要がある。 ●ほ場条件の整備が必要である。 ●産地として、規模拡大意向が多いが、労力が不足しているため、労力の確保が大きな課題である。 ●収穫期に体力がある若い労力数が必要である。

⑥山林の境界明確化

○山林境界の把握			
	現況 特性	アンケート 調査	●「概ね把握している」が33戸(64.7%)で最も多く、次いで「把握していない」が9戸(17.6%)、「明確に把握している」が7戸(13.7%)の順であった。
		ヒアリング 調査	●以前、所有者は境界を把握していた。しかし、山林に魅力がないことと、山林で行かないことで改廃が進んでいるほか、山林の成長とともに、現地で、境界が分からなくなってきた現況にある。杭があれば、把握できるが、杭がないため、境界が曖昧なところが多い。
	課題		●山林の魅力を失っている。 ●人が管理しなくなったため、山林の改廃が進行している。 ●境界が分からなくなってきた。
○山林に行く頻度			
	現況 特性	アンケート 調査	●「その他」が16戸(31.4%)で最も多く、次いで「2～3年に1回」と「行ったことがない」がともに10戸(19.6%)、「1年に1回」が7戸(13.7%)、「半年に1回」が6戸(11.8%)、「月に1回」が2戸(3.9%)の順であった。
		ヒアリング 調査	●以前は、手入れを所有者が実施していたため、山林に行っていたが、現在は、殆ど手入れをしていないため、山林に出向かない所有者が多く、山林の改廃が進んでいる。
	課題		●人が管理しなくなったため、山林の改廃が進行している。
○山林の間伐作業			
	現況 特性	アンケート 調査	●「何もしていない」が35戸(68.6%)で最も多く、次いで「自分で行っている」が9戸(17.6%)、「森林組合に委託している」が5戸(9.8%)であった。
		ヒアリング 調査	●森林組合が担っていくことが相応しいが、境界が明確でないため、境界を所有者が健在のうち、明確にしておく必要がある。 ●間伐材を利用するため、作業道の整備ができていないと困難である。 ●人が出入りしない作業道は、作業道のほか、山林が管理できていない。
	課題		●境界の明確化しておく必要がある。 ●作業道の整備が必要である。 ●人が出入りしない作業道は、作業道のほか、山林の改廃が進行している。

⑦幼齢林の育成

○今後の山林の管理			
	現況 特性	アンケート 調査	<ul style="list-style-type: none"> ●「山林は自分で保持したいが、管理等は森林組合等に委託したい」が16戸(31.4%)で最も多く、次いで「自分で管理を行い、山林として維持したい」が14戸(27.5%)、「誰か希望者がいれば、譲渡したい」と「無回答」がともに8戸(15.7%)、「その他」が5戸(9.8%)の順であった。
		ヒアリング 調査	<ul style="list-style-type: none"> ●山林を処分したい所有者から連絡がある。 ●森林組合が担っていくことが相応しいが、境界が明確でないため、所有者が健在のうち、境界を明確にしておく必要がある。 ●国土保全のため、幼齢林が成長するまで管理が必要である。
	課題		<ul style="list-style-type: none"> ●境界の明確化しておく必要がある。 ●幼齢林を育成していく必要がある。

⑧作業道の整備

○生産者の立場から行政に期待すること			
	現況 特性	アンケート 調査	<ul style="list-style-type: none"> ●「間伐を実施するための対策（作業道等の整備）」が18戸(35.3%)で最も多く、次いで「山林を保全している住民への支援対策」と「無回答」がともに14戸(27.5%)であった。
		ヒアリング 調査	<ul style="list-style-type: none"> ●境界の明確化が必要 ●作業道の整備と管理が必要 ●幼齢林が成長するまでの助成
	課題		<ul style="list-style-type: none"> ●境界の明確化しておく必要がある。 ●作業道の整備と管理が必要である。 ●幼齢林を育成していく必要がある。

⑨水産資源の保全

○漁業経営上の問題点		
現況 特性	アンケート 調査	<ul style="list-style-type: none"> ●「水産資源の減少」が48戸(72.7%)で最も多く、次いで「水産物価格の低迷」が35戸(53.0%)、「海域環境の変化」が32戸(48.5%)、「資材の高騰(燃料費を含む)」が30戸(45.5%)、「労働力の確保」が12戸(18.2%)、「安い輸入水産物の増加」が8戸(12.1%)、「消費量の低迷」が6戸(9.1%)、「無回答」が4戸(6.1%)、「借入金の返済」が3戸(4.5%)の順であった。
	ヒアリング 調査	<ul style="list-style-type: none"> ●橘湾東部：漁業権許可 漁場の荒廃 ごみの除去(ゴカイの大量発生) ●その他：水産資源の減少 水揚げが安定していない 海域のごみが多く、水産物価格が低迷 ●獲れる時に全て獲っている現状にある。このため、水産資源が減少している可能性があると考えられる。 ●水産資源の減少は、諫早湾の排水が原因とも考えられる。 ●タイラギとアサリが生息できる海域環境が求めている。 ●現在の海域環境に応じた漁業を展開していく必要がある。 ●陸上養殖もひとつとして考えられる。 ●海域にペットボトル、木材などが多い現状にある。このため、海域環境が変化している可能性があると考えられる。 ●海域の清掃を実施しているが、相当数があるため、改善の見通しが無い。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ●現在の海域環境を踏まえ、水産資源の保全を図っていく必要がある。 ●海域環境の状況把握を行っていく必要がある。 ●漁業権の見直しを、関係機関に要請していく必要がある。 ●現在の海域環境に応じた漁業の方策が必要である。 ●水産資源の保全を図っていく必要がある。 ●海域のごみが多いため、海域改善を図っていく必要がある。 ●漁場の整備が必要である。

⑩販路の拡大

○水産物価格向上のための取組み		
現況 特性	アンケート 調査	<ul style="list-style-type: none"> ●「水揚げまでの鮮度管理」が28戸（42.4%）で最も多く、次いで「活魚による販売」が15戸（22.7%）、「無回答」が12戸（18.2%）、「漁獲から販売までの一括取り扱い」が4戸（6.1%）、「水産物を加工して販売」と「その他」がともに3戸（4.5%）、「漁法による差別化」が1戸（1.5%）の順であった。
	ヒアリング 調査	<ul style="list-style-type: none"> ●漁業者が考えている価格でなく、バイヤーや市場の言い値になっている現状にある。このため、意欲が衰退し、高齢化で廃業する可能性があると考えられる。 ●市場は、通年、同じものを要求していくが旬がある。このため、旬のものを漁業者が考える価格で販売する方策として、雲仙市の農林水産物などを一箇所で販売できる地域食材供給施設（道の駅）が必要である。
課題		<ul style="list-style-type: none"> ●水産物価格の低迷しているため、販路の拡大を図る必要がある。

⑪漁場の海域改善と整備

○水産物価格向上のための取組み		
現況 特性	アンケート 調査	<ul style="list-style-type: none"> ●「漁場造成への対策」が32戸（48.5%）で最も多く、次いで「漁場の環境保全への対策」が27戸（40.9%）、「栽培漁業の推進への対策」が24戸（36.4%）、「水産物価格への対策」が23戸（34.8%）、「漁港整備への対策」が12戸（18.2%）であった。
	ヒアリング 調査	<ul style="list-style-type: none"> ●漁場の整備、意欲ある漁業者に対応できる施策、漁業者が考えている価格で販売できる直売所の整備であった。
課題		<ul style="list-style-type: none"> ●漁場の海域改善を図っていく必要がある。 ●漁場の整備を行っていく必要がある。 ●水産物価格の低迷しているため、販路の拡大を図る必要がある。